

自己紹介

- 後藤 諭史(Satoshi GOTO)
- 三井情報株式会社 IT技術基盤本部 クラウドサービス技術部 所属
- 仮想化製品が主な専門分野です。
 - Hyper-V や SCVMM 等々の Microsoft 仮想化製品
 - XenApp や XenDesktop といった Citrix 社製品
 - あと、ネットワーク関連もそれなりにやってます
- Microsoft MVP System Center Cloud and Datacenter Management (Jul.2012 - Jun.2013)

はじめに

- これからお話しする Windows Server 2012 Network Virtualization の技術詳細は、 おそらく(というか、確実に)氷山の一角です。
- 不明点や調査しきれていない個所があるかもしれないことを、あらかじめお詫びしておきます。
- この資料やセッション内で触れなかったこと、間違っている事柄をご存じの方がいらっしゃいましたら、是非情報交換をお願いいたします。

目的とゴール

セッションの目的

- Windows Server 2012の新機能である『Network Virtualization』の概要や、検証を通して確認した機能詳細を解説します。
- SystemCenter 2012 Virtual Machine Manager SP1 の機能概要、検証を通して確認した機能詳細を解説します。

・セッションのゴール

- 『Network Virtualization』の概要と特徴、詳細が説明できる。
- SC2012 VMM SP1 を利用する事のメリットが説明できる。
- (個人的なゴール) 自分が持っている情報のすべてを、皆様と共有する。

アジェンダ

- NVGRE とは?
- NVGRE におけるパケットの流れ
- NVGRE におけるパケットサイズおよびフラグメンテーション処理
- PowerShell による Network Virtualization 実装
- System Center 2012 Virtual Machine Manager SP1
- Windows Network Virtualization における IP アドレス設定
- Broadcast over NVGRE
- Network Virtualization Gateway
- NVGRE ホスト側負荷評価
- まとめ
- Q & A
- Appendix A: IP Rewrite とは?(軽く)
- Appendix B: Network Virtualization の PowerShell での実装例

公式リファレンス

NVGRE draft RFC

http://tools.ietf.org/html/draft-sridharan-virtualization-nvgre-02

Hyper-V ネットワーク仮想化の概要

http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/jj134230.aspx

Simple Hyper-V Network Virtualization Demo

http://gallery.technet.microsoft.com/scriptcenter/Simple-Hyper-V-Network-d3efb3b8

Simple Hyper-V Network Virtualization Script with Gateway

http://gallery.technet.microsoft.com/scriptcenter/Simple-Hyper-V-Network-6928e91b

MMS2013 How to Design and Configure Networking in VMM and HyperV

http://channel9.msdn.com/Events/MMS/2013/WS-B312 (Part 1 of 2)

http://channel9.msdn.com/Events/MMS/2013/WS-B313 (Part 2 of 2)

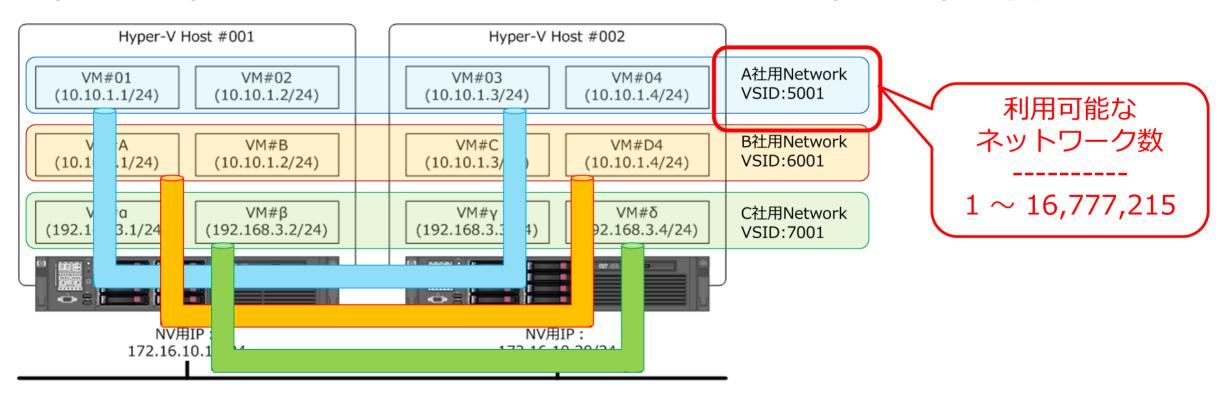
Hyper-V Network Virtualization Packet Flow

http://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=34782

NVGRE とは?

NVGRE とは?

- 仮想マシンの通信(Packet)を GRE (Generic Routing Encapsulation)プロトコルで カプセル化し、物理 Network ではカプセル化した状態(GRE Packet)で通信を行う、 カプセル方式のトンネル技術
- トンネル(カプセル)の識別には 24bit の Virtual Subnet ID (VSID) を使用



アクセススイッチ(仮想化モジュール)でカプセル化処理を行う為、仮想マシンは 仮想ネットワークを全く意識しない

NVGRE のポイント

• L2 over L3

- ▶ GRE で L2 フレームをカプセル化してしまう為、オリジナルは完全に隠ぺいされる → 但し、 GRE はカプセル化するだけであり、 Packet の暗号化は行わない
- ➤ カプセル化のオーバーヘッドは 42byte
- ➤ Layer3 でのカプセル化である為、 WAN 越えが容易

24 bit の Virtual Subnet ID (VSID)

- ▶ 1-16,777,215 までの仮想ネットワークが設定可能
- ▶ 但し、Windows Server 2012 の仕様により、使用できる VSID は 4,097 から 16,777,214 の範囲 → 16,777,215 (FFFFFF) はシステムが予約しているため、使用不可
- ➤ Packet Capture すると Flow ID (8bit)との組み合わせで、32 bit (4byte)の Key として表示

• 『FlowID』とは?

- ▶ マルチパス ネットワークで負荷分散を行う為の NVGRE 固有の実装
- NVGRE 対応 Router であれば、等コストマルチパス (ECMP) バランシング可能

使い分けガイドライン (TechNet ※より)

	NVGRE	IP Rewrite
•	スケーラビリティに優れているため、ほとんどのシナリオ に推奨	現時点では、10Gbps を必要とする仮想マシンなどの 高パフォーマンスシナリオに適している
•	現在のネットワークインフラストラクチャハードウェアと	
•	互換性がある 1 ホストにつき 1 つの IP アドレスで済む為、スイッチの	※ NVGRE 対応ハードウェアが市販されるまで待てないと いう特殊なシナリオを想定
•	負荷が低い 標準ベース: RFC 2784 および 2890 と業界サポート	
	→ NVGRE ドラフト RFC の共同作成者: Arista, Broadcom, Dell, Emulex, HP, Intel	
•	完全な MAC ヘッダーと明示的な VSID マーキングにより、	
	マルチテナントのトラフィック分析、メータリング、制御がサポートされる	SC2012 VMM SP1 では未サポート
•	NVGRE 対応ハードウェアは IP Rewriteと同程度の パフォーマンスを提供する	

NVGRE パケット構造

Outer Ethernet Header (VLAN Tag あり・18byte / VLAN Tag なし・14byte) :

送信先	送信元	VLAN タグ	Ethertype	
MAC Address	MAC Address			
(48bit)	(48bit)	(32bit)	(16bit)	
	_			

Outer IPv4 Header (20byte):

Version	IHL	ToS	Total	ID	Flags	Fragment	TTL	Protocol	Header	送信元	送信先
			Length			Offset		0x2F	Checksum	IP Address	IP Address
(4bit)	(4bit)	(8bit)	(16bit)	(16bit)	(3bit)	(13bit)	(8bit)	(8bit)	(16bit)	(32bit)	(32bit)

GRE Header (8byte):

Flags and	Protocol Type	VSID	FlowID
Version	0x6558		
(16bit)	(16bit)	(24bit)	(8bit)

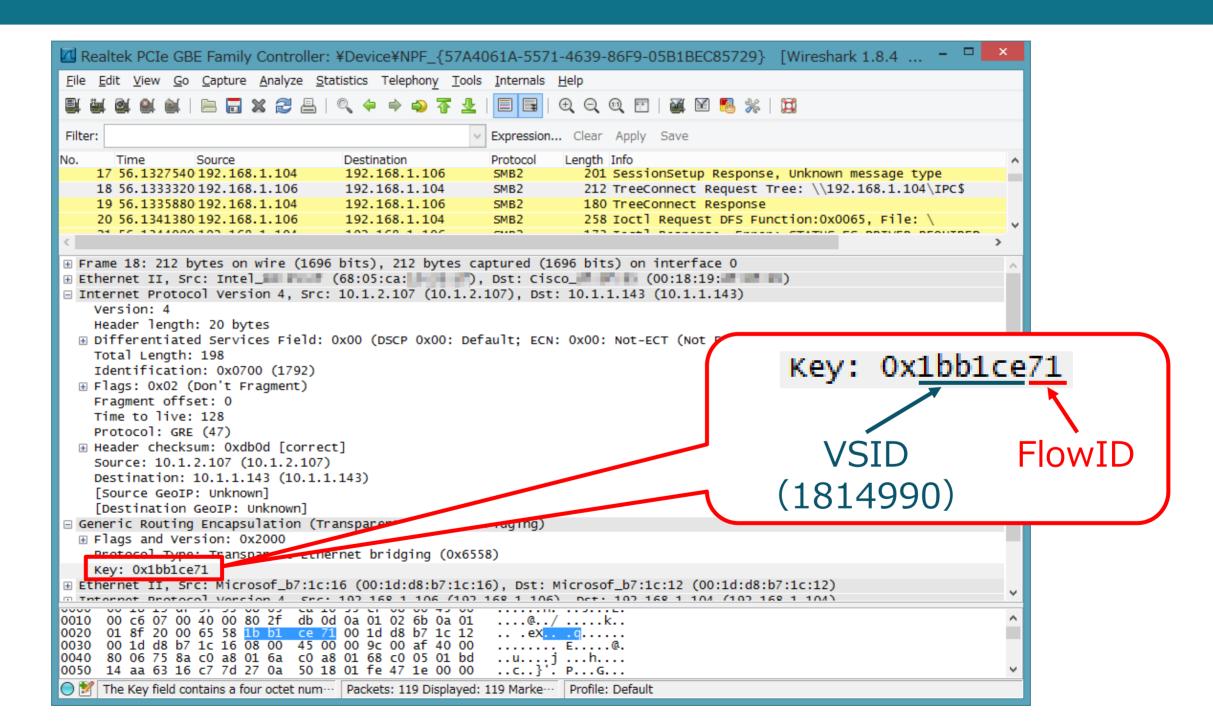


Inner Ethernet Header:

送信先 MAC Address	送信元 MAC Address	Ethertype
(48bit)	(48bit)	(16bit)



NVGRE パケットキャプチャ



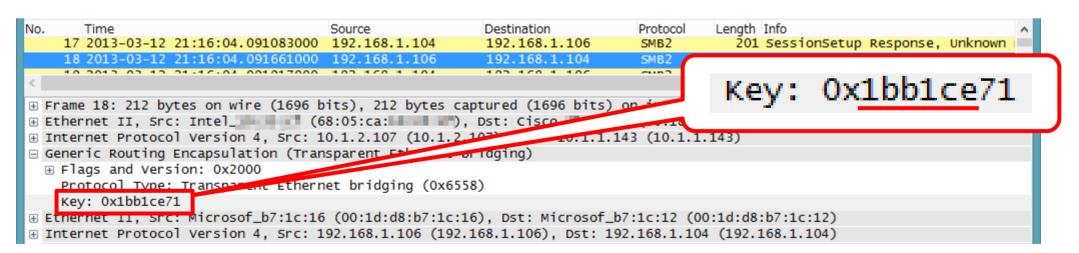
NVGRE パケット構造:注意点

```
Length Info
      Time
                                                     Destination
                                                                       Protocol
                                                      192.168.1.104
                                                                       TCP
                                                                        ICMP
                                                                                  Key: 0xa81bb1ce
⊕ Frame 77: 108 bytes on wire (864 bits), 108 bytes captured (864 bits) on interf
Ethernet II, Src: Intel______ (68:05:ca: _______), Dst: Cisco_______
Internet Protocol Version 4, Src: 10.1.2.107 (10.1.2.107), Details
Generic Routing Encapsulation (Transparent Ethernet
 Protocol Type: Transparent Ft ...ec bridging (0x6558)
   Kev: 0xa81bb1ce

⊕ Etnernet 11, src: Microsof_b7:1c:16 (00:1d:d8:b7:1c:16), Dst: Microsof_b7:1c:12 (00:1d:d8:b7:1c:12)

Internet Protocol Version 4, Src: 192.168.1.106 (192.168.1.106), Dst: 192.168.1.104 (192.168.1.104)
```

KB2779768 適用前



KB2779768 適用後

KB2779768 のポイント

- KB2779768 を適用すると、GRE Header (8byte) の Format が RFC Draft 準拠に変更 されます
 - KB2779768 は 2012/12/15 に Windows Update サイトに登録された模様
 - 『Wnv.sys』『Wnvapi.dll』というファイルが更新されます
 - ➤ KB2779768 で修正された内容が書かれた KB は見つかりませんでした
 - ➤ KB2779768 で置き換わるファイルのリスト → http://support.microsoft.com/kb/2791465
- KB2779768 が適用済みホストと未適用ホスト間では NVGRE 通信不可
 - ➤ icmp Type3 Code10 (Destination host administratively prohibited) が通知され、通信不可

Internet Control Message Protocol

Type: 3 (Destination unreachable)

Code: 10 (Host administratively prohibited)

Checksum: 0xb02a [correct]

 これから検証を開始する場合、3rd Party 実装の NVGRE 対応機器と接続試験をする場合、 必ず最新のパッチを適用してから開始してください

KB2779768 のポイント

• TechEd 2013 NA: How to Design and Configure Networking in Microsoft System Center - Virtual Machine Manager and HyperV (Part 2 of 2) より

Network fabric configuration



- Enabling network virtualization
 - WS 2012 R2 no longer requires NV filter enablement
- Configuring provider address space
 - Must have static IP pool
 - Must enable network virtualization on logical network for provider addresses

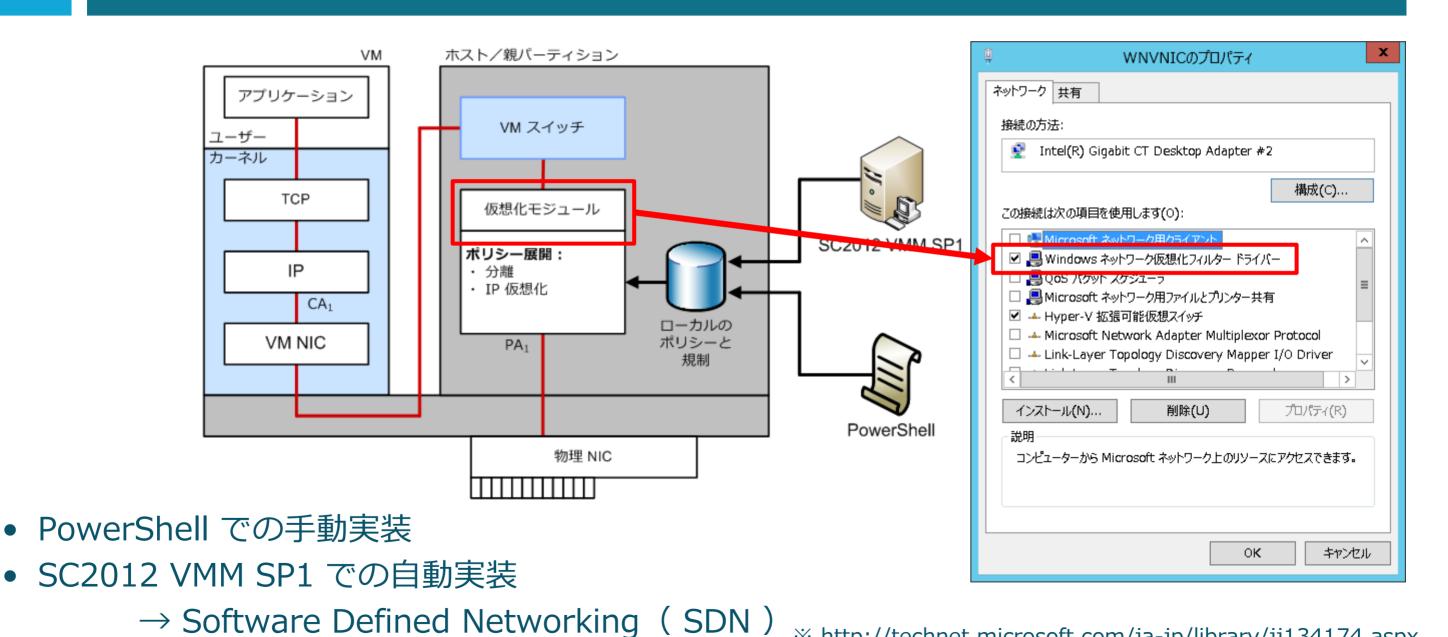
If mixing 2012 and 2012 R2 hosts, must have KB2779768 on 2012 hosts

Windows Server 2012 R2 と混在させる場合にも、必ず最新のパッチを適用してください

Network Virtualization 用語の整理

CustomerAddress	仮想マシンの IP Address 。
(CA)	テナントの IP Address とも。
ProviderAddress	トンネリング通信の終端 IP Address 。
(PA)	データセンター内の IP Address とも。
VirtualSubnetID	Network Virtualization における同一セグメントの範囲(Virtual Subnet)を表す ID 。
(VSID)	古いRFC Draft (Ver.00)では『 Tenant Network ID 』と表記されている。
RoutingDomainID (RDID)	ルーティング可能(パケット交換可能)な範囲を表す ID 。 VirtualSubnetID が異なっていても、 RoutingDomainID が同一であれば通 信可能。 同一 Network (同一の テナント)かを識別する ID といいかえる事も可能。

アーキテクチャー(TechNet ※より)



 $\% \ http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/jj134174.aspx$

【参考】 SDN を簡単に…… (1)

- Software Defined Networking の略
 - ▶ ネットワークの構成をプログラム(=ソフトウェア)で定義する、という思想/概念
 - ▶ 個々のネットワーク機器それぞれをコンフィグレーションするのではなく、ネットワーク全体の構成やトラフィックフローを統一されたプログラム手法で構成/管理してしまおうという仕組み
- 具体的な実装例としては、最近有名な『 OpenFlow 』
 - ▶ 但し、SDN は概念であり、 OpenFlow は実装の一形態である為イコールではない
- NVGRE を用いて、SC2012 VMM で『ネットワークを』『ソフトウェア的に』
 『定義できる』ので、NVGRE + SC2012 VMM は SDN の実装の一つである

【参考】 SDN を簡単に…… (2)

- SDN には『オーバーレイ型』と『ホップバイホップ型』の二種類がある
- 『ホップバイホップ型』の代表例が『 OpenFlow 』
 - ▶ 『ホップバイホップ型』は途中経路の Router / Switch に至る全ての Network 機器が対応している必要がある
 - → OpenFlow でいうと、Network 機器の全てが OpenFlow を喋れる必要がある
 - → 導入するには、既存機器のリプレース(もしくは対応 OS への入れ替え)が必要
 - → 実は、ものすごく敷居が高い
- Windows Server 2012 の Network Virtualization は『オーバーレイ型』
 - 『オーバーレイ型』では NVE (Network Virtualization Endpoint)で Network Virtualization (カプセル化)が行われる為、途中経路は NVGRE に『必ずしも』対応している必要なし
 - →対応していれば、 ECMP のような高付加機能が利用可能
 - →従来の L3 Network にそのままボルトオン可能
 - » 『ホップバイホップ型』に比べて、**低コストで導入可能**

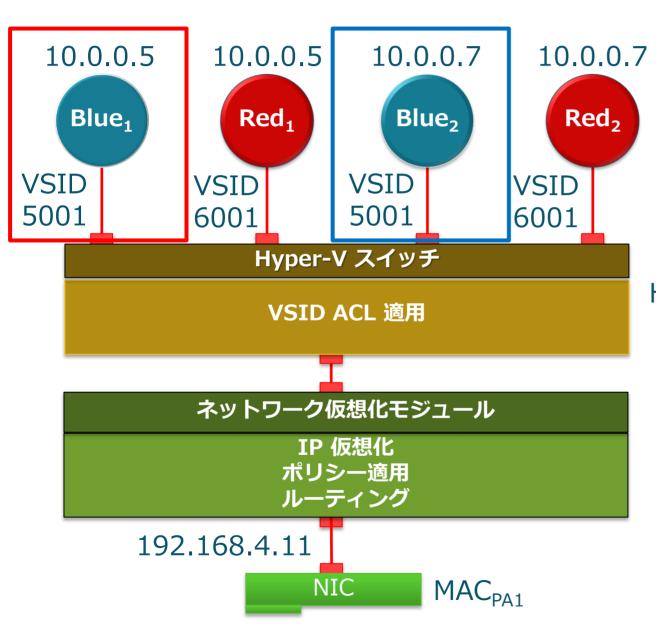
NVGRE におけるパケットの流れ

※オリジナル(英語)

http://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=34782

同じサブネットで、同じホストの場合

パケットの流れ: Blue1 から Blue2



10.0.0.7 と通信したい

ARP リクエスト: 10.0.0.7



Hyper-V スイッチがARPを転送 (ブロードキャスト転送)

- 1. VSID 5001 に属するローカル VM
- 2. ネットワーク仮想化モジュール

Blue₁ が Blue₂ の MAC を学習

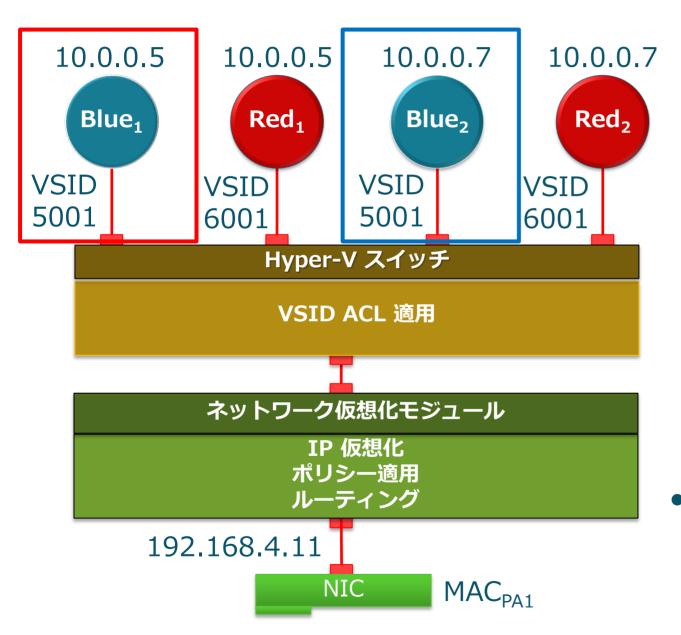
10.0.0.7 is at MAC_{B2}

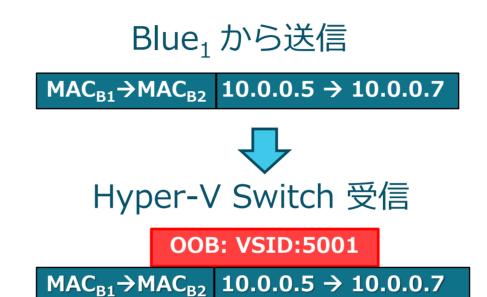


Blue₂ がARP リプライ IP 10.0.0.7 is at Blue₂ MAC (VSID 5001)



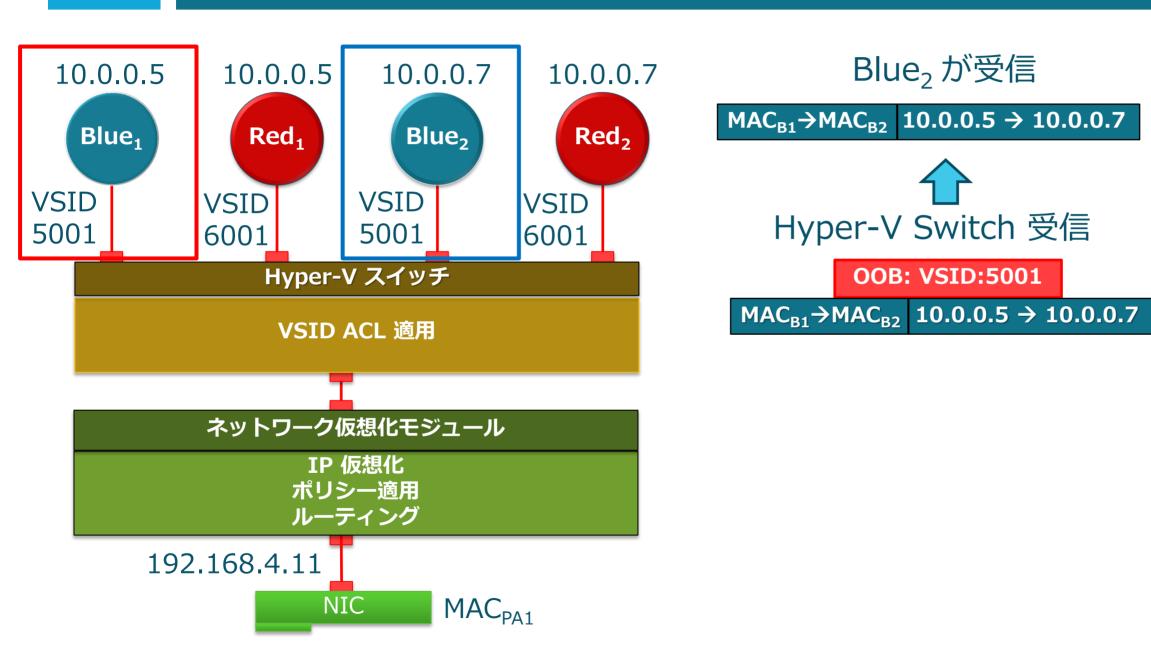
パケットの流れ: Blue1から Blue2 (送信)





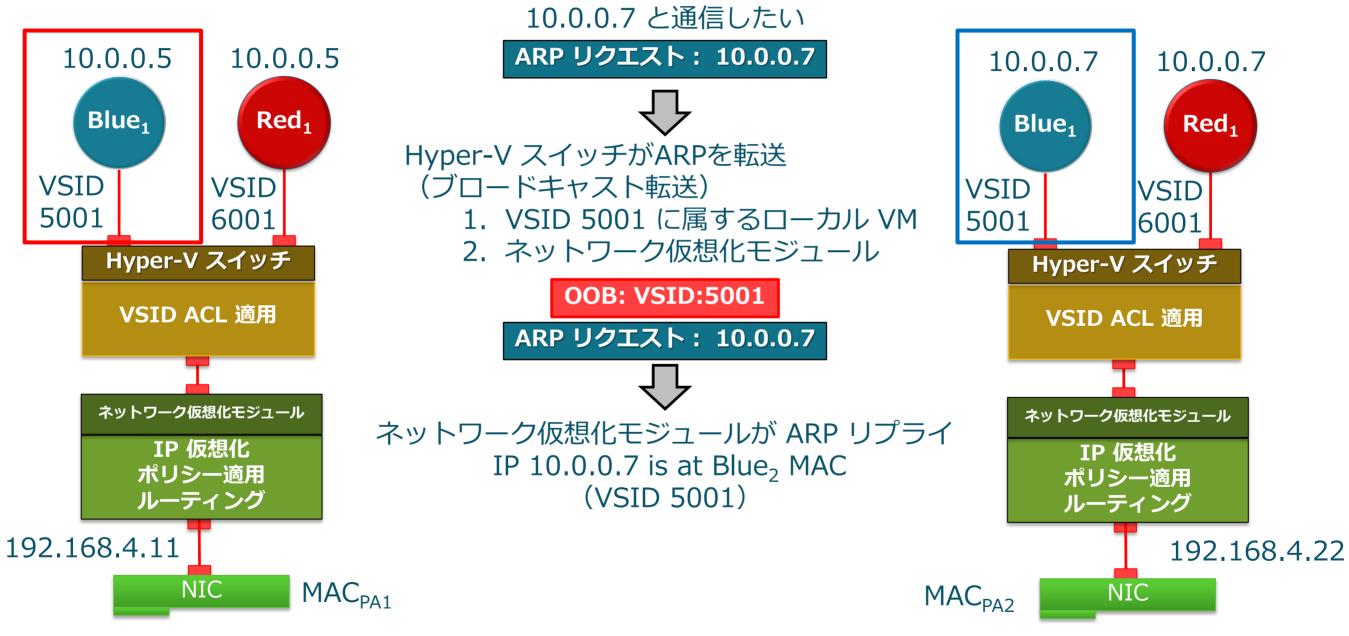
- OOB データ=帯域外データ
 - ▶ パケットの外にあって、パケットに関連付けられたデータ
 - ▶ 仮想化フィルターと Hyper-V スイッチの間での、パケットの 識別に用いられる

パケットの流れ: Blue1から Blue2 (受信)

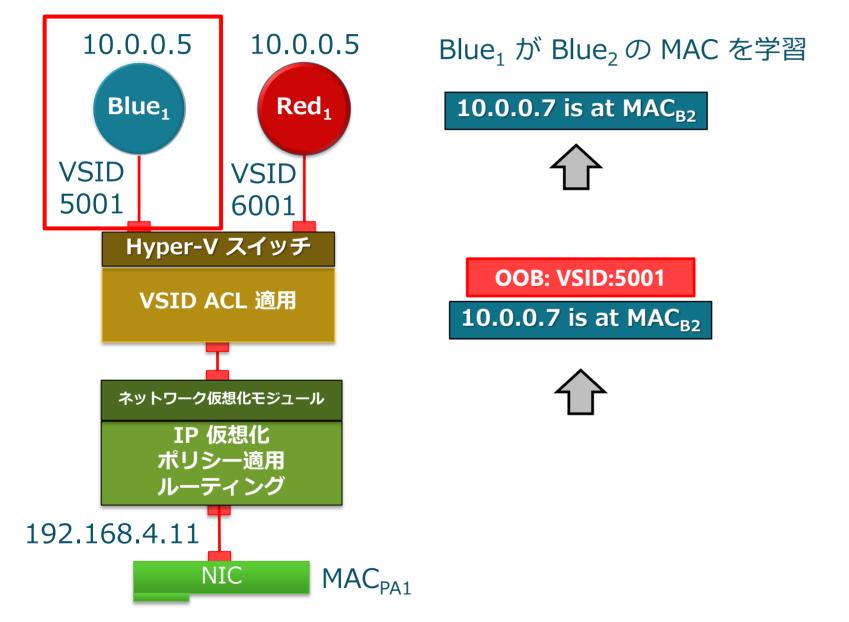


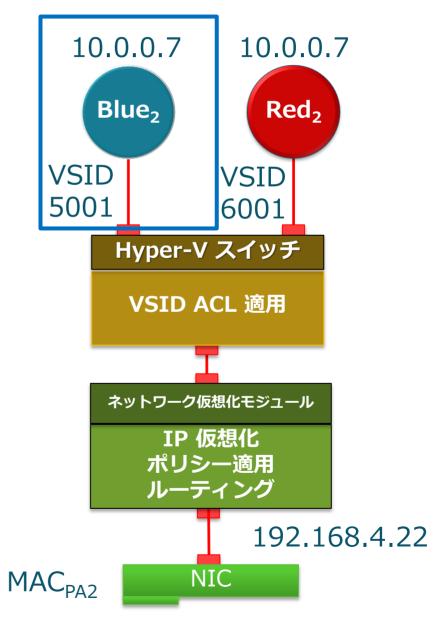
同じサブネットで、異なるホストの場合

パケットの流れ: Blue1 から Blue2

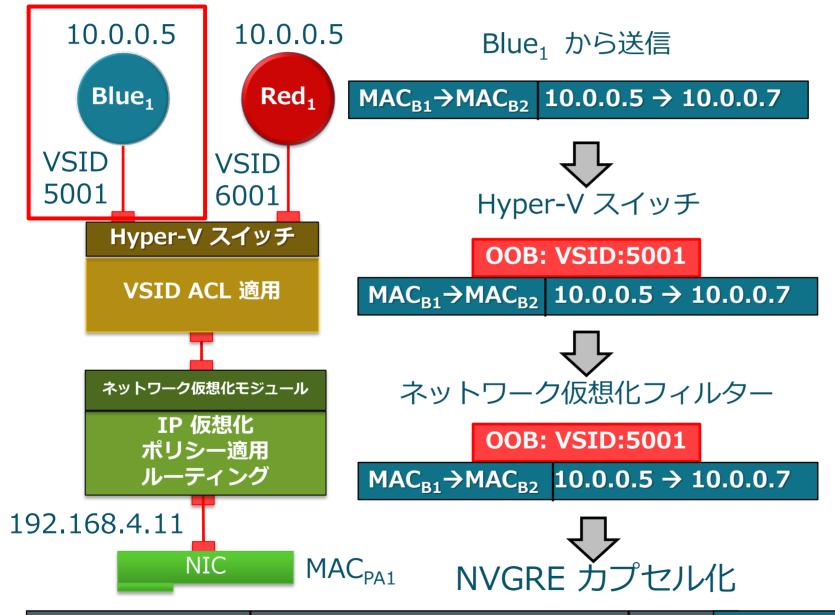


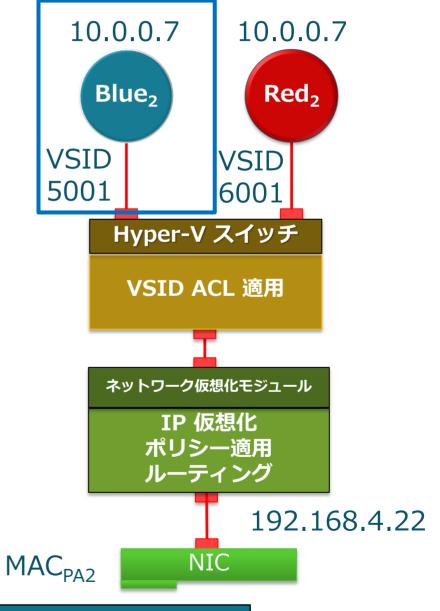
パケットの流れ: Blue1から Blue2



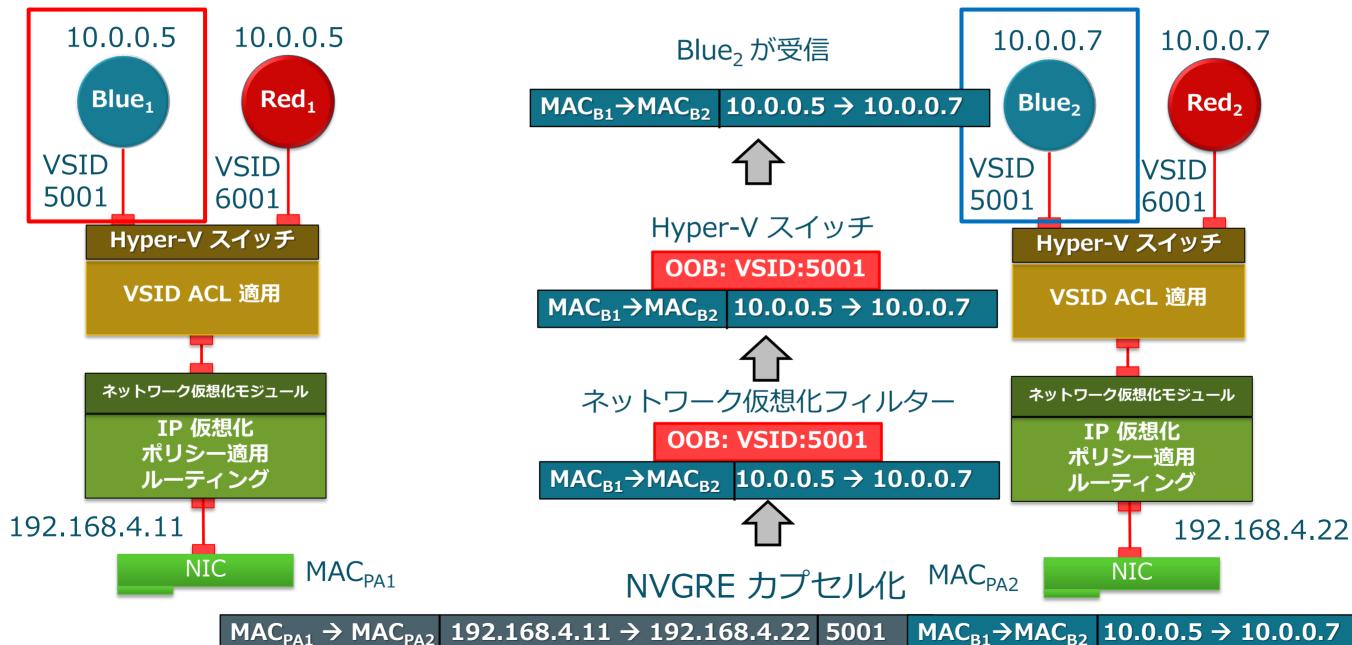


パケットの流れ: Blue1から Blue2



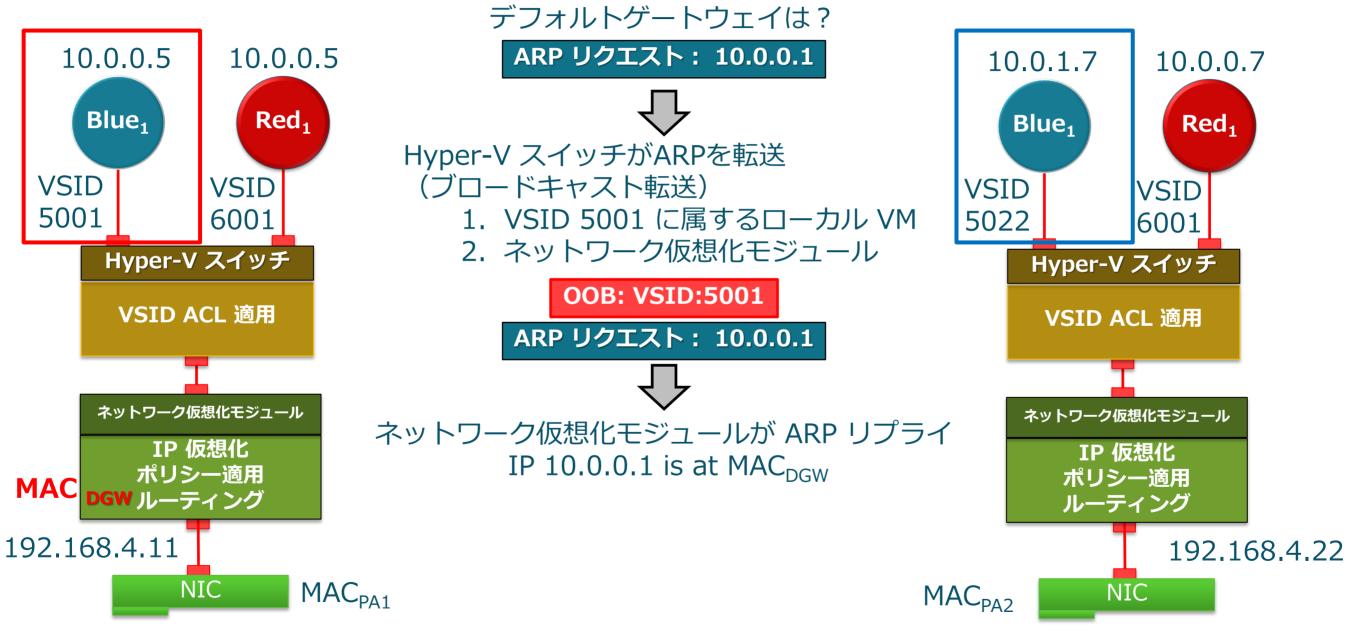


パケットの流れ: Blue1 から Blue2

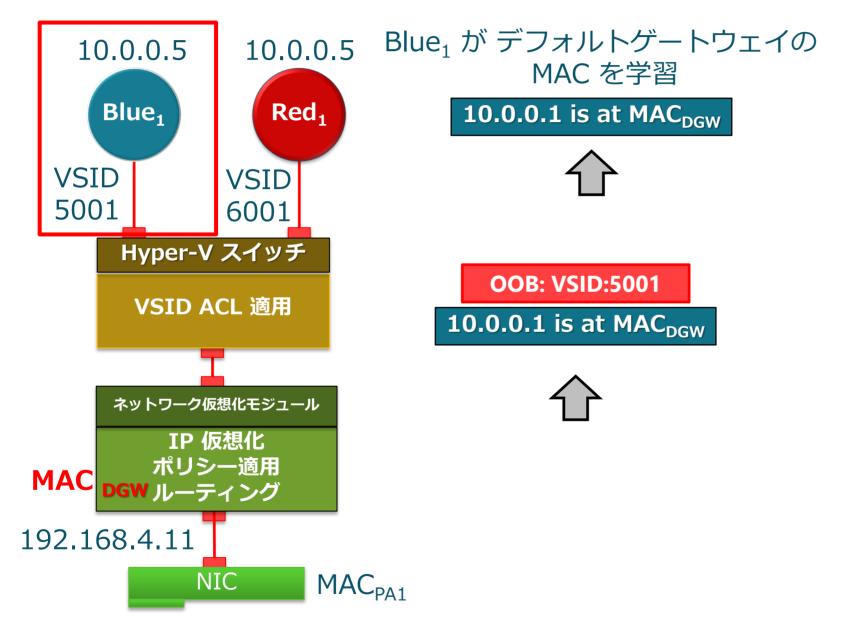


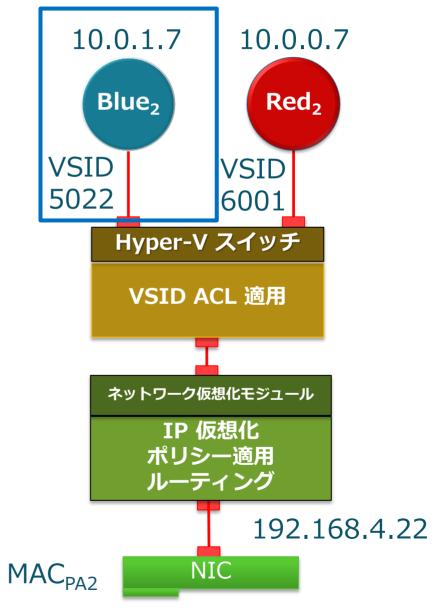
異なるサブネット(同じ RDID)で、 異なるホストの場合

パケットの流れ: Blue1 から Blue2

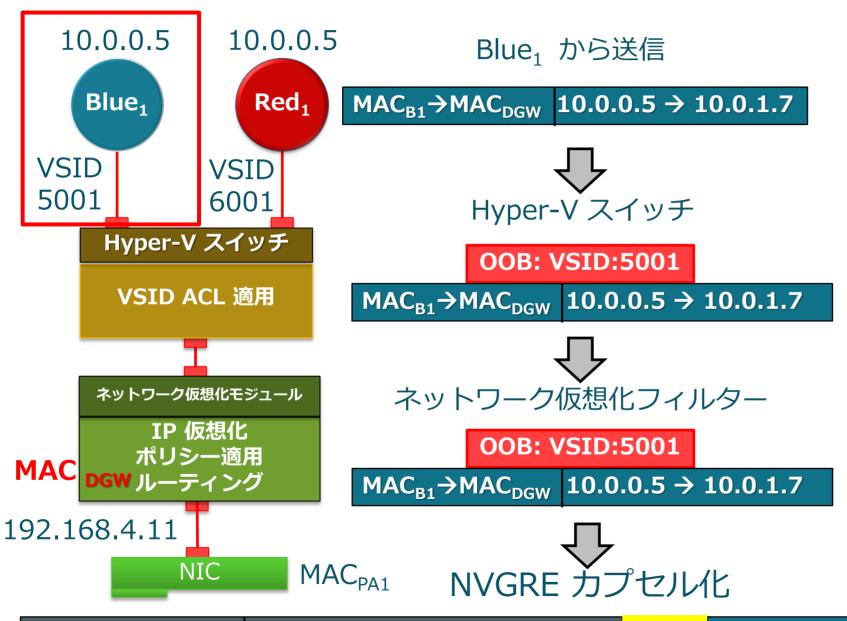


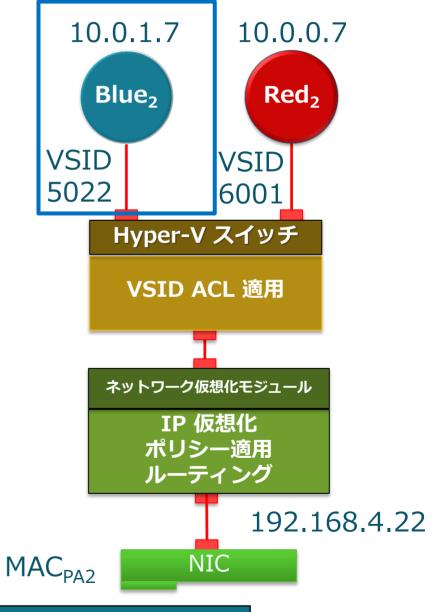
パケットの流れ: Blue1 から Blue2



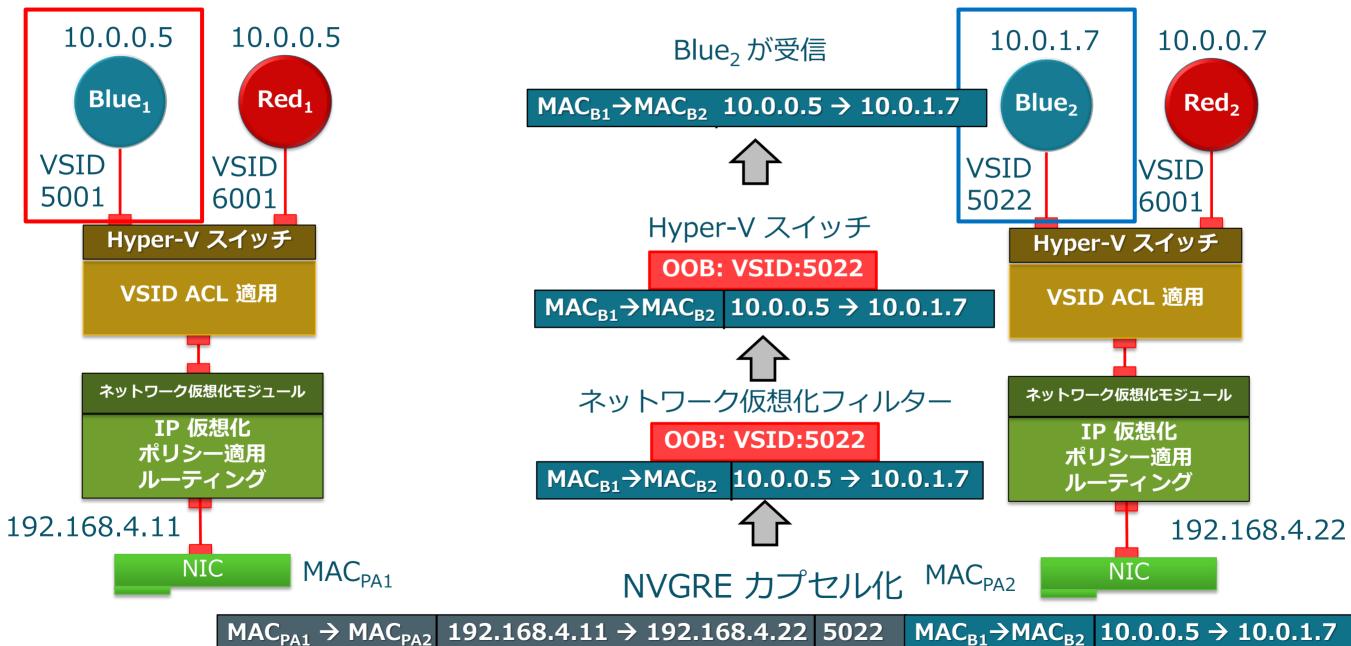


パケットの流れ: Blue1から Blue2

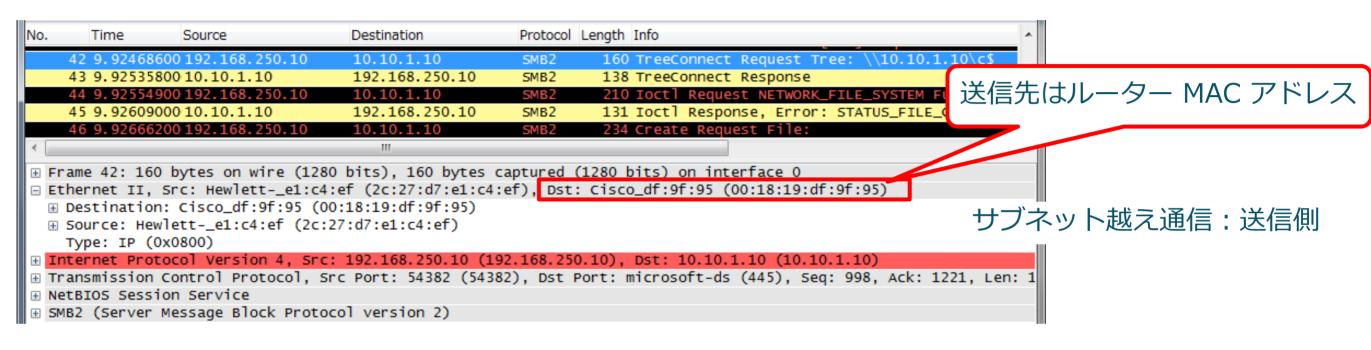


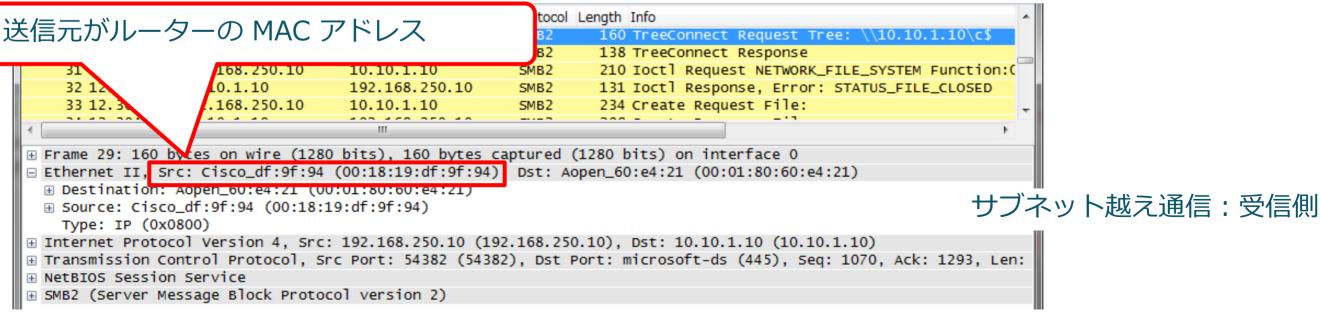


パケットの流れ: Blue1 から Blue2

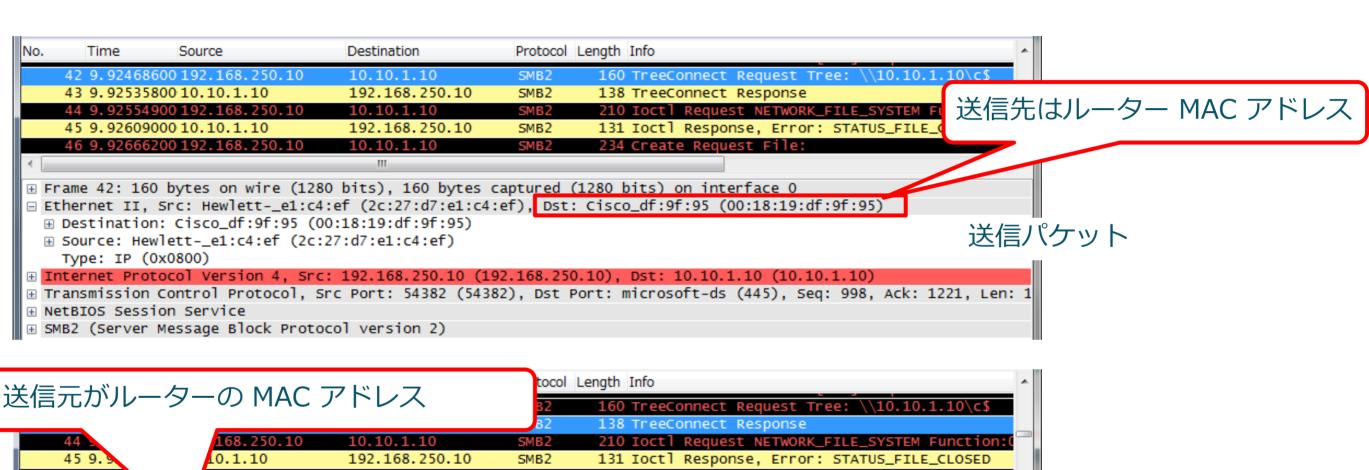


MAC アドレスの状態 (ex:物理ホスト間の通信)



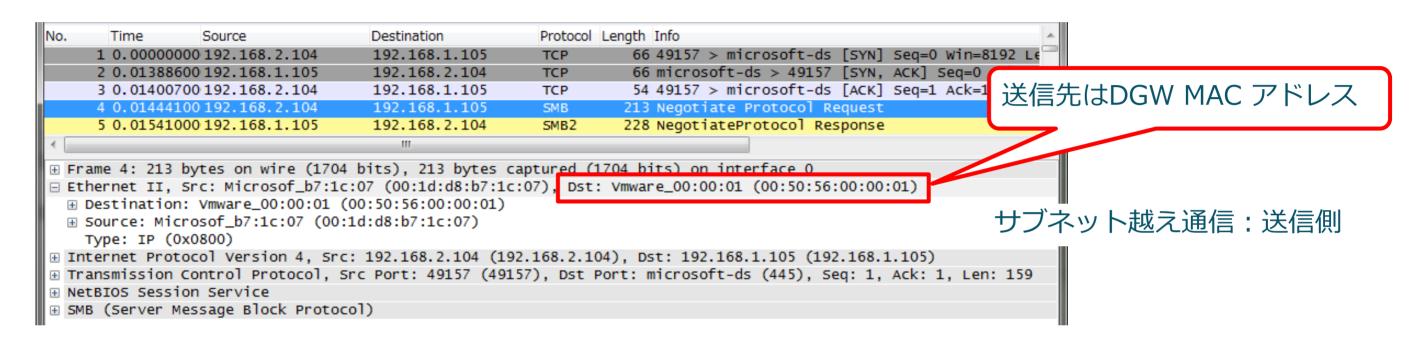


MAC アドレスの状態 (ex:物理ホスト間の通信)



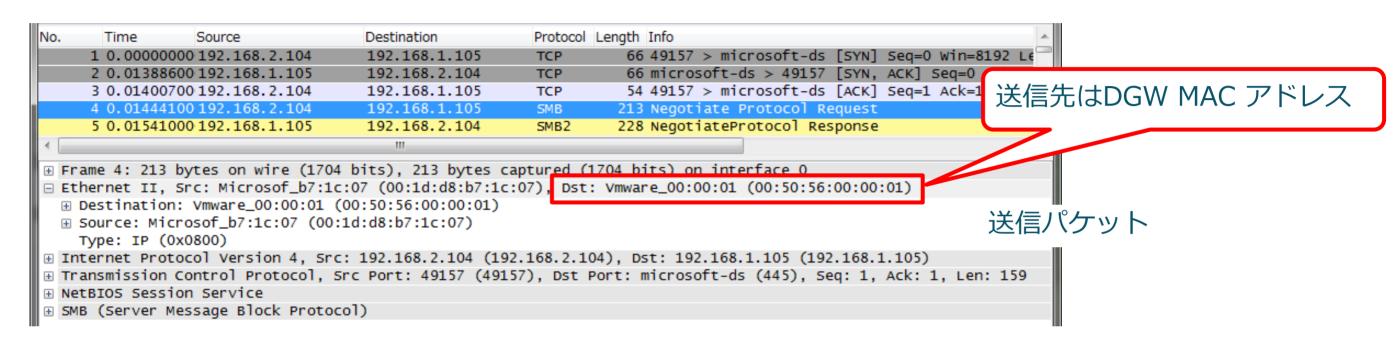
| 168.250.10 | 10.10.1.10 | SMB2 | 210 foct Response | 168.250.10 | 10.10.1.10 | SMB2 | 210 foct Response | Response |

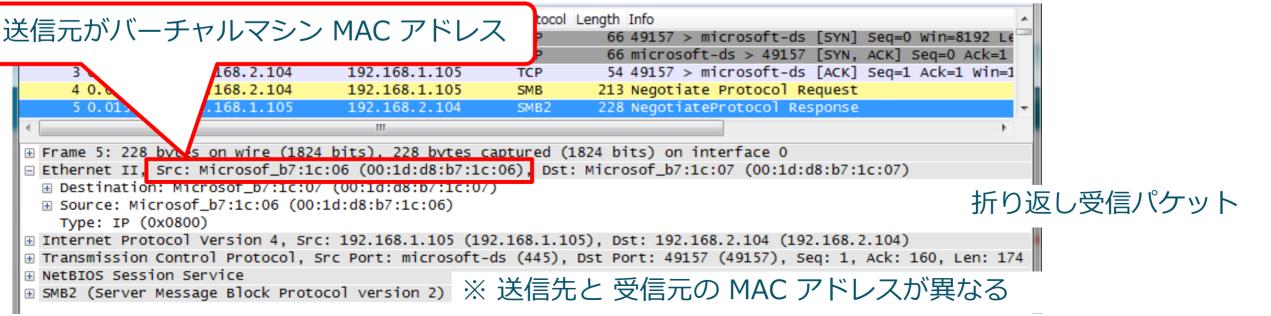
MAC アドレスの状態(バーチャルマシン上での確認)



シ	は信元がバーチ	ャルマシン	MAC アドレス	tocol	Length Info 66 49157 > microsoft-ds [SYN]	Sea-O Win-	R102 L6		
				P	66 microsoft-ds > 49157 [SYN,		Ack=1		
	52 1	168.2.104	192.168.1.105	TCP	54 49157 > microsoft-ds [ACK]		1 Win=1		
	53 14.	.168.2.104	192.168.1.105	SMB	213 Negotiate Protocol Request				
	54 14.50-	2.168.1.105	192.168.2.104	SMB2	228 NegotiateProtocol Response		+		
	+		!!!				+		
	⊕ Destination: Microsof_b7:1c:06 (00:1d:d8:b7:1c:06)						++)'	╸ ╸┈┖┷╕╚╸╸━	/== /Bil
	⊕ Source: Microsof_b7:1c:07 (00:1d:d8:b7:1c:07)						リノイ	マット越え通信:受	信侧
	Type: IP (0x0800)						III	I	
	⊞ Internet Protocol Version 4, Src: 192.168.2.104 (192.168.2.104), Dst: 192.168.1.105 (192.168.1.105)								
	⊕ Transmission Control Protocol, Src Port: 49157 (49157), Dst Port: microsoft-ds (445), Seq: 1, Ack: 1, Len: 159								
	⊕ NetBIOS Session Service								
	⊕ SMB (Server Message Block Protocol)								
1								I	

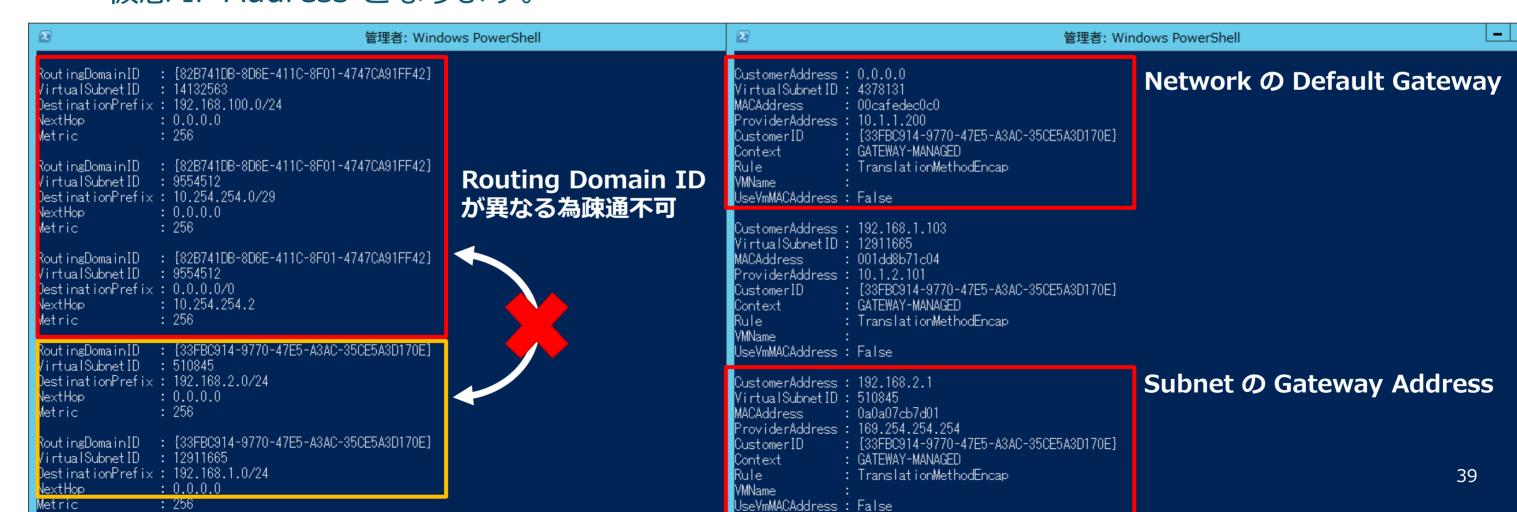
MAC アドレスの状態 (バーチャルマシン上での確認)





異なる VSID 間の通信(Routing)

- VSID が異なる VM Network であっても、 Routing Domain ID が同一であれば通信可能。
- Routing は<u>仮想化モジュール</u>が実施。その Subnet の Gateway Address は 『New-NetVirtualizationLookupRecord 』で設定された仮想 MAC Address 及び 仮想 IP Address となります。



NVGRE におけるパケットサイズ およびフラグメンテーション処理

NVGRE の Packet Size

- 仮想マシン間の通信は NVGRE でカプセル化する為、何も処理を行わなければ
 物理 Network 上に流れる Packet Size は 1518byte + 42byte = 1560byte であるはず。
 - ※ Wireshark で Packet キャプチャを実施すると、 L2 Frame の最後に挿入される FCS (Frame Check Sequence : 4byte)をキャプチャできない為、キャプチャ結果とは 4byteの差異が出ます。
- いや、L2 Frame を丸ごとカプセル化するのであれば、Outer Frame にも FCS がつくはず。 なので、物理 Network 上に流れる Packet Size は 1564byte ではないか?
- 仮想 Network で 802.1q (VLAN Tag)の使用が許容されるのであれば、さらに 4byte が 追加されるはず。
- いずれにせよ、 1522byte を超える場合、全 Network で Jumbo Frame の設定が必要である はず。
- 実際のところはどうなのか? 確認してみました。

NVGRE での FCS の扱い

Internet-Draft

NVGRE

February 2013

- Virtual Subnet ID (VSID): The first 24 bits are used for VSID as shown in Figure 1.
- FlowID: The last 8 bits of the Key field are (optional) FlowID, which can be used to add per-flow entropy within the same VSID, where the entire Key field (32-bit) is used for ECMP purposes by switches or routers in the physical network infrastructure. If a FlowID is not generated, the FlowID field MUST be set to all zero.
- o The protocol type field in the GRE header is set to 0x6558 (transparent Ethernet bridging) [ETHTYPES].

The inner headers (headers of the GRE payload):

- o The inner Ethernet frame comprises of an inner Ethernet header followed by the inner IP header, followed by the IP payload. The inner frame could be any Ethernet data frame not just IP. Note that the inner Ethernet frame's FCS is not encapsulated.
- o Inner VLAN tag: The inner Ethernet header of NVGRE SHOULD NOT contain inner VLAN Tag. When an NVE performs NVGRE encapsulation, it SHOULD remove any existing VLAN Tag before encapsulating NVGRE headers. If a VLAN-tagged frame arrives encapsulated in NVGRE, then the decapsulating NVE SHOULD drop the frame.

The inner Ethernet frame comprises of an inner Ethernet header followed by the inner IP header, followed by the IP payload.

- The inner frame could be any Ethernet data frame not just IP.
- Note that the inner Ethernet frame's FCS is not encapsulated.

2013/02 版(Ver.02)

• 『インナーイーサーネットフレームの FCS はカプセル化されない事に注意してください』 との注意書きもあるところから、 FCS が外された状態でカプセル化されます。 つまり、 1514byte の L2 Frame がカプセル対象となります。

NVGRE での 802.1q(VLAN Tag) の扱い

Internet-Draft

NVGRE

February 2013

- Virtual Subnet ID (VSID): The first 24 bits are used for VSID as shown in Figure 1.
- FlowID: The last 8 bits of the Key field are (optional) FlowID, which can be used to add per-flow entropy within the same VSID, where the entire Key field (32-bit) is used for ECMP purposes by switches or routers in the physical network infrastructure. If a FlowID is not generated, the FlowID field MUST be set to all zero.

o The protocol type field in the GRE header is set to 0x6558 (transparent Ethernet bridging) [ETHTYPES].

The inner headers (headers of the GRE payload):

o The inner Ethernet frame comprises of an inner Ethernet header followed by the inner IP header, followed by the IP payload. The inner frame could be any Ethernet data frame not just IP. Note that the inner Ethernet frame's FCS is not encapsulated.

o Inner VLAN tag: The inner Ethernet header of NVGRE SHOULD NOT contain inner VLAN Tag. When an NVE performs NVGRE encapsulation, it SHOULD remove any existing VLAN Tag before encapsulating NVGRE headers. If a VLAN-tagged frame arrives encapsulated in NVGRE, then the decapsulating NVE SHOULD drop the frame.

2013/02 版(Ver.02)

Inner VLAN tag: The inner Ethernet header of NVGRE SHOULD NOT contain inner VLAN Tag.

インナー VLAN タグを NVGRE のインナーイーサーネットヘッダー に含めないでください。

When an NVE performs NVGRE encapsulation, it SHOULD remove any existing VLAN Tag before encapsulating NVGRE headers.

エンドポイントで NVGRE カプセル化をする際、 NVGRE ヘッダー でカプセル化する前に、全ての VLAN タグを削除するべきです。

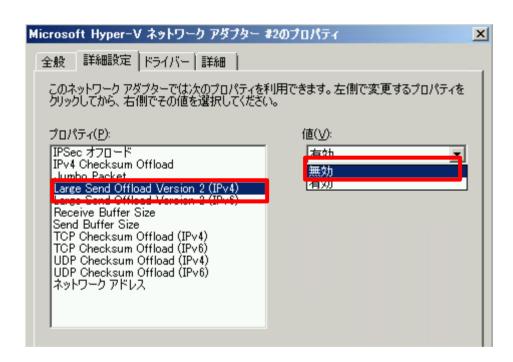
If a VLAN-tagged frame arrives encapsulated in NVGRE, then the decapsulating NVE SHOULD drop the frame.

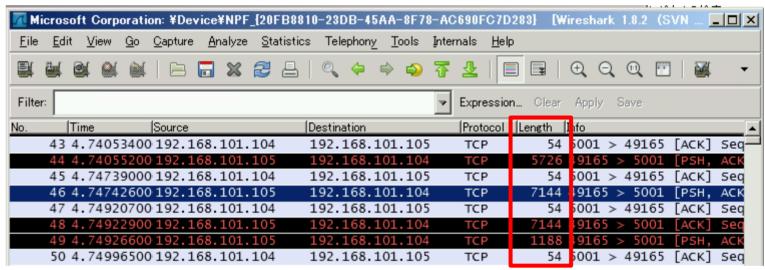
もし、カプセル化された VLAN タグ付きフレームが到達した場合、カプセル化を解除した後に、そのフレームは破棄すべきです。

VLAN Tag の使用は不可。
 従って、最大 1514byte の L2 Frame がカプセル化対象になります。

NVGRE の Packet Size:確認方法

• 仮想マシン上でカプセル化前の Packet を取得します。 H/W オフロード処理が 実施されないように、仮想マシンの Network Adapter でオフロード設定をオフにします。



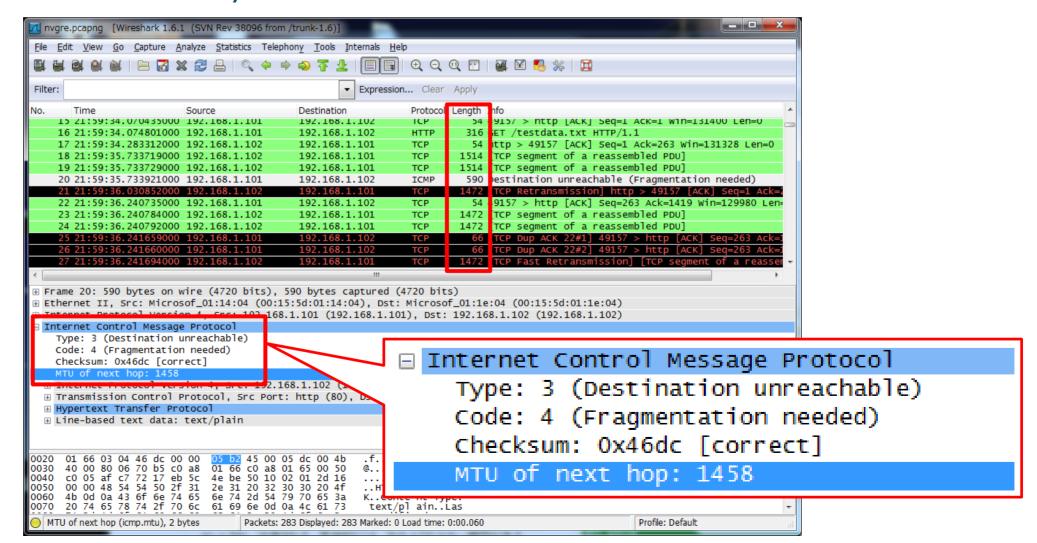


オフロード有効の場合の Packet 長表示

- 同一のタイミングで Hyper-V Host の物理 NIC が接続されている Switch Port を通過する Packet を接続された Switch の SPAN Port から Capture を実施します。
- 確認する通信は http 通信(80 / tcp)で、DF bit = 1 (Don't Fragment)が設定されています。

NVGRE の Packet Size : 結果

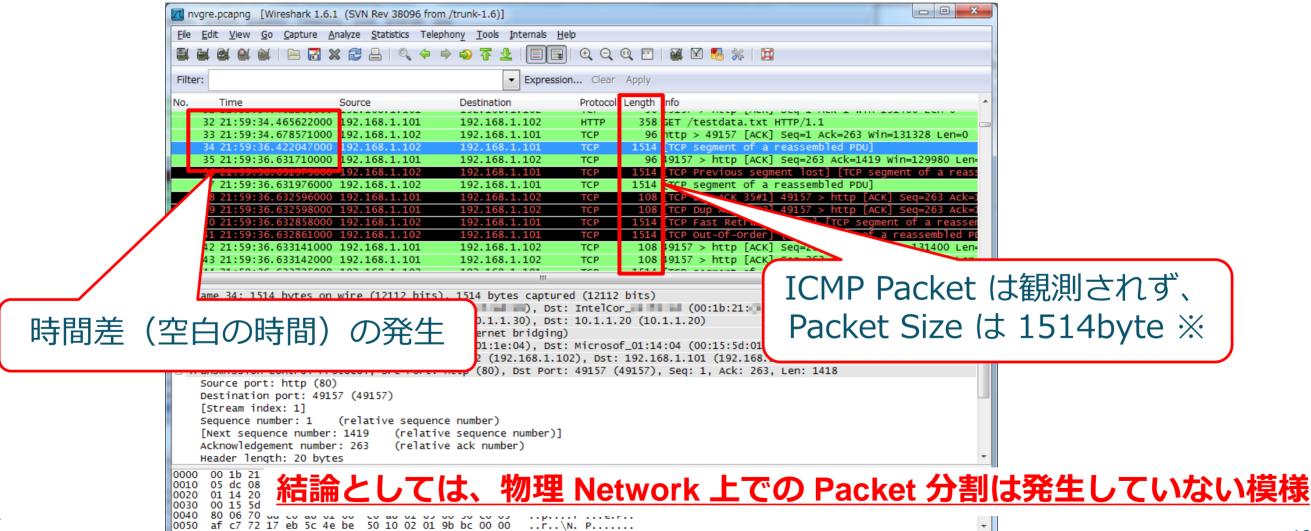
 仮想マシン上で Packet を確認すると、同一サブネット上の通信であるにも関わらず、 Type3 / Code4 の ICMP Packet で MTU サイズの修正を求められている事を確認。 以降 1472 (1458 + 14) byte Packet ※で通信しています。



NVGRE の Packet Size : 結果

Packets: 313 Displayed: 313 Marked: 0 Load time: 0:00.062

● 物理 Network 上で Packet を確認すると、 ICMP Packet は流れていないので、 Hyper-V の 仮想 Switch (仮想化フィルタードライバー?) が ICMP を返していると推測されます。



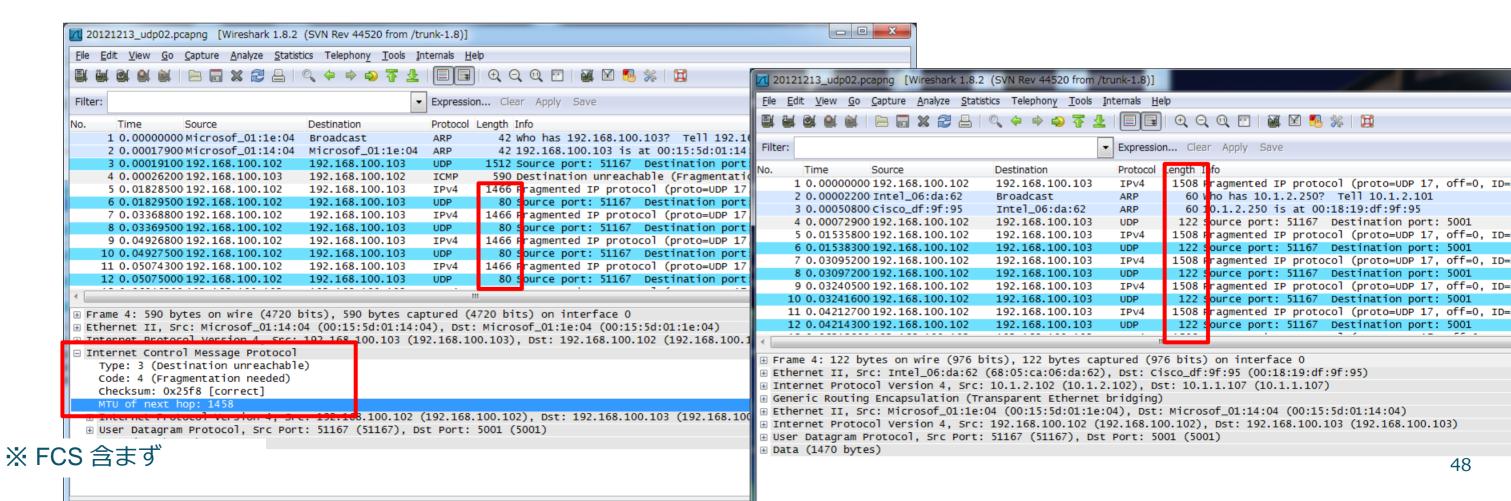
Profile: Default

NVGRE の Packet Size : 追加確認

- 同一の環境で、UDP 通信を確認してみました。
- iperf.exe にて detagram 1470byte 、 DF bit = 0 の UDP トラフィックを発生させ、 仮想マシン上及び物理 Network 上で確認しました。

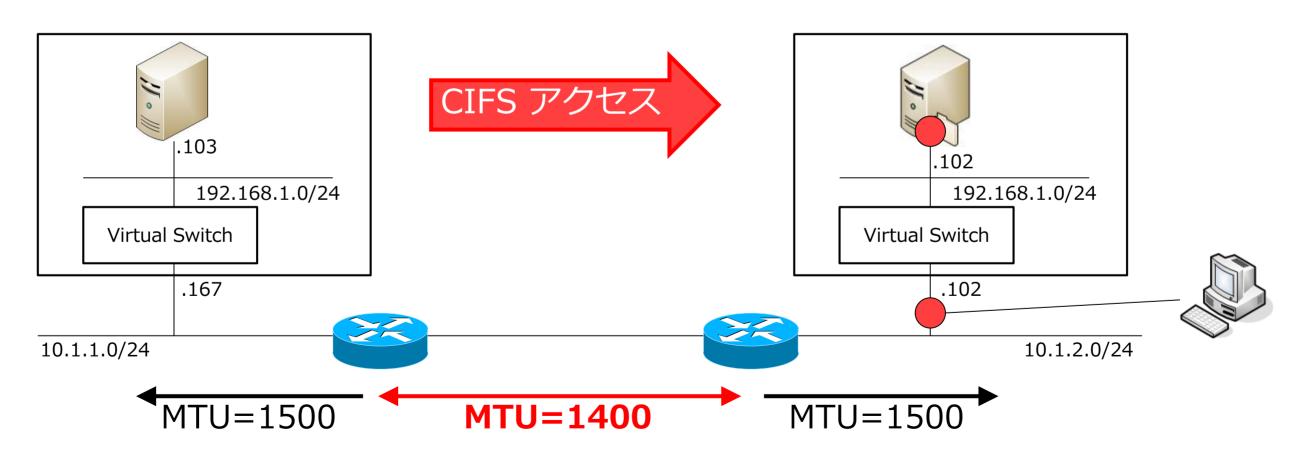
NVGRE の Packet Size : 追加結果

- 仮想マシン上の Packet で、 icmp (Path MTU Discovery) を確認。次の Packet から MTU サイズを調整/分割(1466byte + 80byte ※) して送信している事も確認しました。
- 物理 Network 上でも 1508byte + 122byte (NVGRE オーバーヘッド 42byte) Packet ※ で通信している事を確認しました。



経路上でのフラグメンテーション

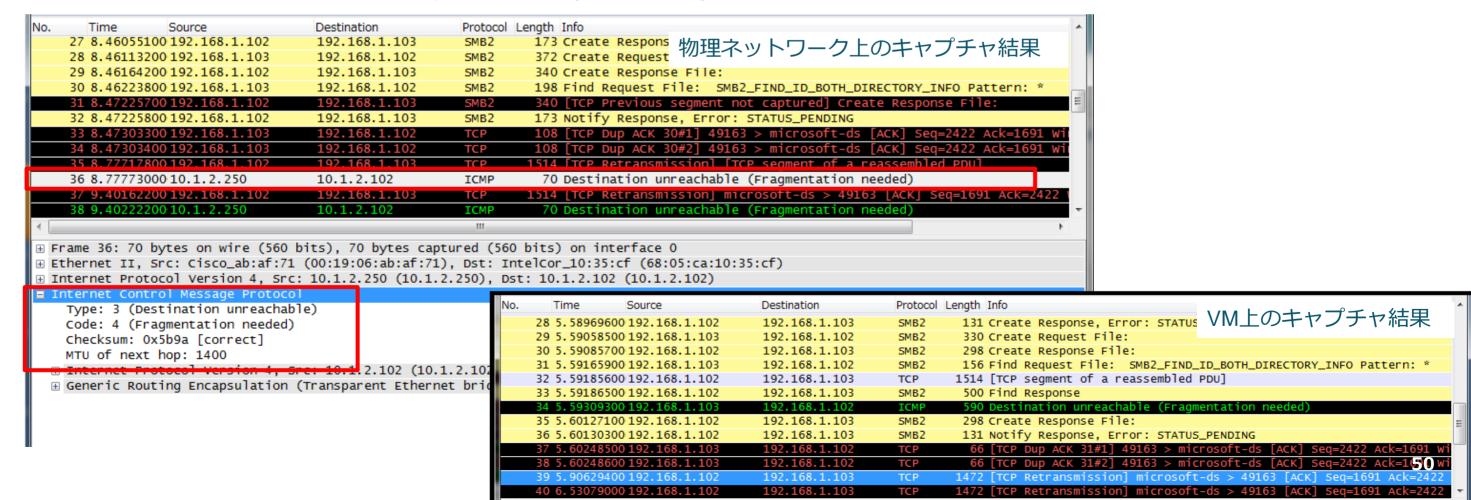
- 以下のような環境で、 NVGRE の疎通試験、並びにパケットキャプチャーを実施しました。
- 試験時に用いた通信は Windows ファイル共有(CIFS : 445/TCP)です。



: パケットキャプチャ実施ポイント

経路上でのフラグメンテーション:結果

- 結果としてはアクセス不可でした。
- 経路上でフラグメントが発生した場合、 Router が ICMP を返す先は PA であり、バーチャルマシンまでリダイレクトされないようです。
- 経路上に MTU=1500 以下の回線(VPN 等)がある場合は、注意が必要です。



PowerShell による Network Virtualization 実装

PowerShell での実装(1)

- PowerShell での実装は、大きく分けて 4 ステップ
- 1. CA と PA 、仮想マシンの MAC Address 、 VSID の組み合わせを定義。 また、トンネル化方式を指定
 - 使用コマンド: New-NetVirtualizationLookupRecord
 - コマンド使用例:

New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5001" -CustomerAddress "192.168.1.101" -ProviderAddress "10.1.1.20" -MACAddress "00155D011404" -Rule "TranslationMethodEncap" -VMName "hv3-blue01"

- ポイント: 『-Rule 』でトンネル方式を指定
 - ✓ -Rule "TranslationMethodEncap" ⇒ NVGRE
 - ✓ -Rule "TranslationMethodNat"
 ⇒ IP Rewrite
- ポイント: 『-UseVmMACAddress \$True 』を指定すると、 IP Rewrite でも仮想マシンの MAC Address を使用可能

PowerShell での実装(2)

- 2. RoutingDomain を定義して、同一 RoutingDomain の VSID と CA の送信先セグメント アドレスの組み合わせを定義
 - 使用コマンド: New-NetVirtualizationCustomerRoute
 - コマンド使用例:

New-NetVirtualizationCustomerRoute -RoutingDomainID "{11111111-2222-3333-4444-00000005001}" -VirtualSubnetID "5001" -DestinationPrefix "192.168.1.0/24" -NextHop "0.0.0.0" -Metric 255

New-NetVirtualizationCustomerRoute -RoutingDomainID "{11111111-2222-3333-4444-00000005001}" -VirtualSubnetID "5001" -DestinationPrefix "0.0.0.0/0" -NextHop "192.168.1.250" -Metric 255

 ポイント:仮想マシンの通信先として、宛先セグメント(DestinationPrefix)単位で、 全ての Route (Default Route 含む)を記述。
 『RoutingDomainID』は UUID 形式で指定し、同一物理 Network 中で重複が発生しないよう注意

PowerShellでの実装(3)

- 3. Hyper-V の物理 NIC (仮想スイッチ)と PA の紐づけを定義。また、 PA が 複数サブネットに存在する場合には PA の Routing (Default Route)を定義
 - 使用コマンド: New-NetVirtualizationProviderAddress
 New-NetVirtualizationProviderRoute
 - コマンド使用例:

\$iface = Get-NetAdapter WNVNIC

New-NetVirtualizationProviderAddress -InterfaceIndex \$iface.InterfaceIndex -ProviderAddress "10.1.1.20" -PrefixLength 24

New-NetVirtualizationProviderRoute -InterfaceIndex \$iface.InterfaceIndex -DestinationPrefix "0.0.0.0/0" -NextHop "10.1.1.1"

ポイント: PA のサブネットマスクは『PrefixLength』で指定する。 CIDR 形式でない事に注意。
 PA の Routing (Default Route) を指定する場合は CIDR 形式である事に注意。

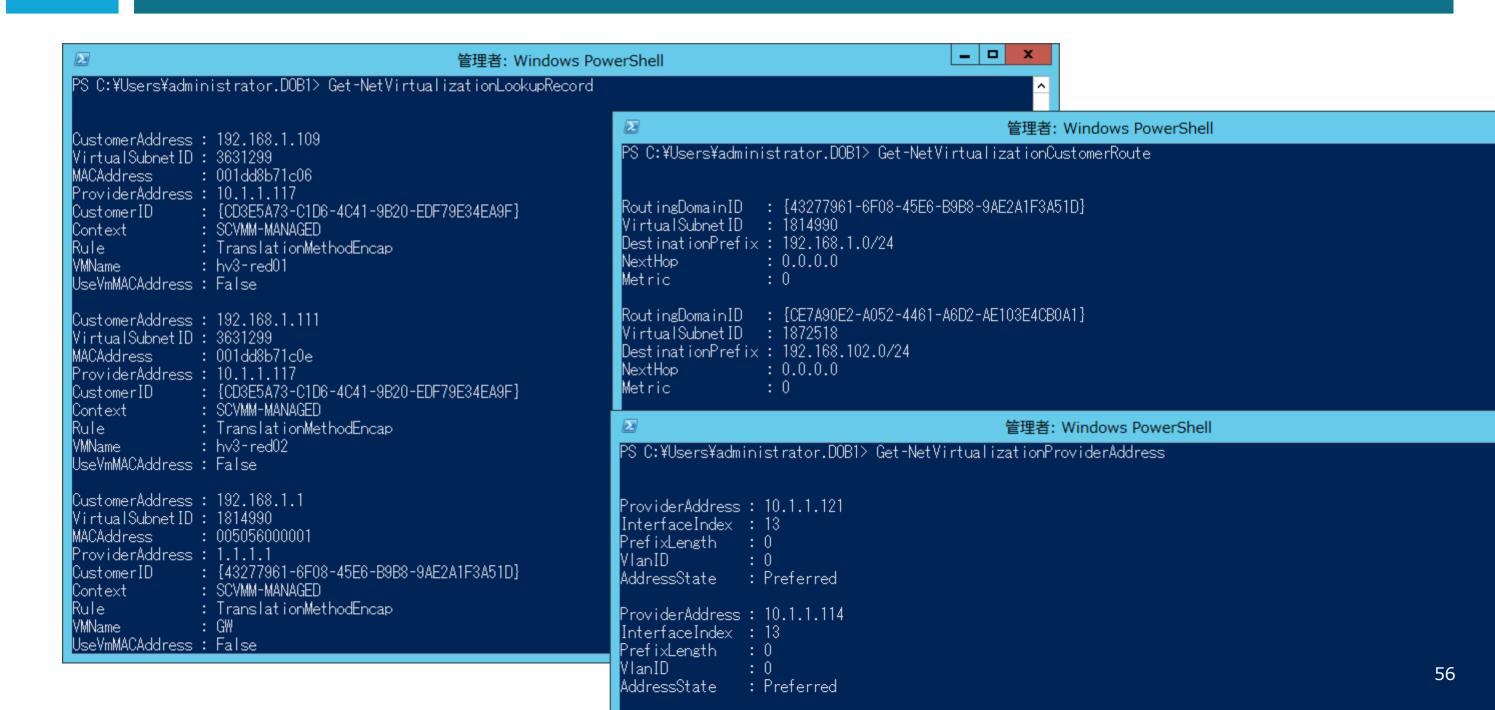
PowerShellでの実装(4)

- 4. Hyper-V の物理 NIC (仮想スイッチ)と仮想マシンの MAC Address 、 VSID の 組み合わせを定義
 - 使用コマンド: Set-VMNetworkAdapter
 - コマンド使用例:

```
$cred = Get-Credential "dob1\text{administrator"}
Invoke-Command -ComputerName "ml110g6-01" -Credential \text{cred {
   Get-VMNetworkAdapter "hv3-blue01" | where {\text{$_.MacAddress -eq "00155D011404"}} | Set-VMNetworkAdapter
   -VirtualSubnetID 5001;
}
```

 ポイント:実行に管理者権限が必要な為、あらかじめ『Get-Credential』コマンドレットにて資格情報を取得 指定 MAC Address が接続された仮想 Switch のポート(?)に対して、 VSID を割り当てるイメージ ⇒ VSID ACL ?

PowerShellでの実装(結果)





PowerShellによる手動設定時の課題

- 全物理ホストに対して、 PowerShell による設定を実施する必要がある。
 - PA、CA、Mac Addressの組み合わせを仮想マシン単位で設定する必要あり。
 - 仮想マシン追加の都度、手動にて追加設定する必要あり。
- Live Migration に自動追従できない為、 Migration 後 PowerShell による再設定実施完了 まで仮想マシンは通信不可。
- 物理ホストを再起動すると、その物理ホストに設定されていた Network Virtualization に 関する設定が全て初期化されてしまう。
 - 再起動毎に PowerShell による再設定が必要。

System Center 2012 Virtual Machine Manager SP1

Network Virtualization を中心に

まず最初に……

手元に、このファイルをダウンロードすることを強くお勧めします。

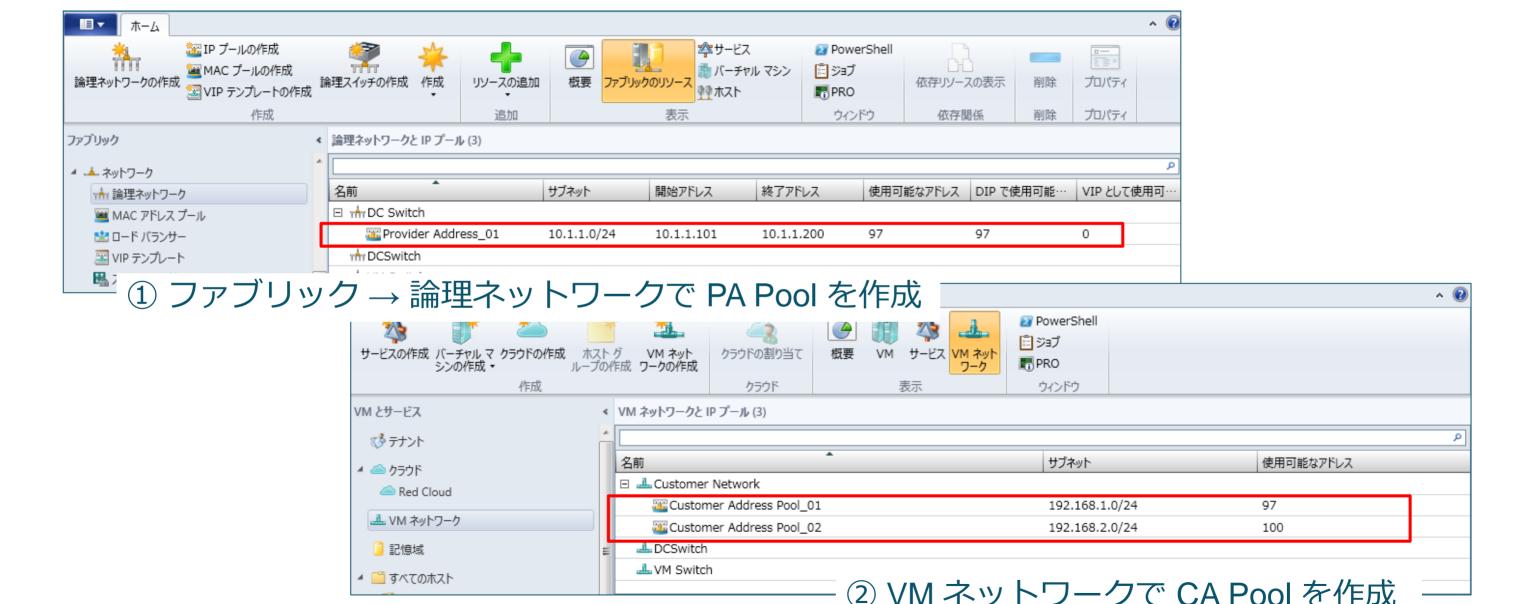
Cmdlet Reference for Virtual Machine Manager in System Center 2012 SP1 URL: http://www.microsoft.com/en-au/download/details.aspx?id=6346

- GUIで設定できない項目があった場合、 PowerShell で設定できないかを調べる上で有用です。
- 但し、 PowerShell で設定可能であっても、サポート外となる項目もありますので、注意が必要です。

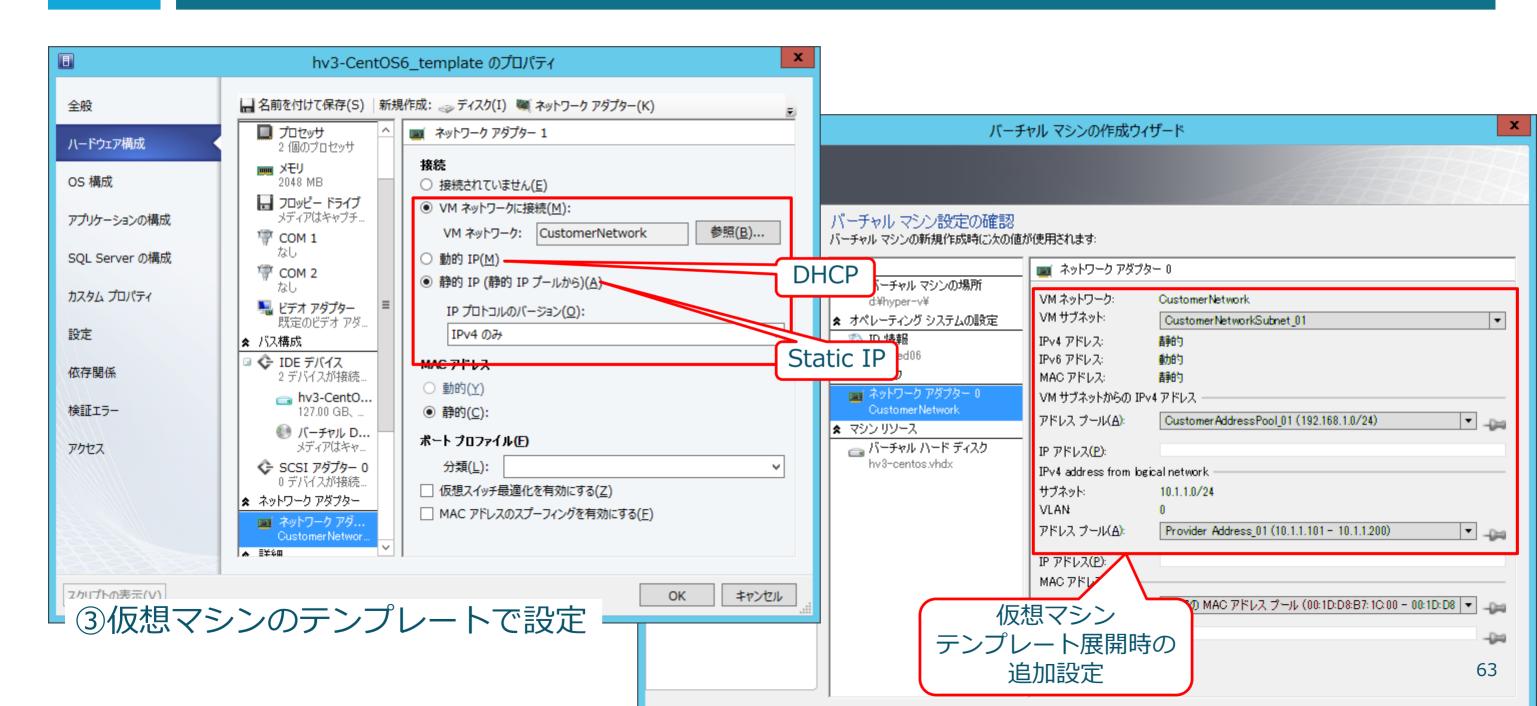
SC2012 VMM SP1 での Network Virtualization

- SC2012 VMM SP1 からサポート
- VM Networks 単位で Network を論理分割
 - VM Networks が異なると、 RoutingDomainID が異なる
 - ▶ 異なる VM Networks の場合、同一 Cloud であっても疎通不可
 - ▶ 同一の VM Networks に属する VMSubnet であれば、疎通可能
- SC2012 VMM SP1 では、NVGRE のみサポート
 - CTP2 の時は IP Rewrite も使用可能でした(というか、 Default が IP Rewrite)
 - ➤ PowerShell Cmdlet (New-SCVMSubnet)から IP Rewrite を設定する為のオプションが消えました
 - ➤ TechNet Document ※ の 2012/12/21 版を確認すると、『In this release, you can virtualize the IP address of a virtual machine by using Network Virtualization with Generic Routing Encapsulation (NVGRE).』と記述されています
 - → また、『Not all of the capabilities of network virtualization in Windows Server 2012 are supported in this release. 』とも記述されています → 2013/04/24版では記述が消えました
- ◆ Static IP で VM を展開する場合は、テンプレートからの展開が必須
 - → PowerShell で設定可能です(後述します)

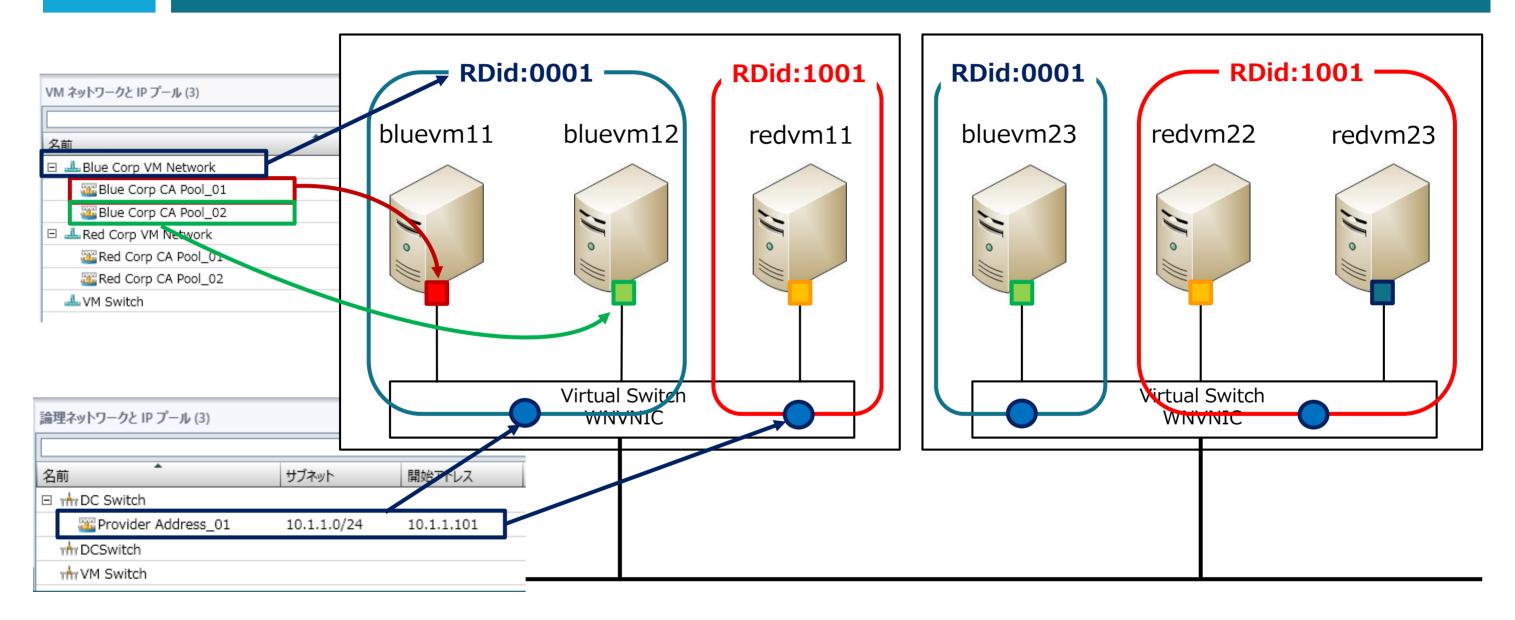
具体的な SC2012 VMM SP1 ネットワーク設定



具体的な SC2012 VMM SP1 ネットワーク設定

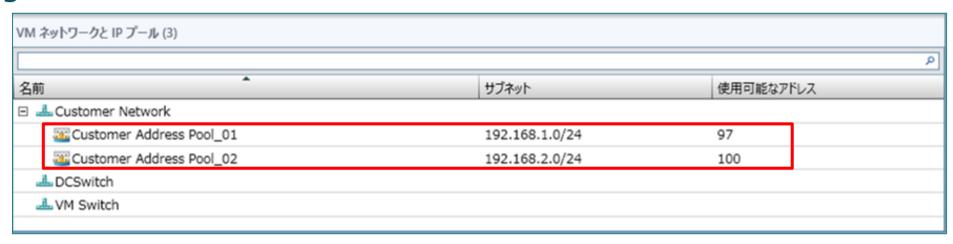


VMM SP1における 論理ネットワークと VM ネットワークの関係



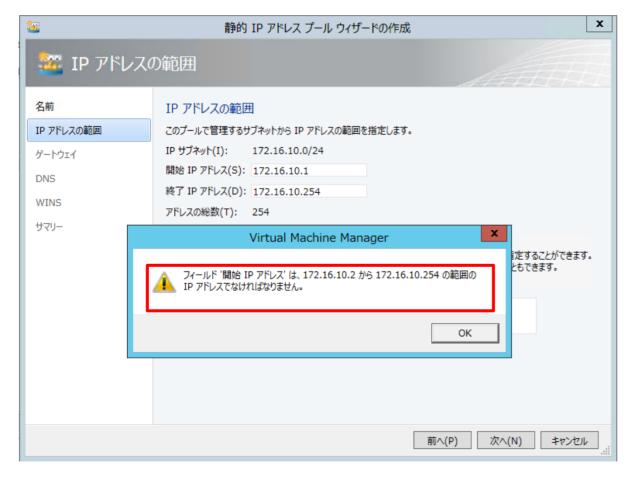
PAは、同一ホスト内であっても、Routing Domain ID単位で個別にアサインされる。

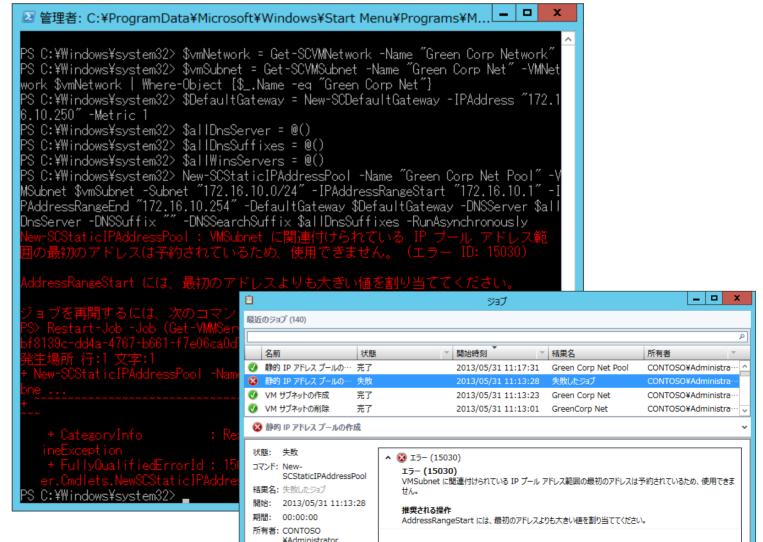
 一つの VM ネットワーク内に複数のサブネットを構成した場合、サブネット間の Routing は仮想スイッチが実施します。

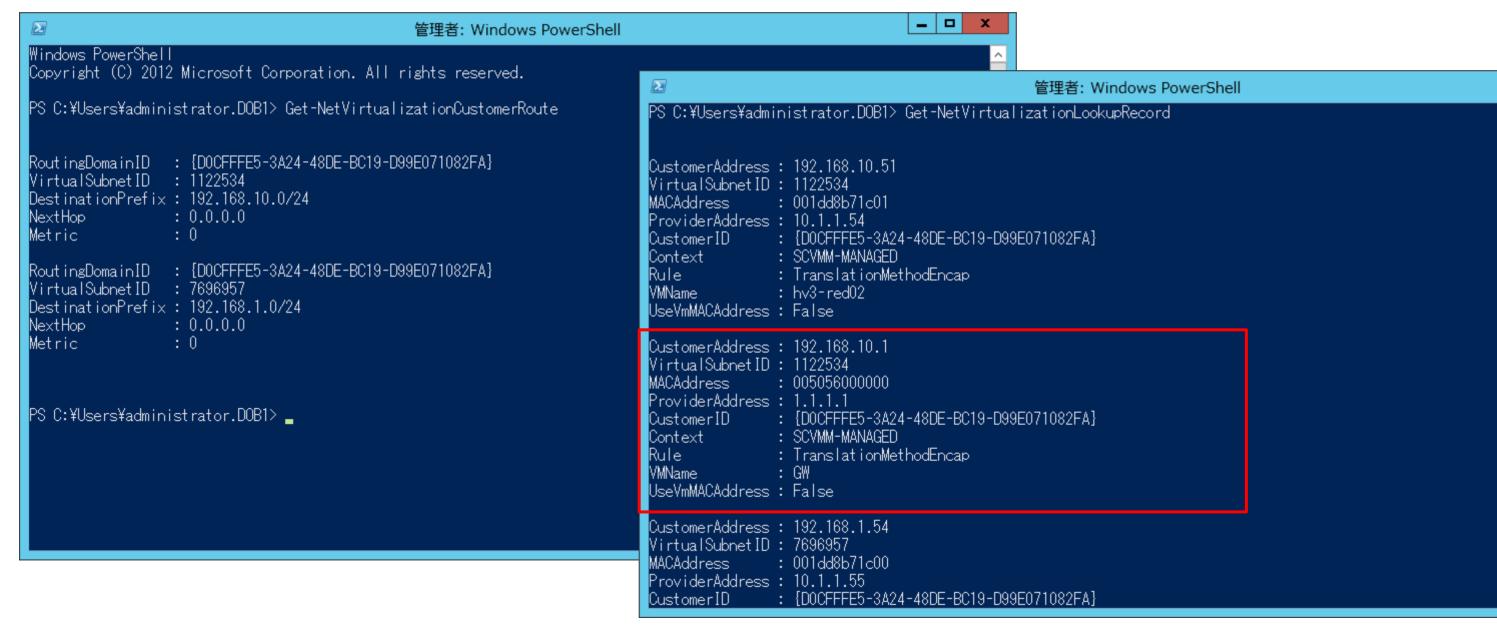


- この場合、各サブネットの Gateway Address は SC2012 VMM が自動的に作成し、 各サブネットの Host Address 『1』が使用されます
 - 上記例の場合『192.168.1.1』『192.168.2.1』が Gateway の Address になります
 - 自動割り当ての為、変更不可
- 既存環境を移行する場合には、注意が必要

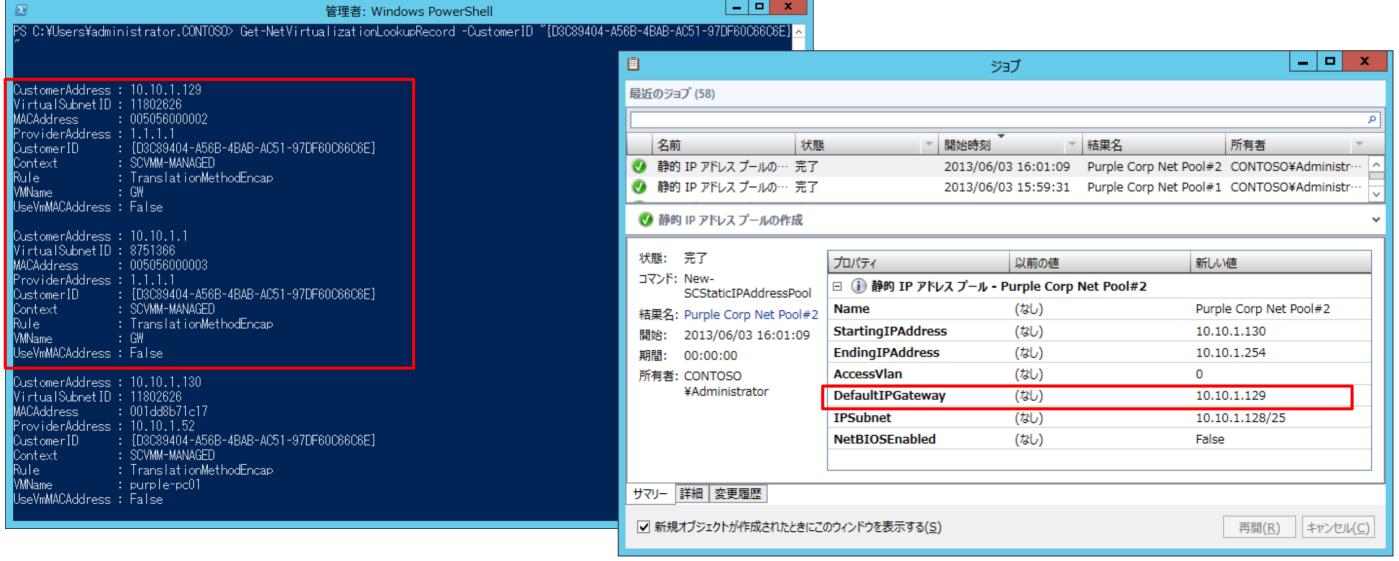
- ホストアドレス『1』をプールが変更できないか、確認してみました。
- システム予約アドレスとのことで、 GUI 、 PowerShell ともに指定不可でした。







• Prefix 24 以下のサブネットを作成した場合、使用可能なホストアドレスの最初のアドレスがゲートウェイアドレスに採用されることを確認しました。



VSID に関して

- VSID は VM サブネットを作成した段階で、VMM によって自動採番(ランダム割り当て) されます。
- VSID を(運用上の理由等で)明示的に指定したい場合、 PowerShell から VM サブネット を作成することにより、希望の ID を割り当てることができます。
 - ➤ 使用コマンド: New-SCSubnetVLan New-SCVMSubnet
 - ▶ コマンド使用例:

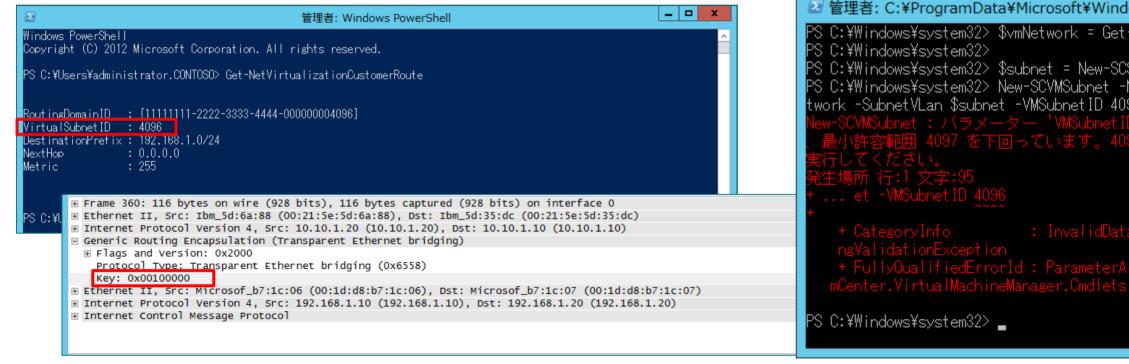
\$vmNetwork = Get-SCVMNetwork -Name "Green Corp Network"

\$subnet = New-SCSubnetVLan -Subnet "172.16.10.0/24"
New-SCVMSubnet -Name "GreenCorp Net" -VMNetwork \$vmNetwork -SubnetVLan \$subnet -VMSubnetID 5001

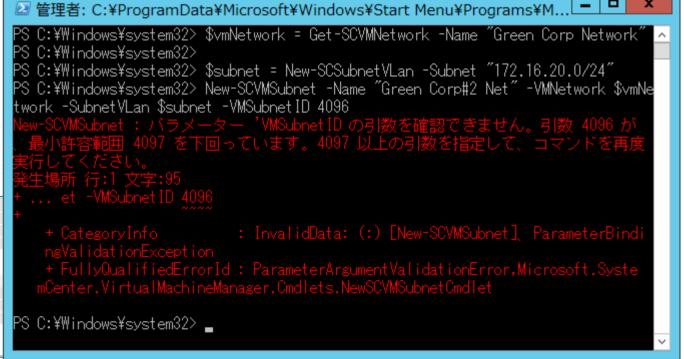
ポイント: 『-VMSubnetID 』で割り当てたい VSID を指定する。指定可能な範囲は 4,097 から 16,777,214。

VSID に関して

 『New-NetVirtualizationCustomerRoute』 Cmdlet では、 VSID は 4,096 から 16,777,215 の範囲で指定可能ですが、『New-SCVMSubnet』 Cmdlet を 使用した場合、下限が 4,097 になりますので、注意が必要です。



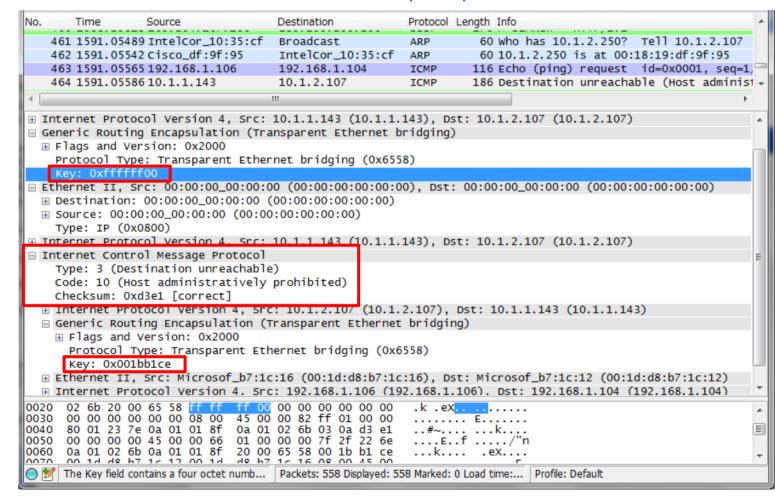
『 New-NetVirtualizationCustomerRoute 』 Cmdlet を 使用した場合



『 New-SCVMSubnet 』 Cmdlet を使用した場合

VSID 16,777,215

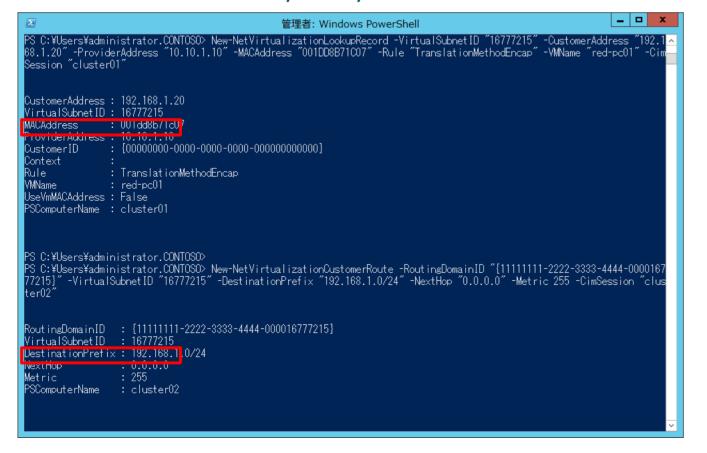
- エラーパケット処理など、システムメッセージ交換用として使用される模様
 - KB2779768 問題でみられた icmp Type3 Code10 (Destination host administratively prohibited) の パケットは、VSID FFFFFF (16,777,215) のパケットでした



従って、ユーザー利用不可です。

VSID 16,777,215

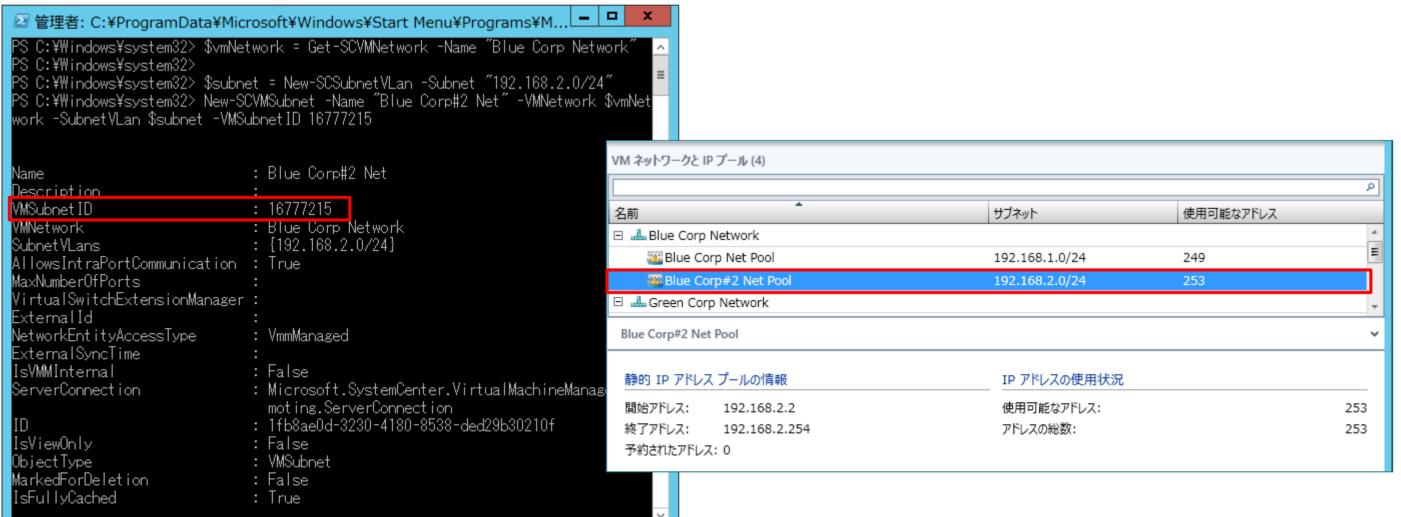
- しかしながら、VSID 16,777,215 をアサインすることが可能です。
- 但し、NIC に関連付けを行う際に失敗します。
- Technet の 『 New-NetVirtualizationCustomerRoute 』 Cmdlet のリファレンスには、 『-VirtualSubnetID 』の引数の許容範囲として 4,096-16,777,214 と記載されていますが、実際には 16,777,215 も許容されてしまうので、注意が必要です。



```
_ D X
                                                       管理者: Windows PowerShell
  C:\Users\administrator.CONTOSO>
   C:\Users\u00e4administrator.CONTOSO>\u00d5cred = Get-Credential "contoso\u00e4administrator"
   C:\Users\administrator.CONTOSO> \UNVNIC = "WNVNIC"
   C:\Users\administrator.CONTOSO>
 'S C:¥Users¥administrator.CONTOSO> $iface = Get-NetAdapter $WNVNIC -CimSession "cluster01"
PS C:¥Users¥administrator.CONTOSO> New-NetVirtualizationProviderAddress -InterfaceIndex $iface.InterfaceIndex -ProviderA
ddress "10.10.1.10" -PrefixLength 24 -CimSession "cluster01"
ProviderAddress : 10.10.1.10
InterfaceIndex : 15
PrefixLength : 24
                : 0
AddressState : Preferred
PSComputerName : cluster0'
PS C:¥Users¥administrator.CONTOSO>
  C:\USers\u00e4administrator.CON\u00f0SD> Invoke-Command -ComputerName "cluster01" -Credential \u00e5cred {
Get-VMNetworkAdapter "red-pc01" | where [\u00e5_.MacAddress -eq "001DD8B71C07"] | Set-VMNetworkAdapter -VirtualSubnetID 16
```

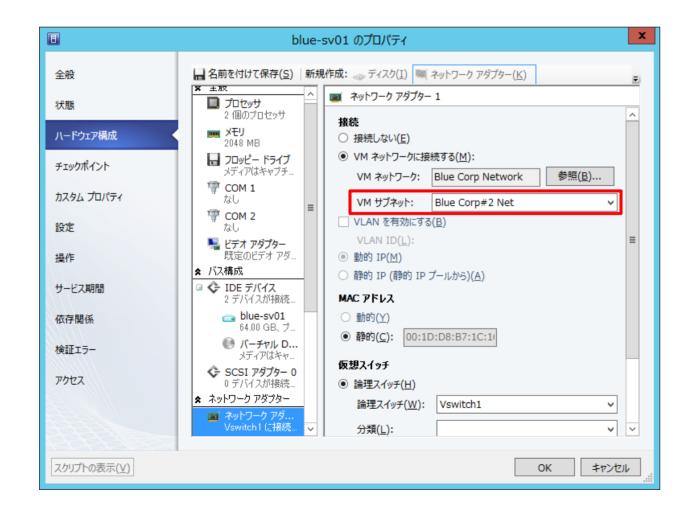
VSID 16,777,215

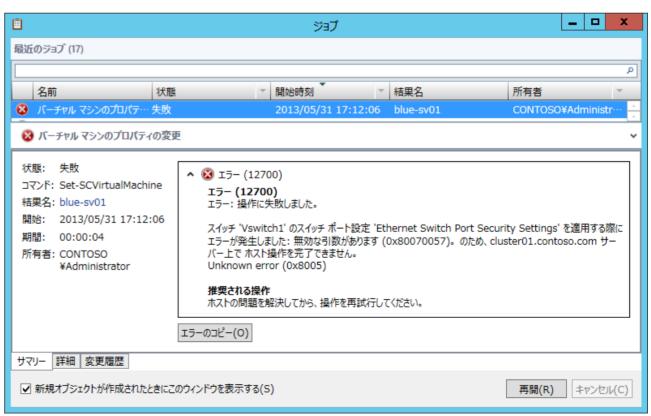
同様に、SC 2012 VMM の『New-SCVMSubnet 』 Cmdlet においても、 16,777,215
 を VSIDとして指定することが可能です。



VSID 16,777,215

• バーチャルマシンに作成した VSID 16,777,215 の VM サブネットをアサインすると、 プロパティー変更ジョブで『 Unknown error(0x8005) 』が発生するので、注意が必要 です。



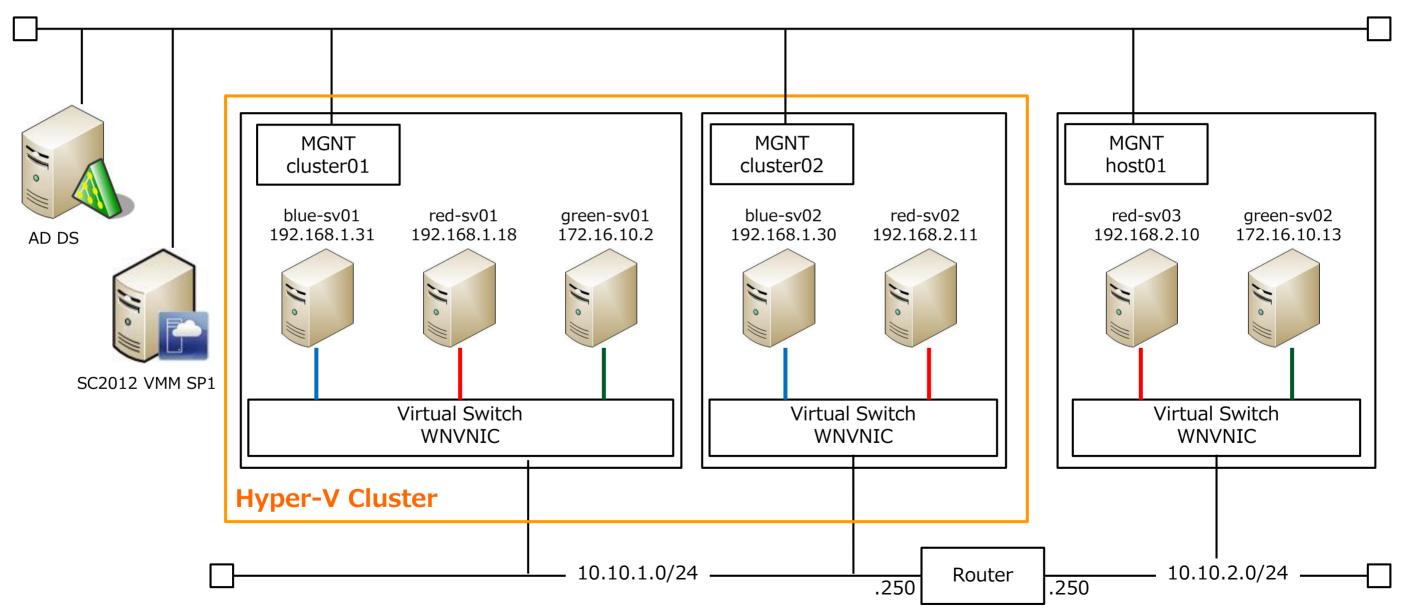


VSID の結論

- SC2012 VMM の自動割り当てに依存してしまう、というのがお手軽ソリューションです。
- 手動にて割り当てる場合には、4,097 から 16,777,214 の範囲での割り当てを行うよう、 運用回避してください。
- PowerShell による、Orchestrator 等での独自ロジックでの割り当てを行う場合、割り当て可能な VSID から 16,777,215 は、かならず除外してください。



本日の Demo 環境



Windows Network Virtualizationにおける IP アドレス設定

IP アドレス割り当て方法 (SC2012 VMM 利用時)

Network Virtualization で利用される IP アドレスは2 種類。

- Provider アドレス : 物理ネットワーク上で使用される IP アドレス。

- Customer アドレス : 仮想ネットワーク上で使用される IP アドレス。

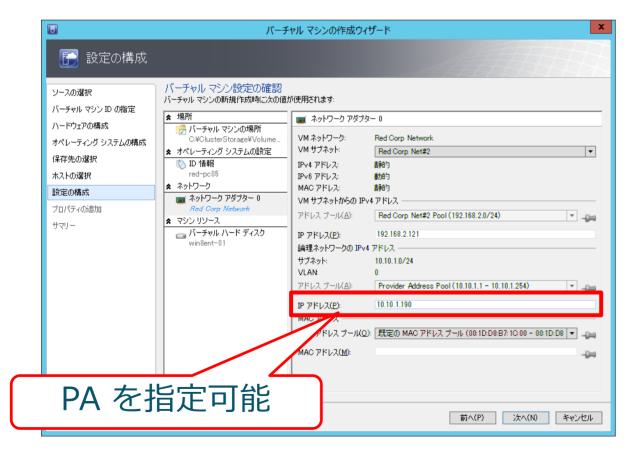
- PA は論理ネットワークの IP プールから自動割り当て
 - 既定では、ホスト毎に RDID 単位で割り当てを実施します。
 - 従って、1 ホストに 20 RDID が存在する場合、 IP アドレスは 20 アドレス消費することになるので、 アドレス設計には注意が必要です。
 - 割り当てられた PA は『 Get-NetVirtualizationProviderAddress 』 Cmdlet で確認可能です。
 - IP プールからの自動割り当てが基本ですが、条件付きで静的設定も可能です。

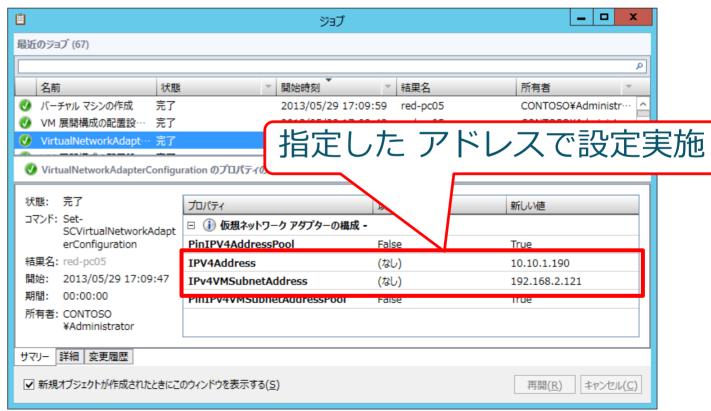
IP アドレス割り当て方法 (SC2012 VMM 利用時)

- CA は 2 つの割り当て方法が存在。
 - VM ネットワークの IP プールからの動的割り当て(バーチャルマシンでは DHCP 設定)
 - VM ネットワークの IP プールからの静的割り当て(バーチャルマシンでは Static 設定)
- VM ネットワークの IP プールからの静的割り当てを行うための方法は、 2 つ存在。
 - バーチャルマシン作成時に、テンプレートから展開することにより静的割り当てを実施
 - 展開済み(既存バーチャルマシン等)の場合、PowerShellによって静的割り当てを実施
- 既存バーチャルマシンの移行など、IP アドレスが静的に割り当てられている場合でも、 問題なく Network Virtualizationが利用可能。

PA 設定に関して

- PA は 条件付きで静的設定(管理者が任意でアドレスを割り当てる)が可能
 - 割り当てはテンプレート展開時に、GUIから指定可能
 - 割り当て可能なアドレスは、 IP プールで設定されている範囲からの任意に指定可能



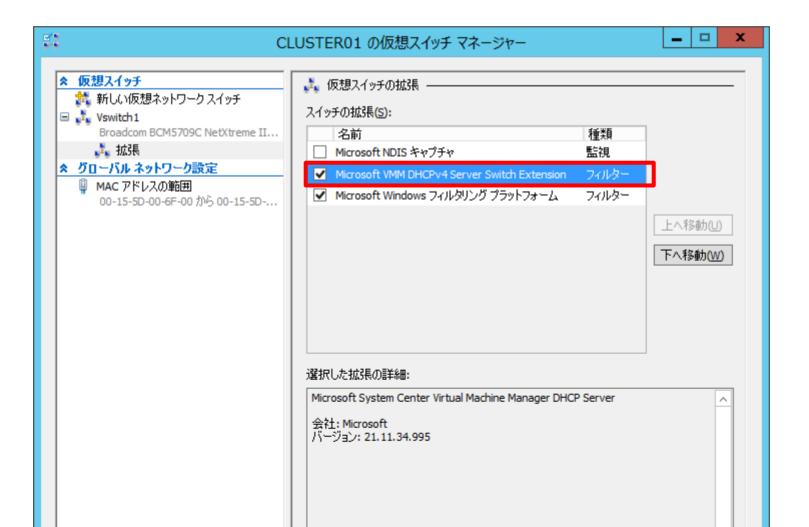


PA 設定に関して

- 静的設定できる条件は以下の通り
 - 静的設定を行うバーチャルマシンと同じ RDID が設定されているバーチャルマシンが、ホスト上に存在しない事
 - → RDID 用の PA が既に存在する場合、その PA が自動的に使用されます。
- ライブマイグレーションなど、 PA の再設定を伴う動作が発生した場合、 IP プールからの 自動採番が実施される為、静的設定は無効になるので注意
 - 当該ホストにその PA を使用するバーチャルマシンが存在しなくなった段階で、 PA がプールに返却されるという挙動のため
 - クラスター環境では事実上意味をなさないという点に注意が必要
- PA の設定は SC2012 VMM に任せておいた方が無難

SC2012 VMM SP1 での DHCP 実装

- SC2012 VMM SP1 からサポート
- DHCP Extensions (Filter Driver)にて実装。従って、 Windows Server 2012 のみ対応
- SC2012 VMM SP1 エージェント導入時に自動的にインストール



SC2012 VMM SP1 での DHCP 実装

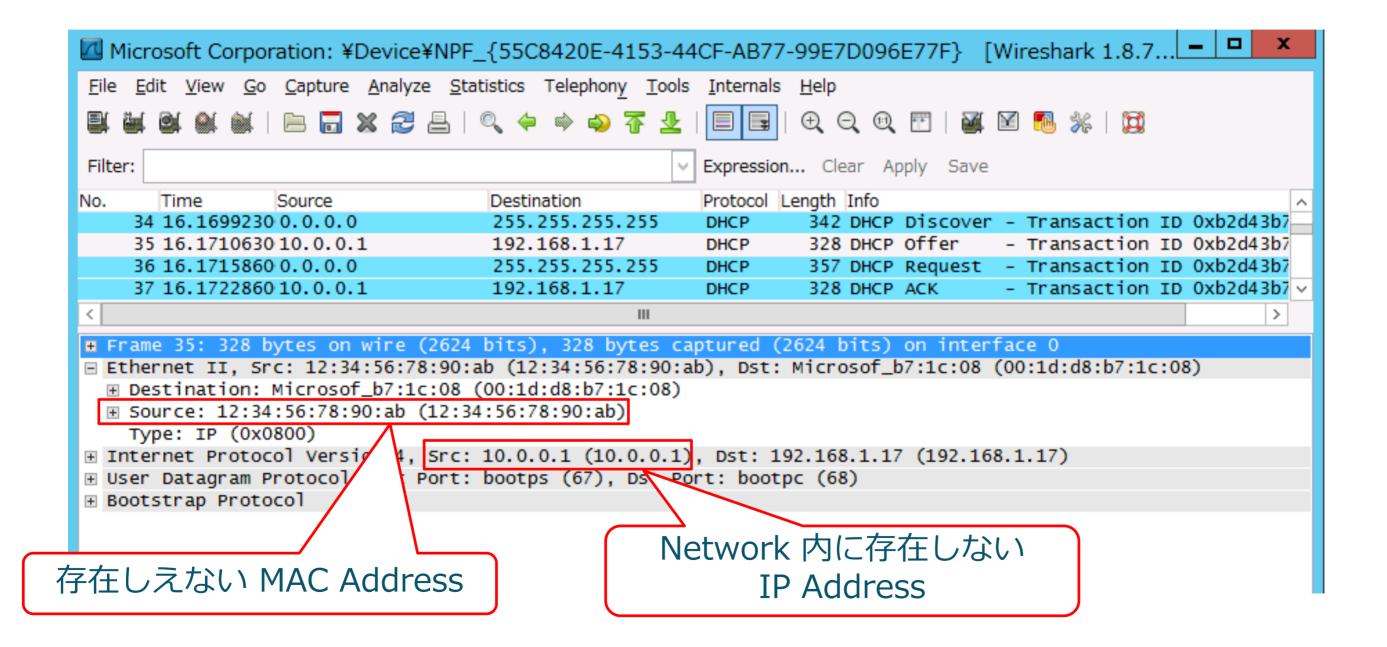
• 仮想マシンからの DHCP Discover を DHCP Extensions がフックし、SC2012 VMMと

連携して IP Address を割り当てる模様

- DHCP Server の Address は『10.0.0.1』 と表示される
- IP Pool で設定した IP Address / DNS Server Address などが DHCP のよう に割り当て可能
- 一度設定された IP Address は、 Release / Renew しても同じ Address が 割り当てられる模様だが、 VM Subnet の 設定を変更すると異なる IP Address が 割り当てられる模様。
- これは、使用しなくなったらプールに戻し、 必要になったらプールから再アサイン、 という挙動によるものと考えられる。

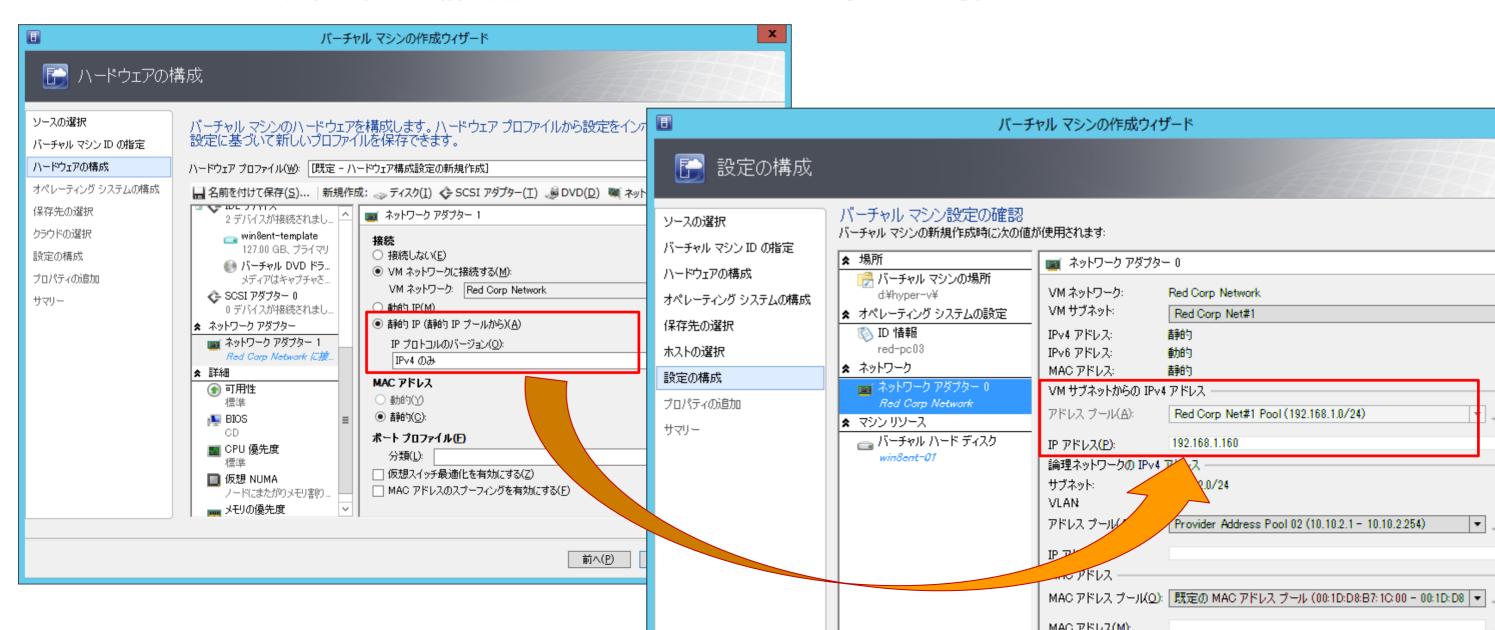
```
管理者: コマンド プロンプト
C:¥Windows¥system32>ipconfig /all
Windows IP 構成
 ブライマリ DNS サフィックス . . . . .:
イーサネット アダブター イーサネット:
 接続固有の DNS サフィックス . . . . .:
     -カル IPv6 アドレス. . . . : fe80::a81d:9de0:4676:dbca%13(優先)
 DHCPv6 クライアント DUID. . . . . . . : 00-01-00-01-19-22-55-25-00-1D-D8-B7-10gd
```

SC2012 VMM SP1 での DHCP 実装



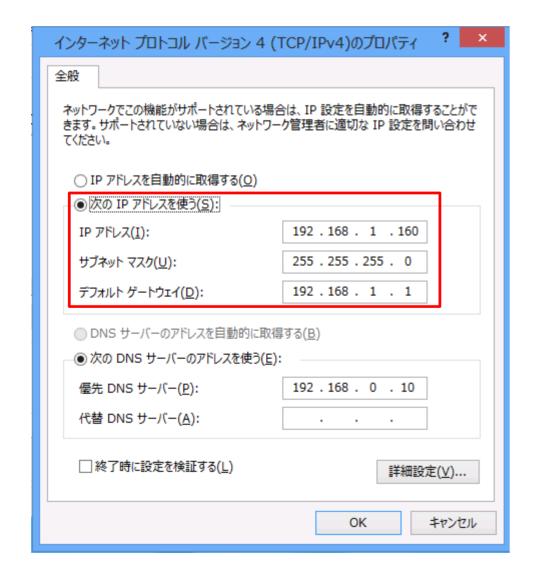
テンプレート展開での静的割り当て

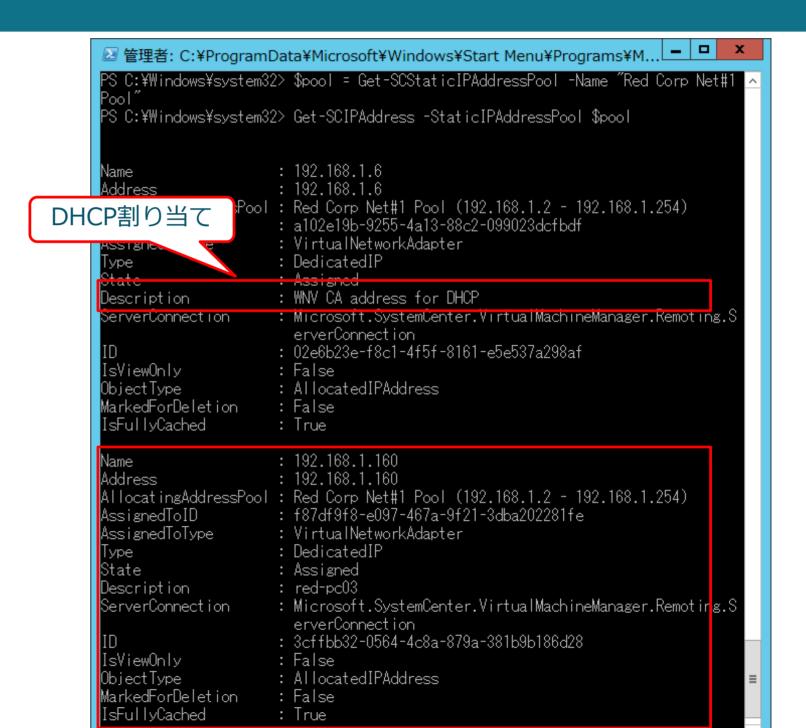
• テンプレート展開時に、静的設定及び IP アドレスの指定が可能



テンプレート展開での静的割り当て

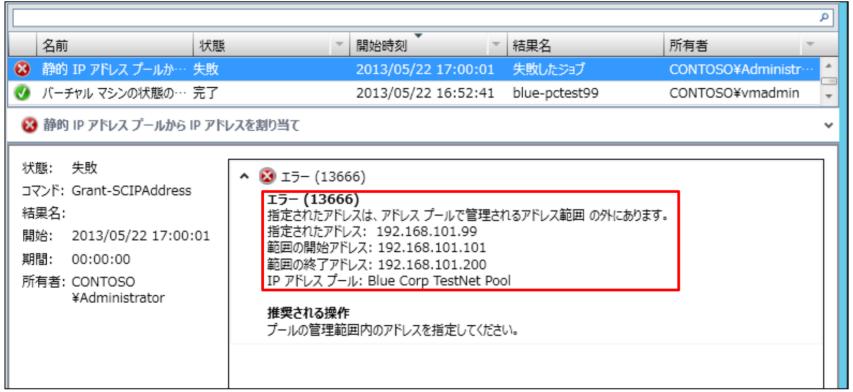
バーチャルマシン、プール割り当て ともに静的設定であることを確認

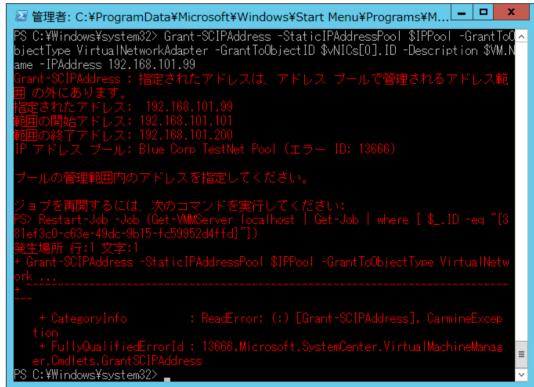




テンプレート展開での静的割り当て

- 静的 IP アドレスとして指定できるアドレスは、 IP プールの範囲内のアドレス
 - 範囲外のアドレスを指定すると、ジョブが失敗します





• 当然のことながら、ライブマイグレーションを実施しても静的 IP アドレスは維持

- 静的 IP アドレスの割り当ては、 GUI 上ではテンプレート展開時のみ可能
 - 既存バーチャルマシンの設定を確認しても、静的 IP は選択不可



- PowerShell を利用することにより、既存バーチャルマシンでも静的 IP 設定が実施可能
 - 但し、割り当て可能な IP アドレスは、 IP プールの範囲内のアドレス
 - 従って、ホストアドレス『1』は指定不可

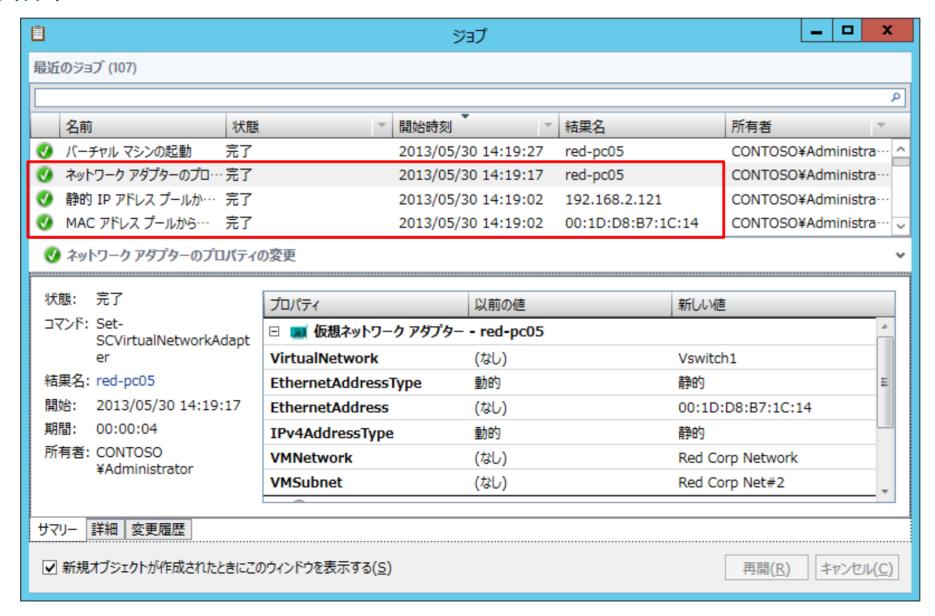
```
# "" 内で静的 IP アドレスを割り当てるバーチャルマシン名を指定
$VM Name = "VMName"
#""内で割り当てる VM ネットワーク名を指定
$VMNetwork Name = "VM Network"
# "" 内で割り当てる VM サブネット名を指定
$VMSubnet Name = "VM Subnet"
#""内で割り当てる IP アドレスのプール名を指定
$IPPool Name = "VM Network Pool"
#" 内で割り当てる IP アドレスを指定
$VM IPAddress = "192.168.1.10"
#""内で割り当てる MAC アドレスのプール名を指定
$MACPool Name = "既定の MAC アドレス プール"
#""内で使用する仮想スイッチ名を指定
$vswitch Name = "vswitch"
$VM = Get-SCVirtualMachine -Name $VM Name
$vNICsMAC = Get-SCVirtualNetworkAdapter -VM $VM
$vNICs = $VM.VirtualNetworkAdapters
$MACPool = Get-SCMACAddressPool -Name $MACPool Name
$IPPool = Get-SCStaticIPAddressPool -Name $IPPool Name
$vNICsMAC = Get-SCVirtualNetworkAdapter -VM $VM
Grant-SCMACAddress -MACAddressPool $MACPool -VirtualNetworkAdapter $vNICsMAC
$MACAddr = Get-SCMACAddress | Where-Object {$_.AssignedToID -eq $vNICsMAC.ID}
Grant-SCIPAddress -StaticIPAddressPool $IPPool -GrantToObjectType VirtualNetworkAdapter -GrantToObjectID $vNICs[0].ID -Description $VM.Name -IPAddress $VM_IPAddress
```

\$VirtualNetworkAdapter = Get-SCVirtualNetworkAdapter -Name \$VM_Name -ID \$vNICs.ID

\$VMNetwork = Get-SCVMNetwork -Name \$VMNetwork_Name
\$VMSubnet = Get-SCVMSubnet -Name \$VMSubnet_Name | where {\$_.VMNetwork.ID -eq \$VMNetwork.ID}

Set-SCVirtualNetworkAdapter -VirtualNetworkAdapter \$VirtualNetworkAdapter -VMNetwork \$VMNetwork -VMSubnet \$VMSubnet -VirtualNetwork \$vswitch_Name -MACAddress \$MACAddr.Address -MACAddressType Static -IPv4Address \$VM_IPAddress -IPv4AddressType Static -IPv6AddressType Dynamic -NoPortClassification - EnableVMNetworkOptimization \$false

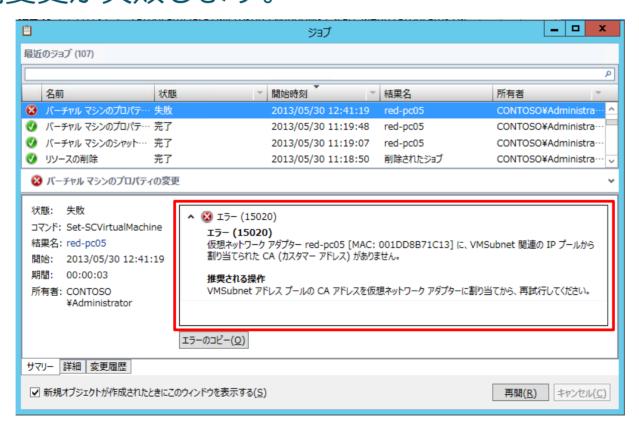
• 実行結果





静的割り当ての注意点

• バーチャルマシンのNIC設定にて、接続先のVMネットワークやVMサブネットを変更、もしくは一度『接続なし』にした後に再度同じVMネットワークに接続した場合、以下のエラーが発生して構成変更が失敗します。



『Grant-SCIPAddress 』 Cmdlet にて IP プールからアドレスを手動にて割り当てる必要がありますので、注意が必要です。

Broadcast over NVGRE

NVGRE でのブロードキャストの扱い

- Broadcast を利用するアプリケーションを使用しての検証を実施、以下の結果となりました。
 - 同一ホスト上の同一 仮想Networkに接続されている場合は、Broadcast 使用可能。
 - 異なるホスト上の場合は、同一仮想 Network でも Broadcast 使用不可。
- この結果から、同一物理ホスト上の同一仮想 Network 間は NVGRE によるカプセル化は行われていない模様です(仮想 Switch で折り返し通信?)
 - 同一物理ホスト上の仮想マシン間の通信で使用される L2 Frame Size を確認したところ、 1518byte でした。

と、第 6 回 WS2012CD で 説明させていただきましたが……

NVGRE でのブロードキャストの扱い

- PowerShell、もしくは SC2012 VMM GUI からマルチキャストプールを設定することにより、仮想ネットワーク上で Broadcast が利用可能です。

 - SC2012 VMM : 論理ネットワーク → IP プールの作成
- 『255.255.255.255/32 』『ホストアドレス .255/32 (ex:192.168.1.255/32) 』
 『224.0.0.0/4 』が VSID 単位で 一意のマルチキャストアドレスにマッピングされます。
- これにより、バーチャルマシン間のブロードキャスト通信が可能になります。
- DHCP のブロードキャストはフィルタードライバーで処理されてしまうため、仮想ネットワーク内で DHCP サーバーを運用する(BYO DHCP)ことはできません。

PowerShell での 実装

- PowerShell で ブロードキャスト通信を実装する場合、以下の Cmdlet を使用します。
 - ▶ 使用コマンド: New-NetVirtualizationCustomerRoute
 - ▶ コマンド使用例:

New-NetVirtualizationCustomerRoute -RoutingDomainID "{11111111-2222-3333-4444-000000005001}" -VirtualSubnetID "5001" -DestinationPrefix "224.0.0.0/4" -NextHop "239.0.1.1" -Metric 255

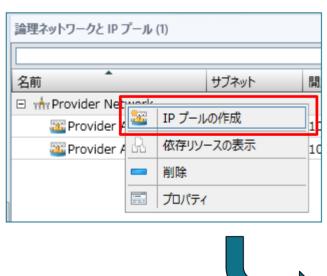
New-NetVirtualizationCustomerRoute -RoutingDomainID "{11111111-2222-3333-4444-00000005001}" -VirtualSubnetID "5001" -DestinationPrefix "255.255.255.255/32" -NextHop "239.0.1.1" -Metric 255

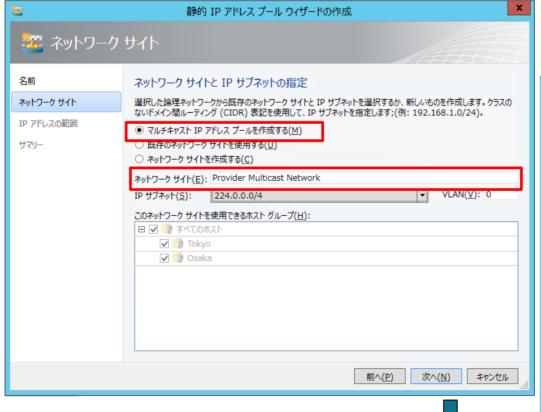
New-NetVirtualizationCustomerRoute -RoutingDomainID "{11111111-2222-3333-4444-00000005001}" -VirtualSubnetID "5001" -DestinationPrefix "192.168.1.255/32" -NextHop "239.0.1.1" -Metric 255

▶ ポイント: 『-NextHop 』で割り当てたい マルチキャストアドレスを指定する。 指定可能な範囲は 224.0.0.0/4 (224.0.0.1 から 239.255.255.255)。
MAC アドレスはマルチキャスト MAC アドレスとして自動生成されるため、設定不要

SC2012 VMM での 実装

- 『論理ネットワーク』→『 IP プールの作成』にて、マルチキャストアドレスプールを作成 します。
 - ▶ 予めネットワークサイトを作成しておく必要はありません(作成しても選択できません)
 - デフォルトは『224.0.0.1 ~ 239.255.255.255』の268,435,454 アドレスです。
 - → 割り当て可能な VSID は16,773,118 です。

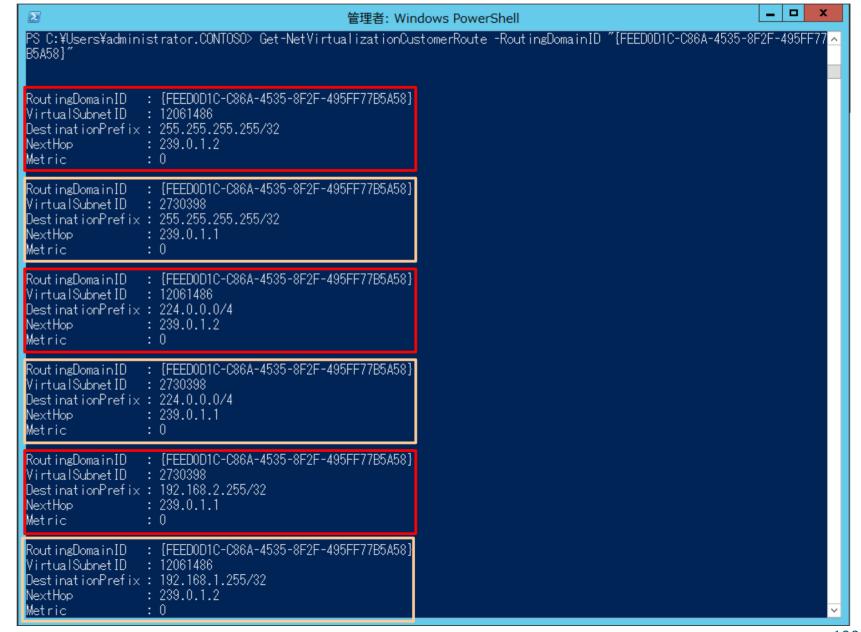




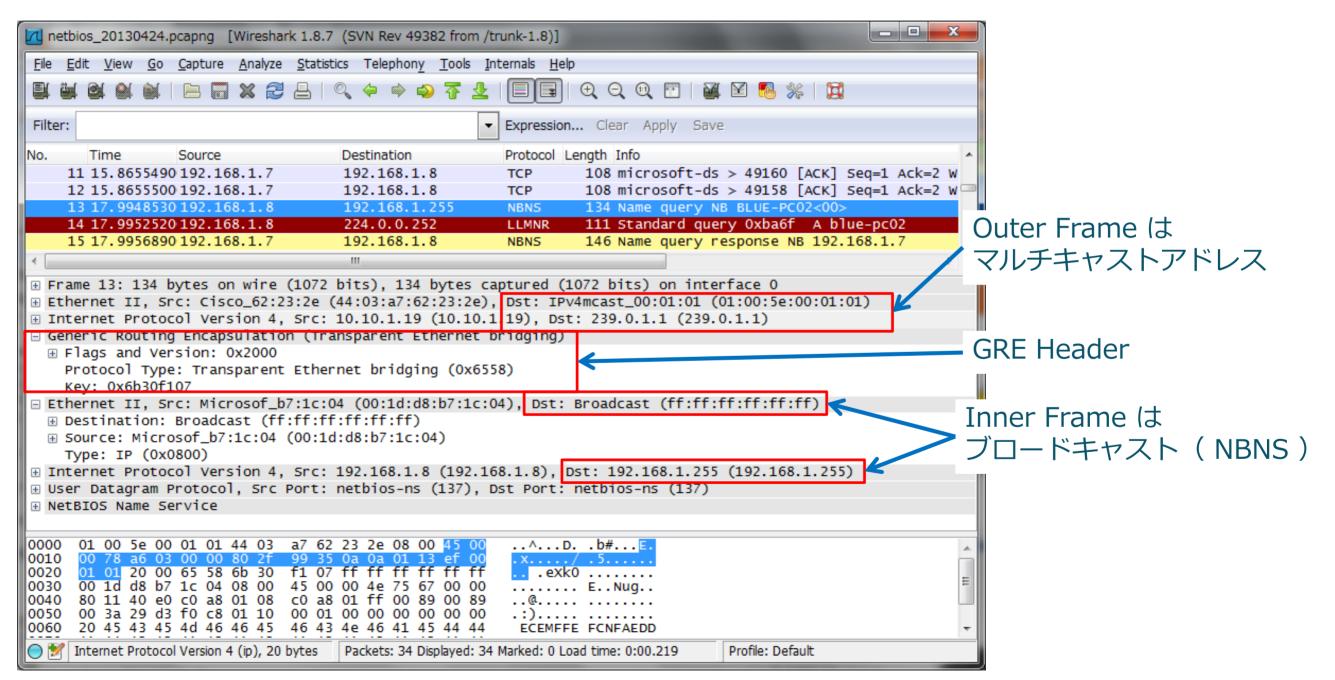


マルチキャスト割り当て確認

- 同一 VSID の複数のブロードキャスト/マルチキャストアドレスに対して、同一のプロバイダーマルチキャストアドレスが割り当てられていることが確認できます。
- 同一 RDID であっても VSID が 異なる場合には、異なるプロバイ ダーマルチキャストアドレスが割 り当てられています。



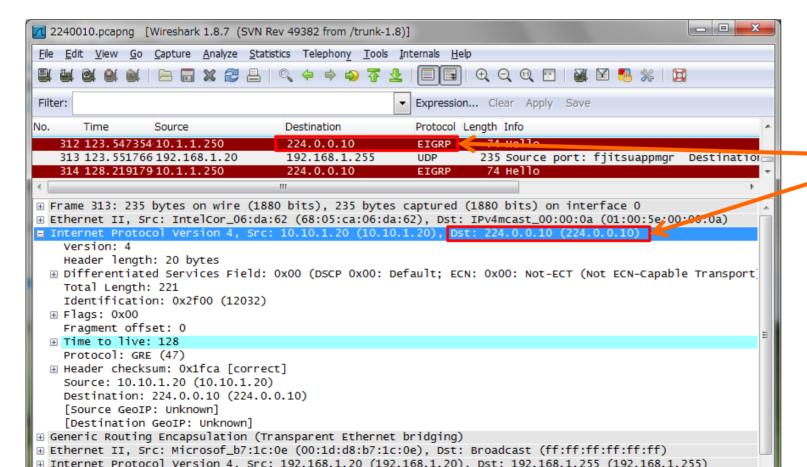
実際のブロードキャストパケット





ブロードキャスト通信実装時の注意点

- SC2012 VMM からデフォルト設定でマルチキャスト IP プールを作成すると、 『224.0.0.1』から割り当てられることになります。
- 224.0.0.0/24 は『予約済みリンクローカルアドレス』として IANA によって予約されている (RFC 1112) ため、利用しないことをお勧めします。
 - 以下のように既存マルチキャスト通信と同じアドレスを使用してしまいます。



ルーティングプロトコルが使用している マルチキャストアドレスと、 同じアドレスを使用してしまっている

ブロードキャスト通信実装時の注意点

• また、224.0.0.0/24 を使用した場合、NVGRE 用に生成されるマルチキャストの Time-To-Live(TTL) 値が『 128 』となっています。

```
⊕ Frame 313: 235 bytes on wire (1880 bits), 235 bytes captured (1880 bits) on interface 0
Ethernet II. Src: IntelCor_06:da:62 (68:05:ca:06:da:62). Dst: IPv4mcast_00:00:0a (01:00:5e:00:00:0a)
□ Internet Protocol Version 4. Src: 10.10.1.20 (10.10.1.20). Dst: 224.0.0.10 (224.0.0.10)
   Version: 4
   Header length: 20 bytes
 ⊕ Differentiated Services Field: 0x00 (DSCP 0x00: Default; ECN: 0x00: Not-ECT (Not ECN-Capable Transport
   Total Length: 221
   Identification: 0x2f00 (12032)
 ⊕ Flags: 0x00
   Fragment offset: 0

→ LEXPERT INTO (Note/Sequence): "Time To Live" != 1 for a packet sent to the Local Network Control Blow

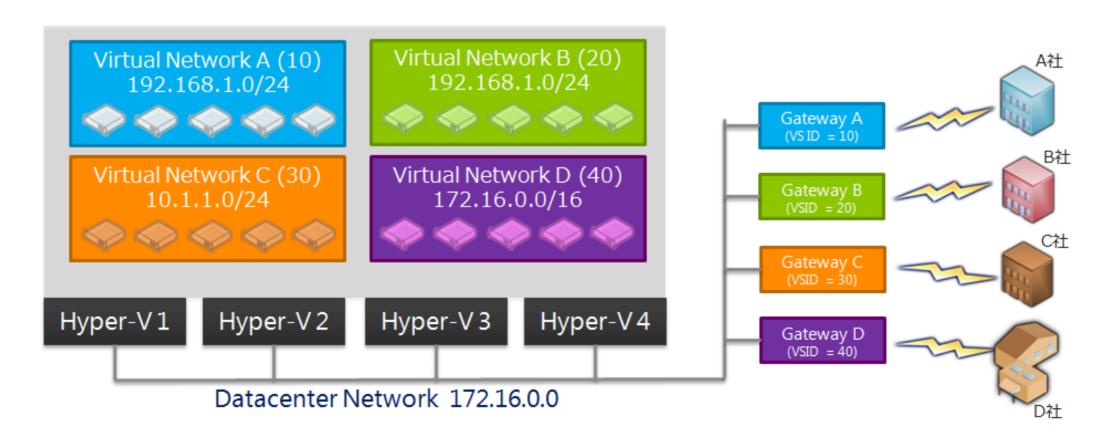
   Protocol: GRE (47)
 Source: 10.10.1.20 (10.10.1.20)
   Destination: 224.0.0.10 (224.0.0.10)
   [Source GeoIP: Unknown]
   [Destination GeoIP: Unknown]
Generic Routing Encapsulation (Transparent Ethernet bridging)
Ethernet II, Src: Microsof_b7:1c:0e (00:1d:d8:b7:1c:0e), Dst: Broadcast (ff:ff:ff:ff:ff:ff)
Internet Protocol Version 4, Src: 192.168.1.20 (192.168.1.20), Dst: 192.168.1.255 (192.168.1.255)
```

- 『予約済みリンクローカルアドレス』の TTL 値は、通常『1』がセットされています。
- リンクローカルであるため、通常ルーティングは行われません。
- マルチキャストがルーティングされない、などの事態の発生も予想される為、 239.0.1.0/24 ~ 239.255.255.255/24 (除く 239.128.0.0/24)
 (限定スコープアドレス)の利用をお勧めします。

Network Virtualization Gateway

Network Virtualization Gateway

- 仮想 Network と物理 Network の接続点
- NVGRE のカプセリング処理と、物理 Network への Routing を実施
 - > VPN Gateway や NAT Router として動作
- Gateway がいないと、仮想 Network は独立した Network として動かざるを得ないので、 Network Virtualization を考える上で Gateway は非常に重要なコンポーネント



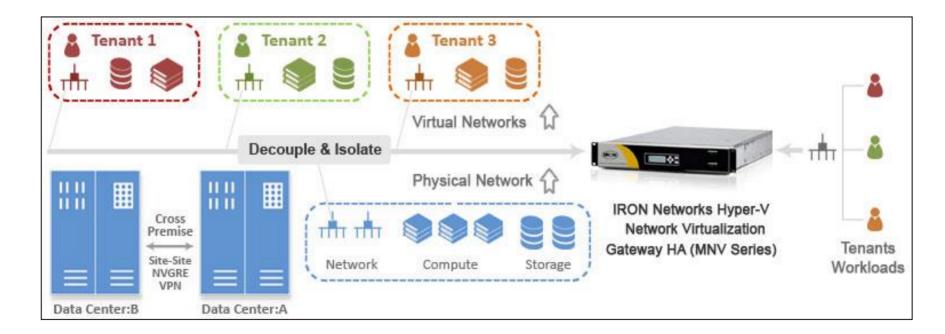
Network Virtualization Gateway と SC2012 VMM

- SC2012 VMM での Network Virtualization では、Gateway は『Gateway Provider』 とのセットで実装される。
- 『Gateway Provider』は SC2012 VMM Serverに導入され、SC2012 VMM と連携して、Gateway に対して必要な設定(VSID や Customer Address / Provider Address 、 VM Network の Routing Table 等)を送信/設定を実施
 - ➤ Provider は、 Gateway のベンダーから提供
 - Provider は SC2012 VMM に導入し、 VM Subnet のプロパティー内で設定
- Gateway 用として、単純に 2 Ethernet な仮想マシンを準備/接続しても、SC2012 VMMからはその仮想マシンが『 Gateway 用の仮想マシン』として認識できない為、使用不可
 - Gateway (Software 実装/ Hardware 実装を問わず)を SC2012 VMM に認識させる為に、『Gateway Provider 』が必要
- 3rd Party から提供予定。

3rd Party 実装例

• IRON Networks (旧 nAppliance Networks)
Gateway MNV Appliance - Microsoft Hyper-V Network Virtualization Gateway

URL: http://www.ironnetworks.com/products/NetGateway-MNV



• F5 Networks BIG-IP LTM VE (予定)

URL: http://download.microsoft.com/download/C/F/2/CF2F9D51-5D9E-45FE-B134-D0783220DCE8/20130315-F5.pdf

WNV Gateway の接続方式

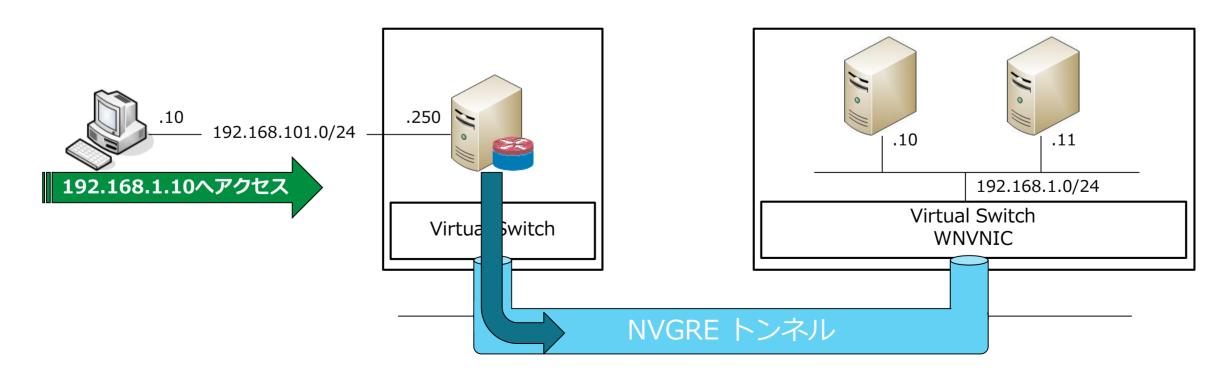
- WNV Gateway で提供される接続方式は『ローカル接続』と『リモート接続』
 - ▶ ローカルネットワーク:ローカルルーティングで仮想ネットワークを接続
 - ▶ リモートネットワーク: VPN(IKEv2 / PPTP / L2TP)経由でリモートネットワークと仮想ネットワークを接続



- Gateway は、VM ネットワーク単位で設定可能です。
 - ▶ 個別設定が可能になっています
- Gateway に対する諸設定(ルーティング/ VPN 設定)は、すべて SC2012 VMMから実施
 - そのための PowerShell Cmdlet も準備されています
 - " *-SCNetworkGateway " *-SCVPNConnection etc...

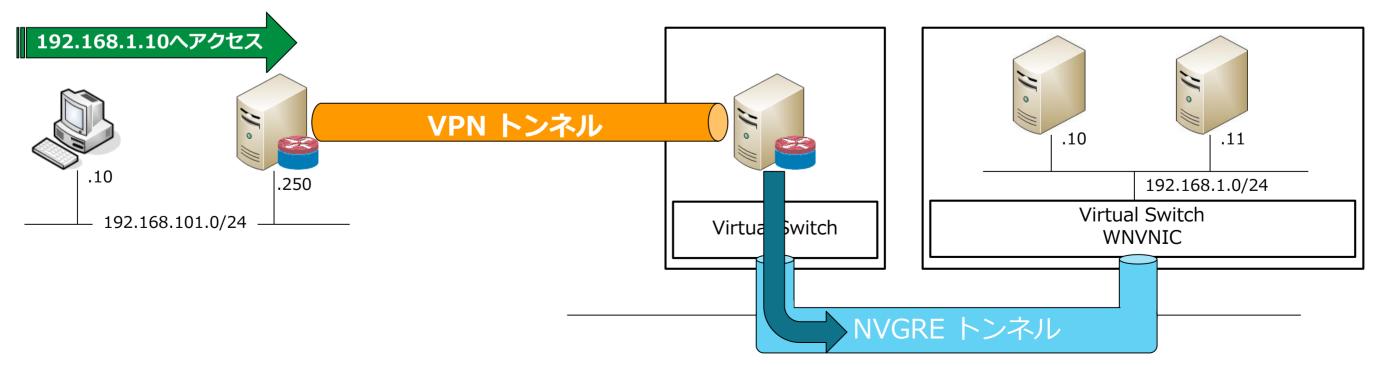
WNV Gateway の接続方式:ローカルネットワーク

- Gateway がローカルルーターとして稼働し、直接ルーティング接続を行う方式。
 - ➤ WNV Gateway がローカル接続可能なネットワークで実装可能
 - プライベートクラウドでの実装を想定
- 仮想ネットワークへのルーティングを WNV Gateway に対して設定することにより、 通常のネットワークノードとして接続することが可能。
 - ▶ ルーティングプロトコルによるダイナミックルーティングの可否は、使用する WNV Gateway に依存します。



WNV Gateway の接続方式: リモートネットワーク

- Gateway が VPN の終端装置として稼働し、対向の VPN 機器と接続、VPN経由で Site-to-Site (S2S)接続を行う方式。
 - ▶ WNV Gateway とVPN接続が可能であることが接続条件なため、公共ネットワーク(インターネット)経由でも安全にアクセスが可能
 - ▶ ハイブリッドクラウドでの実装を想定
- VPN の認証方式/暗号化方式は、使用する WNV Gateway と対向の VPN 機器に依存します。



WNV Gateway の接続方式:リモートネットワーク

リモートネットワーク接続では、認証方法(事前共有キー/証明書)、暗号化方式、 VPN プロトコルがSC2012 VMM コンソールから指定可能です。





WNV Gateway の接続方式: リモートネットワーク

- WNV Gateway がサポートする機能(認証方法、 暗号化方式、VPN プロトコル等々)は 『Get-SCNetworkGateway』Cmdlet にて取得 が可能です。
- 対向の VPN 装置の選定や、設定確認時に利用する と便利です。





NVGRE ホスト側負荷評価

NVGRE ホスト負荷試験

- 2 台の物理ホスト上に配置された、計 15 × 2 台のバーチャルマシンを使用
- バーチャルマシンは 2 台ずつ異なる VSID に所属(計 15 Virtual Network を使用)
- Disk I/O を伴わない、ネットワーク帯域計測ツールである『 iperf.exe 』を、ネットワーク負荷として使用
- iperf.exe を実行するバッチファイルを作成、タスクスケジューラにてすべての バーチャルマシンで同時刻に実行するように設定
- 物理ホストを跨ぐように組み合わせた、15組のバーチャルマシン間でiperf.exeによる負荷を発生させ、その際のホスト側 CPU 利用率をパフォーマンスモニターにて計測
- 物理ホスト間のネットワーク帯域は 1Gbps (Gigabit Ethernet × 1)
- 同条件で iperf.exe を実行するバーチャルマシンの稼働数を 30 台/ 20 台/ 10 台と変更 し、有意な差が発生するかを確認する

NVGRE ホスト負荷試験:試験環境

• 物理ホスト

> CPU : インテル Xeon プロセッサー X6550 (2GHz: 8 コア/ 16 スレッド) × 2

▶ メモリ : 256GB (8GB × 32 : 1066MHz)

 \triangleright HDD : 146GB SAS \times 2 (RAID 0)

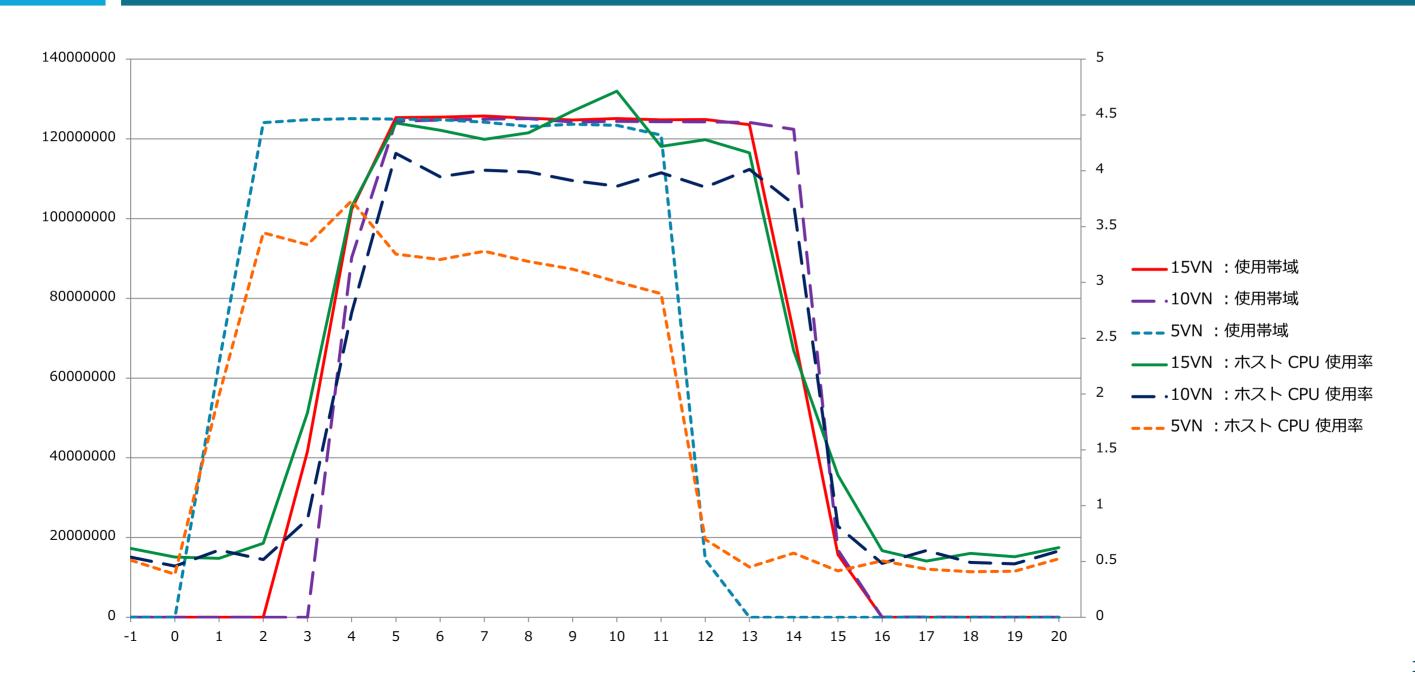
• バーチャルマシン

> vCPU : 2 vCPU

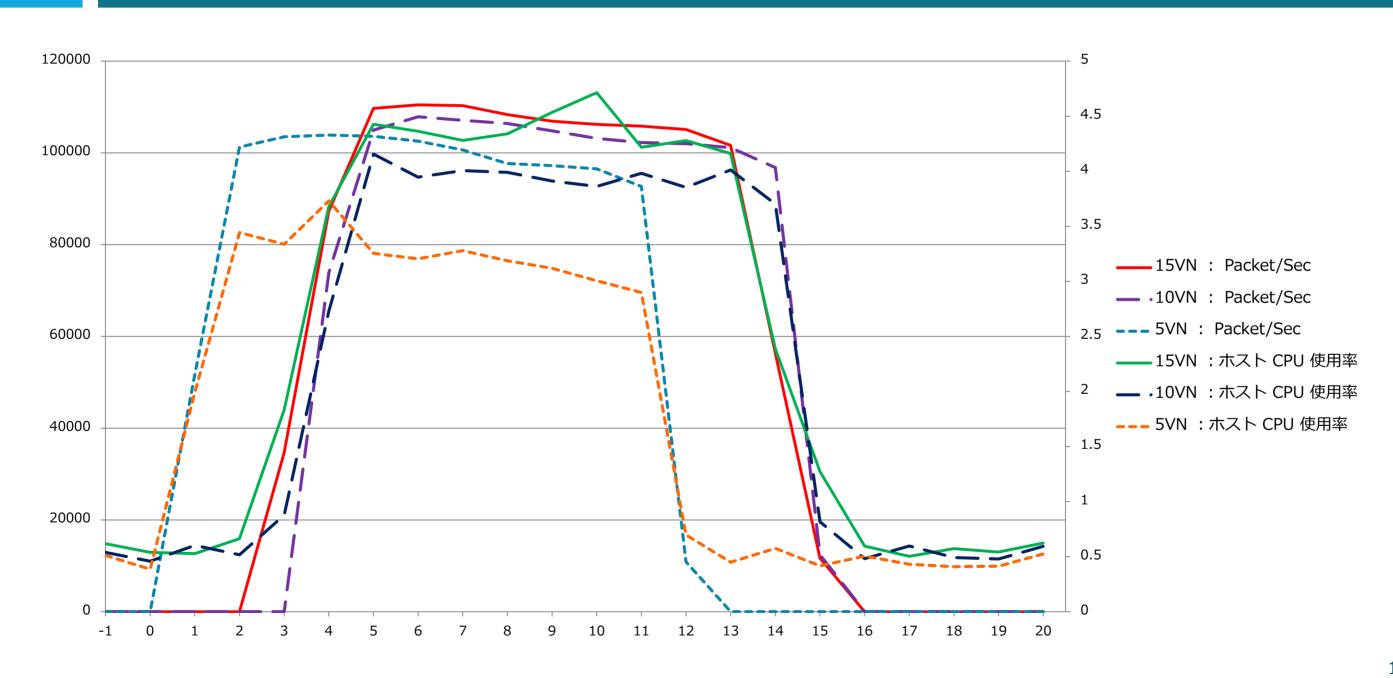
▶ メモリ : 4GB

➤ HDD : IDE 64GB × 1 (差分ディスク)

NVGRE ホスト負荷試験:結果(1)



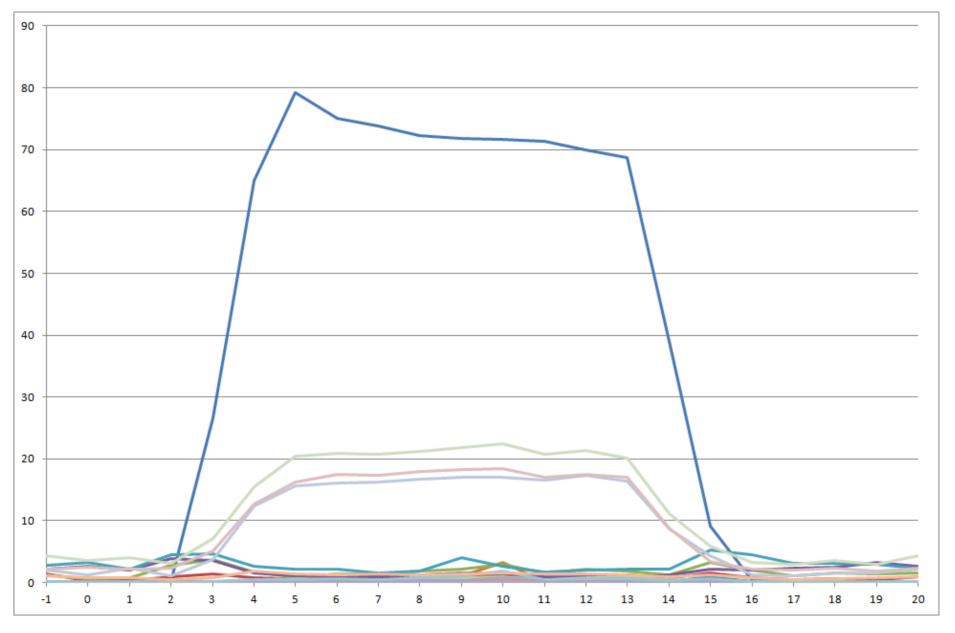
NVGRE ホスト負荷試験:結果(2)



NVGRE ホスト負荷試験:考察

- 使用帯域を使いきっている状況下でも CPU 利用率が変化(グラフ1)
- カプセル化を行っているパケット数と同調して変化(グラフ2)
- 従って、トラフィックを発生させているバーチャルマシンの台数には依存せず、 NVGRE でカプセル化を行うパケット数(Packets/Sec)によってホスト側の CPU 負荷が変化すると考えられる
- CPU 負荷は最大時で 4.71%
 - ⇒ CPU 負荷の実態はどうなっている? 綺麗に並列処理されている?

NVGRE ホスト負荷試験:追加確認

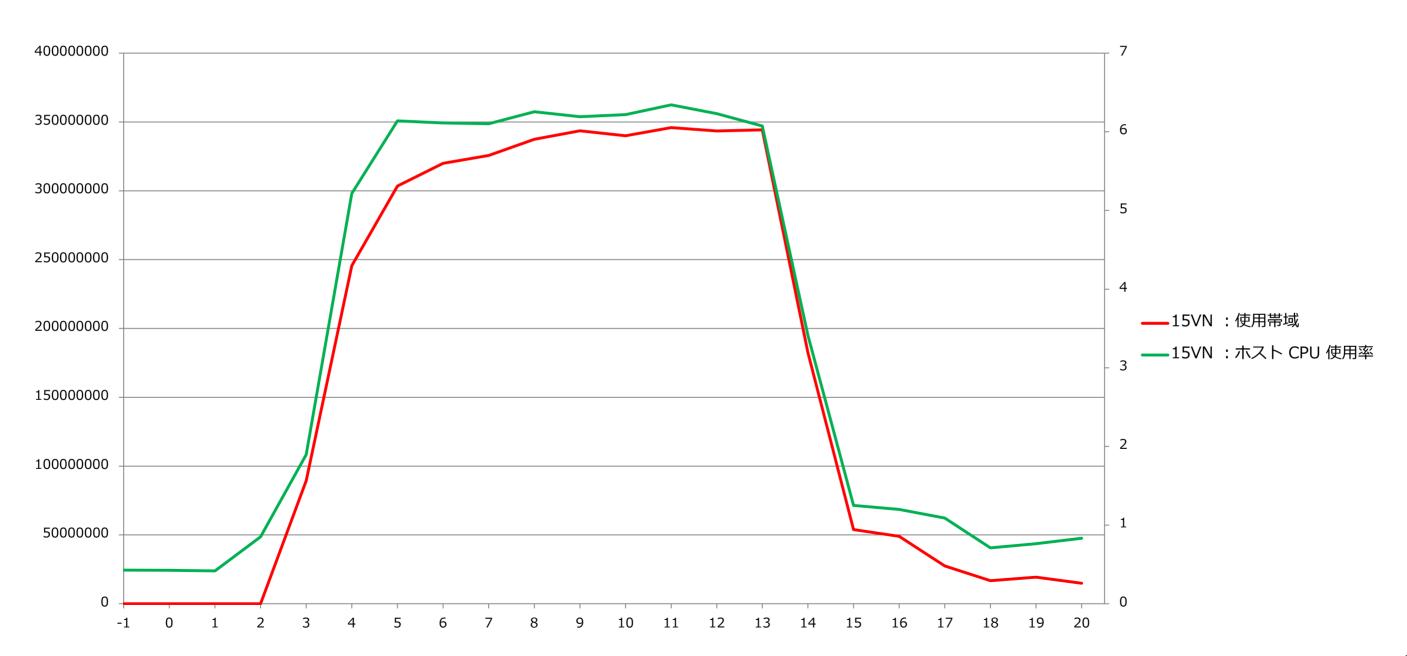


- 15VN テスト時に 全 VP (32 VP) の使用率を取得
- 32 VP 中、 1VP の負荷上昇を 確認
- パケット処理数の負荷傾向と同じ傾向を示している

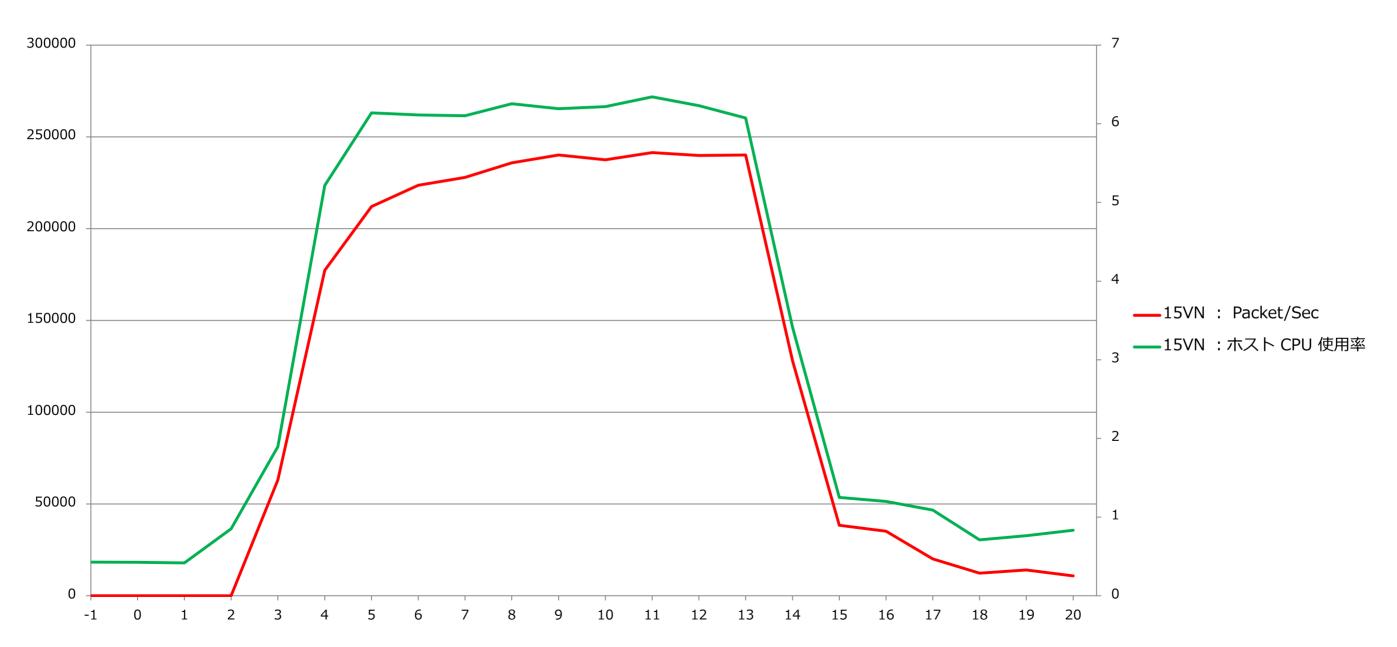
NVGRE ホスト負荷試験: 10Gb 試験

- 2 台の物理ホスト上に配置された、計 15 × 2 台のバーチャルマシンを使用
- バーチャルマシンは 2 台ずつ異なる VSID に所属(計 15 Virtual Network を使用)
- Disk I/O を伴わない、ネットワーク帯域計測ツールである『iperf.exe 』を、ネットワーク負荷として使用
- 物理ホストを跨ぐように組み合わせた、 15 組のバーチャルマシン間で iperf.exe による負荷を発生させ、その際のホスト側 CPU 利用率をパフォーマンスモニターにて計測
- 物理ホスト間のネットワーク帯域は 10Gbps (10 Gigabit Ethernet × 1)
- 全 VP のCPU 使用率も同時に取得し、特定 VP の処理集中傾向がみられるかを確認する

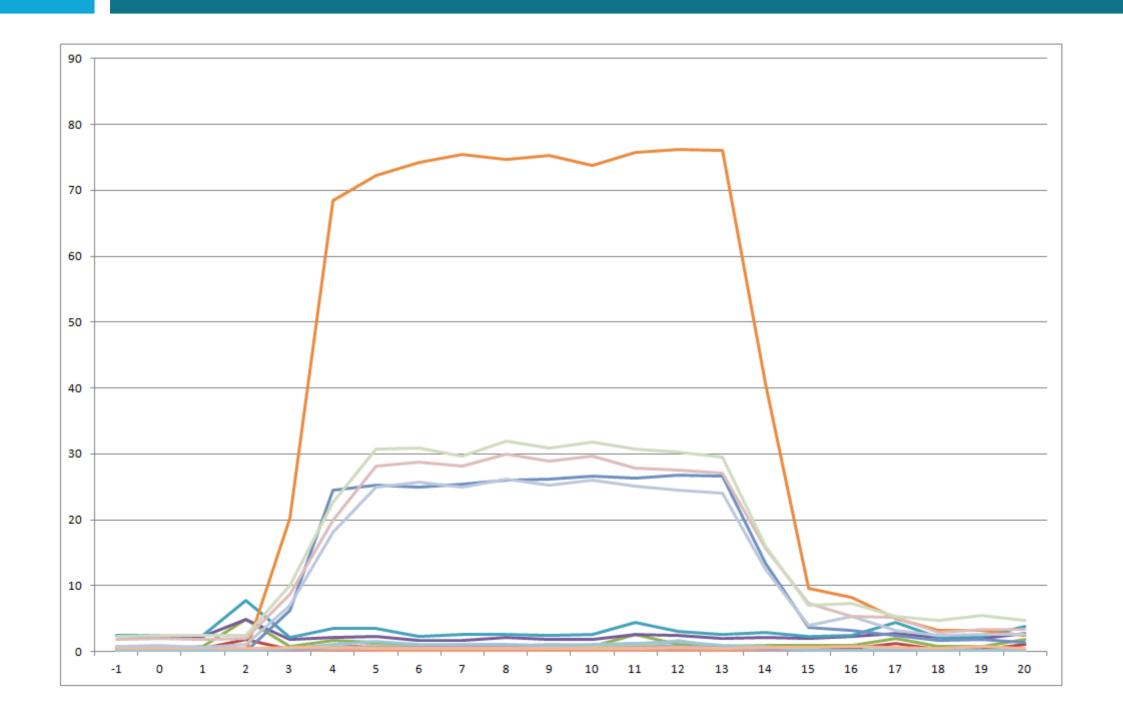
NVGRE ホスト負荷試験: 10Gb 試験結果(1)



NVGRE ホスト負荷試験: 10Gb 試験結果 (2)



NVGRE ホスト負荷試験: 10Gb 試験結果 (3)



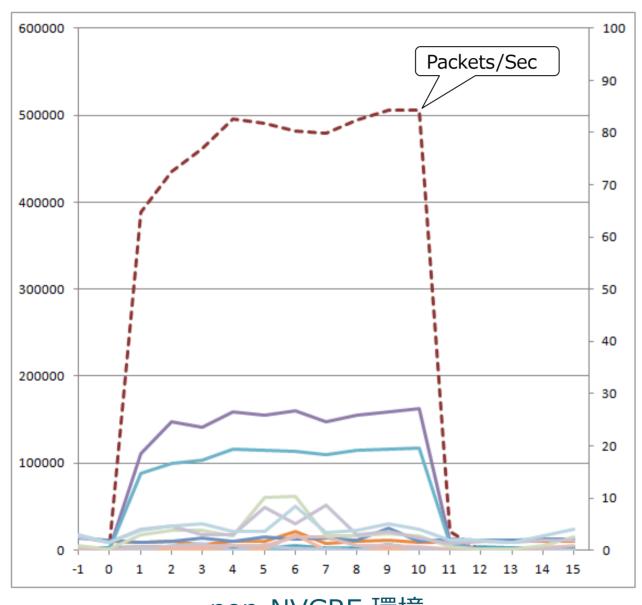
NVGRE ホスト負荷試験: 10Gb 試験考察

- 使用帯域は 2.58 Gbps 程度であり、帯域には余裕がある状況。
- PPS の観点からもネットワーク負荷は十分に余裕があり、 10G 環境下ではネットワーク 性能を使いきれていない状況を確認。
- CPU 負荷(全体)では最大時で 6.3% 程度
- Root VP の状況を確認すると、特定の VP に処理が集中している状況を確認 (最大時: 76.2%)
 - ⇒ この負荷は、本当に全部 NVGRE の処理負荷?

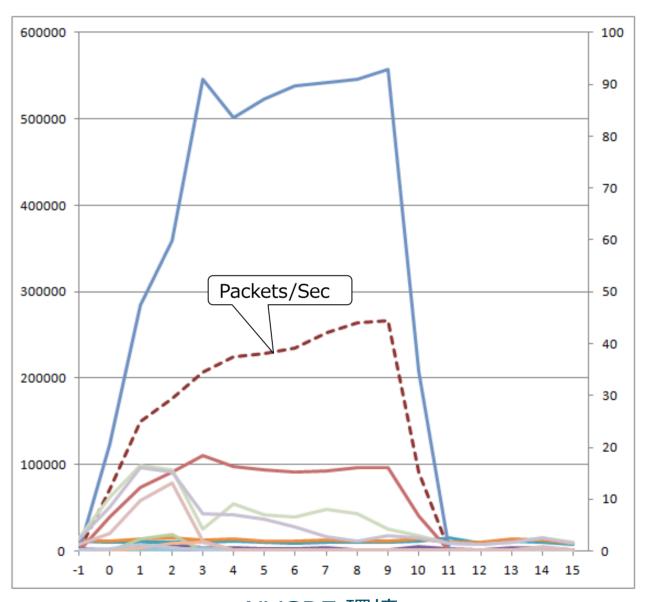
比較試験: non-NVGRE vs NVGRE

- 2 台の物理ホスト上に配置された、 2 台のバーチャルマシンを使用
- Disk I/O を伴わない、ネットワーク帯域計測ツールである『iperf.exe 』を、ネットワーク負荷として使用
- NVGRE を設定した場合、設定しない場合でそれぞれパフォーマンスを測定
- 接続する仮想スイッチは、両パターンともに『標準スイッチ』
- 物理ホスト間のネットワーク帯域は 10Gbps (10 Gigabit Ethernet × 1)
- 全 VP のCPU 使用率も同時に取得し、特定 VP の処理集中傾向がみられるかを確認する

比較試験: non-NVGRE vs NVGRE 結果



non-NVGRE 環境 (Packets/Sec / Root-VP CPU 使用率)



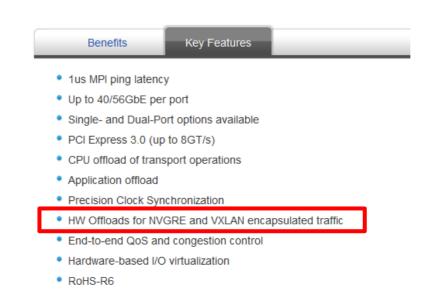
NVGRE 環境 (Packets/Sec / Root-VP CPU 使用率)

比較試験: non-NVGRE vs NVGRE : 考察

- NVGRE を使用しない環境では、5.5Gbps 程度のスループットに対して、 NVGRE 環境では 2.8Gbps 程度のスループット。
- NVGRE を使用しない環境と比較して、1 Root VP (Root VP 15)に対して負荷が発生していることが確認できた。
- この負荷がボトルネックになって、スループットが上がらない?
 - ⇒ この負荷を H/W オフロードできれば......







まとめ

まとめ

- Network Virtualization は非常に便利な機能です
- Private Cloud 等、 multi-tenant を意識した設計をする場合には、お勧め機能の一つです → 事業部単位や子会社単位で基盤を提供し、論理的には異なる Network としたい、等々
- SC2012 VMM SP1 と組み合わせることにより、Windows Network Virtualization の能力を最大限引き出すことが可能です。
- GUI で実現できない場合は、 PowerShell で。
- 欠けたピースも揃いつつあり、目の前には vNext が見え始めています。
- 是非現バージョンで検証を行って、 vNext に備えてください。

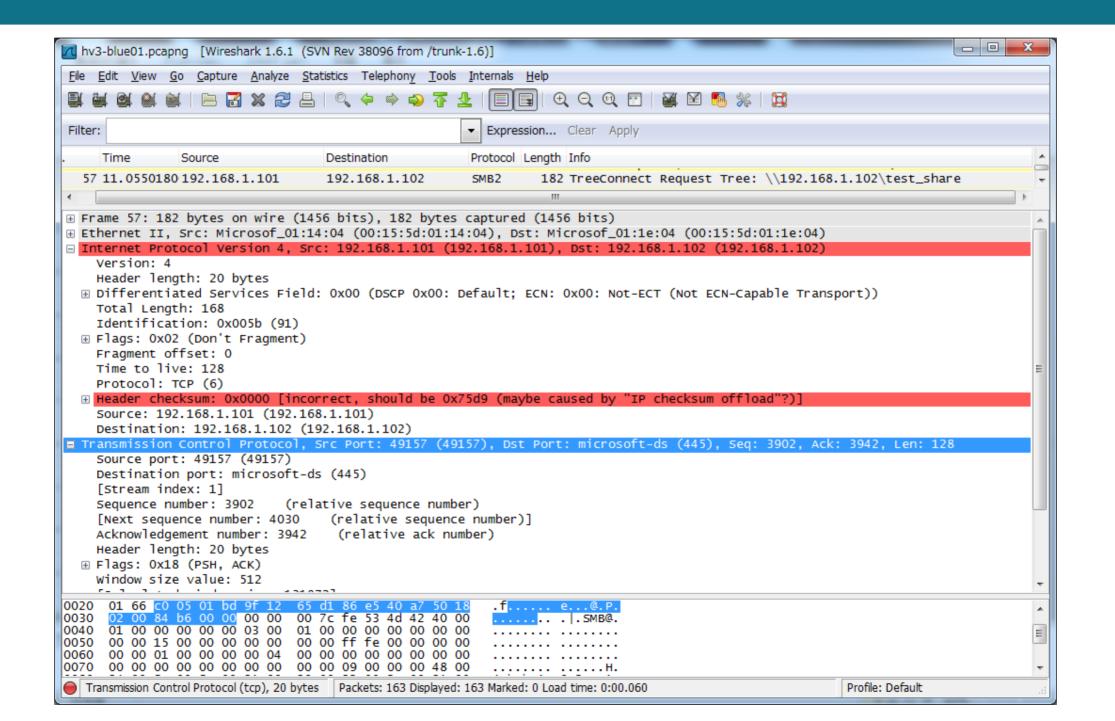


Appendix A: IP Rewrite とは? (軽く)

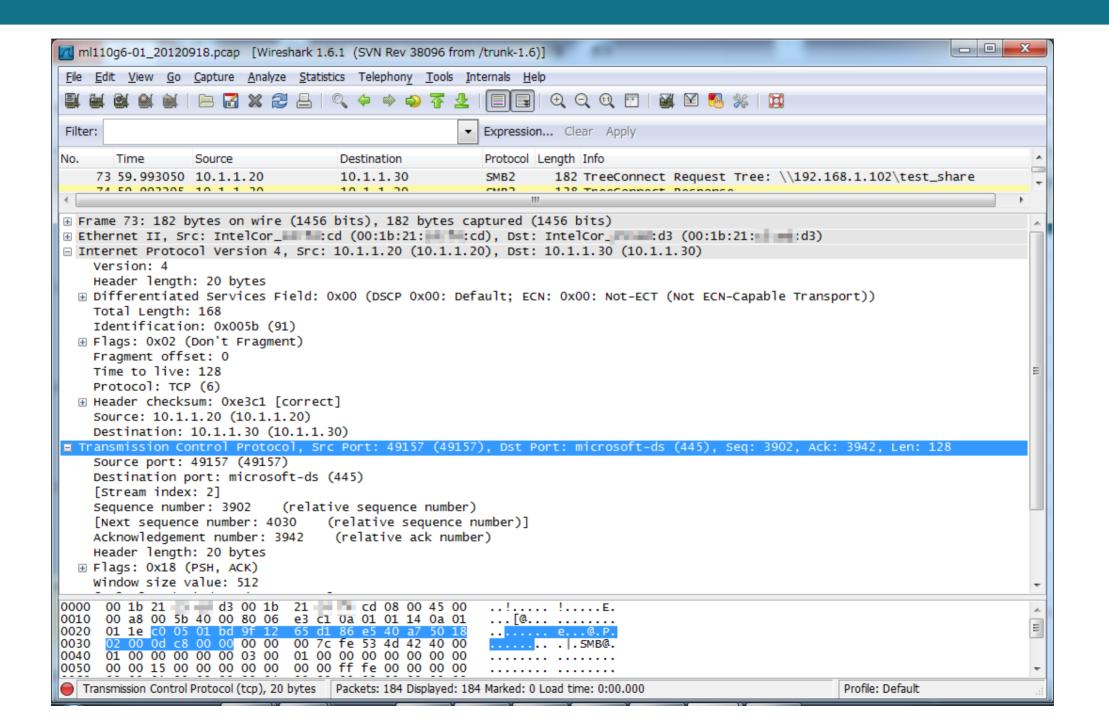
IP Rewrite のポイント

- データセンター内 IP Address と仮想マシン IP Address の 1 対 1 NAT
 - ▶ ペイロード含め、一切の変更を行わずに、 MAC Address / IP Address を書き換え
 - ▶ カプセル化を行わない為、パケットオーバーヘッドは一切なし
 - ➤ TCP オフロード等の H/W 支援機能がフル活用可能
- Network 経路上での等コストマルチパス(ECMP)バランシングも、ネットワーク機器の 設定を変更する事なく動作可能
- アクセススイッチ(仮想化モジュール)で NAT 処理を行う為、仮想マシンは 仮想ネットワークを全く意識しない

IP Rewrite パケットキャプチャ: Guest OS



IP Rewrite パケットキャプチャ: Network

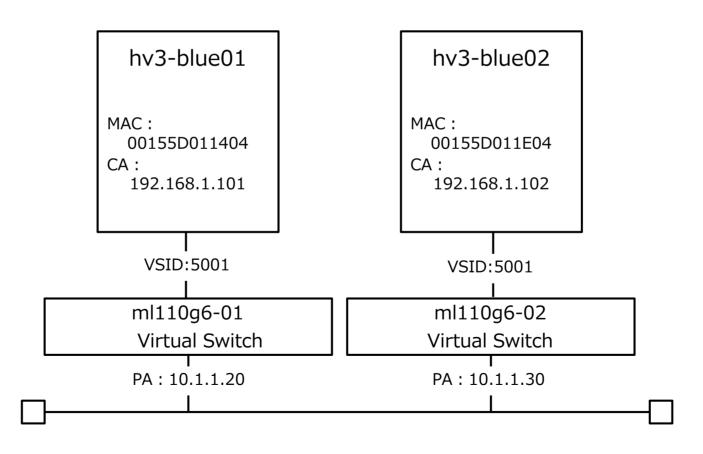


Appendix B: Network Virtualization の PowerShell での実装例

実装例(1)基本形

2 台の物理ホスト上に配置された、2 台の仮想マシンで Network Virtualization を実装。トンネル方式は NVGRE 。

実装例(1)基本形・構成図



実装例(1)基本形・PowerShell

```
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5001" -CustomerAddress "192,168,1,101" -ProviderAddress "10,1,1,20" -MACAddress "00155D011404" -Rule
"TranslationMethodEncap" -CimSession "ml110g6-01"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5001" -CustomerAddress "192.168.1.102" -ProviderAddress "10.1.1.30" -MACAddress "00155D011E04" -Rule
"TranslationMethodEncap" -CimSession "ml110g6-01"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5001" -CustomerAddress "192.168.1.101" -ProviderAddress "10.1.1.20" -MACAddress "00155D011404" -Rule
"TranslationMethodEncap" -CimSession "ml110g6-02"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5001" -CustomerAddress "192.168.1.102" -ProviderAddress "10.1.1.30" -MACAddress "00155D011E04" -Rule
"TranslationMethodEncap" -CimSession "ml110g6-02"
New-NetVirtualizationCustomerRoute -RoutingDomainID "{11111111-2222-3333-4444-000000005001}" -VirtualSubnetID "5001" -DestinationPrefix "192.168.1.0/24" -NextHop
"0.0.0.0" -Metric 255 -CimSession "ml110g6-01"
New-NetVirtualizationCustomerRoute -RoutingDomainID "{11111111-2222-3333-4444-000000005001}" -VirtualSubnetID "5001" -DestinationPrefix "192.168.1.0/24" -NextHop
"0.0.0.0" -Metric 255 -CimSession "ml110g6-02"
$cred = Get-Credential "dob1\( \) administrator"
$WNVNIC = "WNVNIC"
$iface = Get-NetAdapter $WNVNIC -CimSession "ml110g6-01"
New-NetVirtualizationProviderAddress -InterfaceIndex $iface.InterfaceIndex -ProviderAddress "10.1.1.20" -PrefixLength 24 -CimSession "ml110g6-01"
Invoke-Command -ComputerName "ml110g6-01" -Credential $cred {
Get-VMNetworkAdapter "hv3-blue01" | where {$ .MacAddress -eq "00155D011404"} | Set-VMNetworkAdapter -VirtualSubnetID 5001;
$iface = Get-NetAdapter $WNVNIC -CimSession "ml110g6-02"
New-NetVirtualizationProviderAddress -InterfaceIndex $iface.InterfaceIndex -ProviderAddress "10.1.1.30" -PrefixLength 24 -CimSession "ml110g6-02"
Invoke-Command -ComputerName "ml110g6-12" -Credential $cred {
Get-VMNetworkAdapter "hv3-blue02" | where {$_.MacAddress -eq "00155D011E04"} | Set-VMNetworkAdapter -VirtualSubnetID 5001;
```

実装例(2)応用形

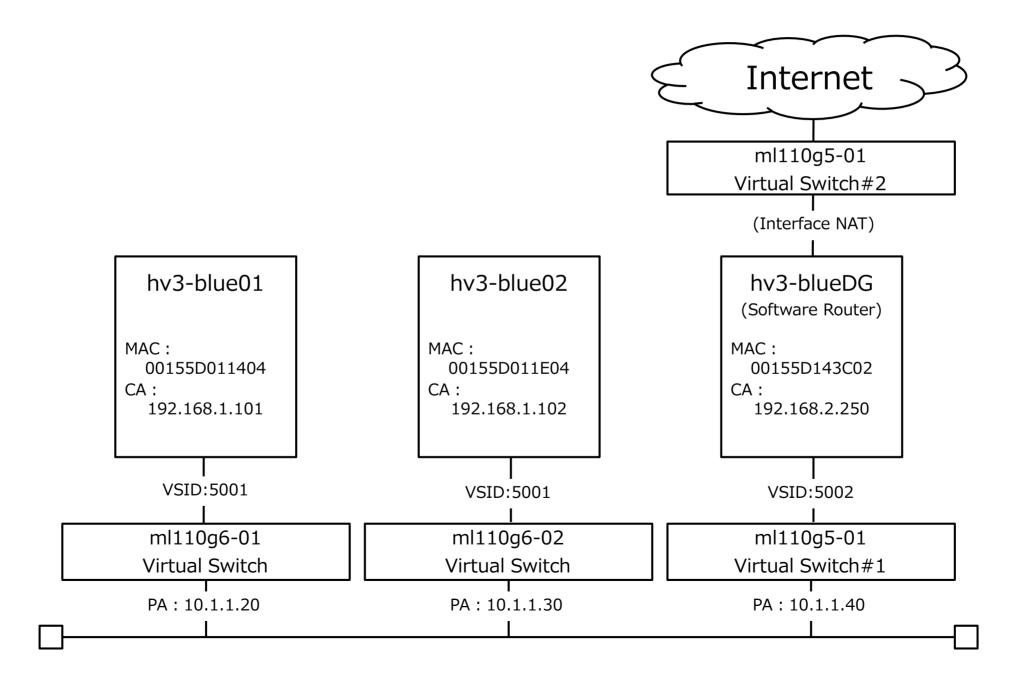
3 台の物理ホスト上に配置された、3 台の仮想マシンで Network Virtualization を実装。

仮想マシン 2 台は Windows Server 、もう 1 台は Software Router。

Software Router 経由で Internet と通信可能。

Software Router は異なるセグメント(異なる VSID)に設定、 VSID 間で Routing を実施。 トンネル方式は NVGRE 。

実装例(2)応用形・構成図



実装例(2)応用形・PowerShell(1)

```
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5001" -CustomerAddress "192.168.1.101" -ProviderAddress "10.1.1.20" -MACAddress "00155D011404" -Rule "TranslationMethodEncap" -VMName "hv3-blue01" -CimSession "ml110g6-01"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5001" -CustomerAddress "192.168.1.102" -ProviderAddress "00155D011E04" -Rule "TranslationMethodEncap" -VMName "hv3-blue02" -CimSession "ml110g6-01"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5001" -CustomerAddress "192.168.1.1" -ProviderAddress "169.254.254." -MACAddress "101010101010" -Rule "TranslationMethodEncap" -VMName "hv3-blue-GW" -CimSession "ml110g6-
01"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5002" -CustomerAddress "192.168.2.250" -ProviderAddress "10.1.1.40" -MACAddress "00155D143C02" -Rule "TranslationMethodEncap" -VMName "hv3-blueDG" -CimSession "ml110g6-01"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5002" -CustomerAddress "0.0.0.0" -ProviderAddress "10.1.1.40" -MACAddress "00155D143C02" -Rule "TranslationMethodEncap" -VMName "BlueWildcard" -CimSession "ml110g6-01"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5002" -CustomerAddress "192.168.2.1" -ProviderAddress "169.254.254.254" -MACAddress "1010101011" -Rule "TranslationMethodEncap" -VMName "hv3-blueDGW" -CimSession "ml110g6-
01"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5001" -CustomerAddress "192.168.1.101" -ProviderAddress "10.1.1.20" -MACAddress "00155D011404" -Rule "TranslationMethodEncap" -VMName "hv3-blue01" -CimSession "ml110g6-02"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5001" -CustomerAddress "192.168.1.102" -ProviderAddress "10.1.1.30" -MACAddress "00155D011E04" -Rule "TranslationMethodEncap" -VMName "hv3-blue02" -CimSession "ml110g6-02"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5001" -CustomerAddress "192.168.1.1" -ProviderAddress "169.254.254" -MACAddress "101010101010" -Rule "TranslationMethodEncap" -VMName "hv3-blue-GW" -CimSession "ml110g6-
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5002" -CustomerAddress "192.168.2.250" -ProviderAddress "10.1.1.40" -MACAddress "00155D143C02" -Rule "TranslationMethodEncap" -VMName "hv3-blueDG" -CimSession "ml110g6-02"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5002" -CustomerAddress "0.0.0.0" -ProviderAddress "10.1.1.40" -MACAddress "00155D143C02" -Rule "TranslationMethodEncap" -VMName "BlueWildcard" -CimSession "ml110g6-02"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5002" -CustomerAddress "192.168.2.1" -ProviderAddress "169.254.254.254" -MACAddress "1010101011" -Rule "TranslationMethodEncap" -VMName "hv3-blueDGW" -CimSession "ml110g6-
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5001" -CustomerAddress "192.168.1.101" -ProviderAddress "10.1.1.20" -MACAddress "00155D011404" -Rule "TranslationMethodEncap" -VMName "hv3-blue01" -CimSession "ml110g5-01"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5001" -CustomerAddress "192.168.1.102" -ProviderAddress "10.1.1.30" -MACAddress "00155D011E04" -Rule "TranslationMethodEncap" -VMName "hv3-blue02" -CimSession "ml110q5-01"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5001" -CustomerAddress "192.168.1.1" -ProviderAddress "169.254.254" -MACAddress "1010101010101" -Rule "TranslationMethodEncap" -VMName "hv3-blue-GW" -CimSession "ml110q5-
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5002" -CustomerAddress "192.168.2.250" -ProviderAddress "10.1.1.40" -MACAddress "00155D143C02" -Rule "TranslationMethodEncap" -VMName "hv3-blueDG" -CimSession "ml110q5-01"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5002" -CustomerAddress "0.0.0.0" -ProviderAddress "10.1.1.40" -MACAddress "00155D143C02" -Rule "TranslationMethodEncap" -VMName "BlueWildcard" -CimSession "ml110q5-01"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5002" -CustomerAddress "192.168.2.1" -ProviderAddress "169.254.254.254" -MACAddress "1010101011" -Rule "TranslationMethodEncap" -VMName "hv3-blueDGW" -CimSession "ml110g5-
01"
```

実装例(2)応用形・PowerShell(2)

```
New-NetVirtualizationCustomerRoute -RoutingDomainID "{11111111-2222-3333-4444-00000005001}" -VirtualSubnetID "5001" -DestinationPrefix "192.168.1.0/24" -NextHop "0.0.0.0" -Metric 255 -CimSession "ml110g6-01" New-NetVirtualizationCustomerRoute -RoutingDomainID "{11111111-2222-3333-4444-00000005001}" -VirtualSubnetID "5002" -DestinationPrefix "192.168.2.0/24" -NextHop "0.0.0.0" -Metric 255 -CimSession "ml110g6-01"
New-NetVirtualizationCustomerRoute -RoutingDomainID "{11111111-2222-3333-4444-00000005001}" -VirtualSubnetID "5002" -DestinationPrefix "0.0.0.0/0" -NextHop "192.168.2.250" -Metric 255 -CimSession "ml110g6-01"
New-NetVirtualizationCustomerRoute -RoutingDomainID "{11111111-2222-3333-4444-00000005001}" -VirtualSubnetID "5001" -DestinationPrefix "192.168.1.0/24" -NextHop "0.0.0.0" -Metric 255 -CimSession "ml110g6-02"
New-NetVirtualizationCustomerRoute -RoutingDomainID "{11111111-2222-3333-4444-00000005001}" -VirtualSubnetID "5002" -DestinationPrefix "192.168.2.0/24" -NextHop "0.0.0.0" -Metric 255 -CimSession "ml110g6-02" New-NetVirtualizationCustomerRoute -RoutingDomainID "{11111111-2222-3333-4444-000000005001}" -VirtualSubnetID "5002" -DestinationPrefix "0.0.0.0/0" -NextHop "192.168.2.250" -Metric 255 -CimSession "ml110g6-02"
New-NetVirtualizationCustomerRoute -RoutingDomainID "{11111111-2222-3333-4444-00000005001}" -VirtualSubnetID "5001" -DestinationPrefix "192.168.1.0/24" -NextHop "0.0.0.0" -Metric 255 -CimSession "ml110g5-01"
New-NetVirtualizationCustomerRoute -RoutingDomainID "{11111111-2222-3333-4444-00000005001}" -VirtualSubnetID "5002" -DestinationPrefix "192.168.2.0/24" -NextHop "0.0.0.0" -Metric 255 -CimSession "ml110g5-01"
New-NetVirtualizationCustomerRoute -RoutingDomainID "{11111111-2222-3333-4444-00000005001}" -VirtualSubnetID "5002" -DestinationPrefix "0.0.0.0/0" -NextHop "192,168,2,250" -Metric 255 -CimSession "ml110g5-01"
$cred = Get-Credential "dob1\text{\text{\text{dob1\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{e}}}}}}}
$WNVNIC = "WNVNIC"
$iface = Get-NetAdapter $WNVNIC -CimSession "ml110g6-01"
New-NetVirtualizationProviderAddress -InterfaceIndex $iface.InterfaceIndex -ProviderAddress "10.1.1.20" -PrefixLength 24 -CimSession "ml110g6-01"
Invoke-Command -ComputerName "ml110g6-01" -Credential $cred {
Get-VMNetworkAdapter "hv3-blue01" | where {$ .MacAddress -eq "00155D011404"} | Set-VMNetworkAdapter -VirtualSubnetID 5001;
$iface = Get-NetAdapter $WNVNIC -CimSession "ml110g6-02"
New-NetVirtualizationProviderAddress -InterfaceIndex $iface.InterfaceIndex -ProviderAddress "10.1.1.30" -PrefixLength 24 -CimSession "ml110g6-02"
Invoke-Command -ComputerName "ml110g6-02" -Credential $cred {
Get-VMNetworkAdapter "hv3-blue02" | where {$ .MacAddress -eq "00155D011E04"} | Set-VMNetworkAdapter -VirtualSubnetID 5001;
$iface = Get-NetAdapter $WNVNIC -CimSession "ml110g5-01"
New-NetVirtualizationProviderAddress -InterfaceIndex $iface.InterfaceIndex -ProviderAddress "10.1.1.40" -PrefixLength 24 -CimSession "ml110q5-01"
Invoke-Command -ComputerName "ml110g5-01" -Credential $cred {
Get-VMNetworkAdapter "hv3-blueDG" | where {$_.MacAddress -eq "00155D143C02"} | Set-VMNetworkAdapter -VirtualSubnetID 5002;
```

実装例(3)超応用形

3 台の物理ホスト上に配置された、3 台の仮想マシンで Network Virtualization を実装。

仮想マシン 2 台は Windows Server 、もう1台は Software Router 。

Software Router 経由で Internet と通信可能。

Software Router は異なるセグメント(異なる VSID)に設定、 VSID 間で Routing を実施。

Windows Server 間のトンネル方式は IP Rewrite。

Windows Server と Software Router 間のトンネル方式は NVGRE。

実装例(3) 超応用形・構成図

VSID:5001 \rightarrow **IP** Rewrite Internet **VSID:5002** → **NVGRE** ml110q5-01 Virtual Switch#2 (Interface NAT) hv3-blue01 hv3-blue02 hv3-blueDG (Software Router) MAC: MAC: MAC: 00155D011404 00155D011E04 00155D143C02 CA: CA: CA: 192.168.1.101 192.168.1.102 192.168.2.250 VSID:5001 VSID:5001 VSID:5002 ml110g6-01 ml110g6-02 ml110q5-01 Virtual Switch Virtual Switch Virtual Switch#1 PA: 10.1.1.20 PA: 10.1.1.30 PA: 10.1.1.40

実装例(3)超応用形・PowerShell(1)

```
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5001" -CustomerAddress "192.168.1.101" -ProviderAddress "10.1.1.20" -MACAddress "00155D011404" -Rule "TranslationMethodNAT" -VMName "hv3-blue01" -CimSession "ml110g6-01"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5001" -CustomerAddress "192.168.1.102" -ProviderAddress "10.1.1.30" -MACAddress "00155D011E04" -Rule "TranslationMethodNAT" -VMName "hv3-blue02" -CimSession "ml110g6-01"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5001" -CustomerAddress "192.168.1.1" -ProviderAddress "169.254.254.254" -MACAddress "10101010101" -Rule "TranslationMethodNAT" -VMName "hv3-blue-GW" -CimSession "ml110q6-01"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5002" -CustomerAddress "192.168.2.250" -ProviderAddress "10.1.1.40" -MACAddress "00155D143C02" -Rule "TranslationMethodEncap" -VMName "hv3-blueDG" -CimSession "ml110g6-01"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5002" -CustomerAddress "0.0.0.0" -ProviderAddress "10.1.1.40" -MACAddress "00155D143C02" -Rule "TranslationMethodEncap" -VMName "BlueWildcard" -CimSession "ml110g6-01"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5002" -CustomerAddress "192.168.2.1" -ProviderAddress "169.254.254.253" -MACAddress "1010101011" -Rule "TranslationMethodEncap" -VMName "hv3-blueDGW" -CimSession "ml110g6-
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5001" -CustomerAddress "192.168.1.101" -ProviderAddress "10.1.1.20" -MACAddress "00155D011404" -Rule "TranslationMethodNAT" -VMName "hv3-blue01" -CimSession "ml110q6-02"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5001" -CustomerAddress "192.168.1.102" -ProviderAddress "10.1.1.30" -MACAddress "00155D011E04" -Rule "TranslationMethodNAT" -VMName "hv3-blue02" -CimSession "ml110g6-02"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5001" -CustomerAddress "192.168.1.1" -ProviderAddress "169.254.254.254" -MACAddress "10101010101" -Rule "TranslationMethodNAT" -VMName "hv3-blue-GW" -CimSession "ml110q6-02"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5002" -CustomerAddress "192.168.2.250" -ProviderAddress "10.1.1.40" -MACAddress "00155D143C02" -Rule "TranslationMethodEncap" -VMName "hv3-blueDG" -CimSession "ml110g6-02"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5002" -CustomerAddress "0.0.0.0" -ProviderAddress "10.1.1.40" -MACAddress "00155D143C02" -Rule "TranslationMethodEncap" -VMName "BlueWildcard" -CimSession "ml110g6-02"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5002" -CustomerAddress "192.168.2.1" -ProviderAddress "169.254.254.253" -MACAddress "10101010111" -Rule "TranslationMethodEncap" -VMName "hv3-blueDGW" -CimSession "ml110g6-
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5001" -CustomerAddress "192.168.1.101" -ProviderAddress "10.1.1.20" -MACAddress "00155D011404" -Rule "TranslationMethodNAT" -VMName "hv3-blue01" -CimSession "ml110g5-01"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5001" -CustomerAddress "192.168.1.102" -ProviderAddress "10.1.1.30" -MACAddress "00155D011E04" -Rule "TranslationMethodNAT" -VMName "hv3-blue02" -CimSession "ml110q5-01"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5001" -CustomerAddress "192.168.1.1" -ProviderAddress "169.254.254.254" -MACAddress "10101010101" -Rule "TranslationMethodNAT" -VMName "hv3-blue-GW" -CimSession "ml110q5-01"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5002" -CustomerAddress "192.168.2.250" -ProviderAddress "10.1.1.40" -MACAddress "00155D143C02" -Rule "TranslationMethodEncap" -VMName "hv3-blueDG" -CimSession "ml110g5-01"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5002" -CustomerAddress "0.0.0.0" -ProviderAddress "10.1.1.40" -MACAddress "00155D143C02" -Rule "TranslationMethodEncap" -VMName "BlueWildcard" -CimSession "ml110q5-01"
New-NetVirtualizationLookupRecord -VirtualSubnetID "5002" -CustomerAddress "192.168.2.1" -ProviderAddress "169.254.254.253" -MACAddress "101010101011" -Rule "TranslationMethodEncap" -VMName "hv3-blueDGW" -CimSession "ml110g5-
01"
```

実装例(3)超応用形・PowerShell(2)

```
New-NetVirtualizationCustomerRoute -RoutingDomainID "{11111111-2222-3333-4444-00000005001}" -VirtualSubnetID "5001" -DestinationPrefix "192.168.1.0/24" -NextHop "0.0.0.0" -Metric 255 -CimSession "ml110g6-01" New-NetVirtualizationCustomerRoute -RoutingDomainID "{11111111-2222-3333-4444-00000005001}" -VirtualSubnetID "5002" -DestinationPrefix "192.168.2.0/24" -NextHop "0.0.0.0" -Metric 255 -CimSession "ml110g6-01"
New-NetVirtualizationCustomerRoute -RoutingDomainID "{11111111-2222-3333-4444-00000005001}" -VirtualSubnetID "5002" -DestinationPrefix "0.0.0.0/0" -NextHop "192.168.2.250" -Metric 255 -CimSession "ml110g6-01"
New-NetVirtualizationCustomerRoute -RoutingDomainID "{11111111-2222-3333-4444-00000005001}" -VirtualSubnetID "5001" -DestinationPrefix "192.168.1.0/24" -NextHop "0.0.0.0" -Metric 255 -CimSession "ml110g6-02"
New-NetVirtualizationCustomerRoute -RoutingDomainID "{11111111-2222-3333-4444-00000005001}" -VirtualSubnetID "5002" -DestinationPrefix "192.168.2.0/24" -NextHop "0.0.0.0" -Metric 255 -CimSession "ml110g6-02" New-NetVirtualizationCustomerRoute -RoutingDomainID "{11111111-2222-3333-4444-000000005001}" -VirtualSubnetID "5002" -DestinationPrefix "0.0.0.0/0" -NextHop "192.168.2.250" -Metric 255 -CimSession "ml110g6-02"
New-NetVirtualizationCustomerRoute -RoutingDomainID "{11111111-2222-3333-4444-00000005001}" -VirtualSubnetID "5001" -DestinationPrefix "192.168.1.0/24" -NextHop "0.0.0.0" -Metric 255 -CimSession "ml110g5-01"
New-NetVirtualizationCustomerRoute -RoutingDomainID "{11111111-2222-3333-4444-00000005001}" -VirtualSubnetID "5002" -DestinationPrefix "192.168.2.0/24" -NextHop "0.0.0.0" -Metric 255 -CimSession "ml110g5-01"
New-NetVirtualizationCustomerRoute -RoutingDomainID "{11111111-2222-3333-4444-00000005001}" -VirtualSubnetID "5002" -DestinationPrefix "0.0.0.0/0" -NextHop "192,168,2,250" -Metric 255 -CimSession "ml110g5-01"
$cred = Get-Credential "dob1\text{\text{\text{dob1\text{\text{\text{\text{\text{\text{\text{e}}}}}}}
$WNVNIC = "WNVNIC"
$iface = Get-NetAdapter $WNVNIC -CimSession "ml110g6-01"
New-NetVirtualizationProviderAddress -InterfaceIndex $iface.InterfaceIndex -ProviderAddress "10.1.1.20" -PrefixLength 24 -CimSession "ml110g6-01"
Invoke-Command -ComputerName "ml110g6-01" -Credential $cred {
Get-VMNetworkAdapter "hv3-blue01" | where {$ .MacAddress -eq "00155D011404"} | Set-VMNetworkAdapter -VirtualSubnetID 5001;
$iface = Get-NetAdapter $WNVNIC -CimSession "ml110g6-02"
New-NetVirtualizationProviderAddress -InterfaceIndex $iface.InterfaceIndex -ProviderAddress "10.1.1.30" -PrefixLength 24 -CimSession "ml110g6-02"
Invoke-Command -ComputerName "ml110g6-02" -Credential $cred {
Get-VMNetworkAdapter "hv3-blue02" | where {$ .MacAddress -eq "00155D011E04"} | Set-VMNetworkAdapter -VirtualSubnetID 5001;
$iface = Get-NetAdapter $WNVNIC -CimSession "ml110g5-01"
New-NetVirtualizationProviderAddress -InterfaceIndex $iface.InterfaceIndex -ProviderAddress "10.1.1.40" -PrefixLength 24 -CimSession "ml110q5-01"
Invoke-Command -ComputerName "ml110g5-01" -Credential $cred {
Get-VMNetworkAdapter "hv3-blueDG" | where {$_.MacAddress -eq "00155D143C02"} | Set-VMNetworkAdapter -VirtualSubnetID 5002;
```

Appendix C: サンプルスクリプト

静的 IP アドレス割り当てデモで使用した PowerShell

```
#""内で静的 IP アドレスを割り当てるバーチャルマシン名を指定
$VM Name = "VM Name"
# "" 内で割り当てる VM ネットワーク名を指定
$VMNetwork Name = "VM Network Name"
# "" 内で割り当てる VM サブネット名を指定
$VMSubnet Name = "VM Subnet Name"
# "" 内で割り当てる IP アドレスのプール名を指定
$IPPool Name = "VM Subnet IP Pool"
# "" 内で割り当てる IP アドレスを指定
$VM IPAddress = "xxx.xxx.xxx.xxx"
# "" 内で割り当て済み MAC アドレスを指定
$MACAddr = "xx:xx:xx:xx:xx:xx"
#""内で使用する仮想スイッチ名を指定
$vswitch Name = "Vswitch Name"
$VM = Get-ScVirtualMachine -Name $VM Name
$vNICsMAC = Get-SCVirtualNetworkAdapter -VM $VM
$vNICs = $VM.VirtualNetworkAdapters
$IPPool = Get-SCStaticIPAddressPool -Name $IPPool Name
Grant-SCIPAddress -StaticIPAddressPool $IPPool -GrantToObjectType VirtualNetworkAdapter -GrantToObjectID $vNICs[0].ID -Description $VM.Name -IPAddress
$VM IPAddress
$VirtualNetworkAdapter = Get-SCVirtualNetworkAdapter -Name $VM_Name -ID $vNICs.ID
$VMNetwork = Get-SCVMNetwork -Name $VMNetwork Name
$VMSubnet = Get-SCVMSubnet -Name $VMSubnet Name | where {$ .VMNetwork.ID -eq $VMNetwork.ID}
Set-SCVirtualNetworkAdapter -VirtualNetworkAdapter $VirtualNetworkAdapter -VMNetwork $VMNetwork -VMSubnet $VMSubnet -VirtualNetwork $vswitch Name -
MACAddress $MACAddr -MACAddressType Static -IPv4Address $VM IPAddress -IPv4AddressType Static -IPv6AddressType Dynamic -NoPortClassification -
EnableVMNetworkOptimization $false
```